



自己点検・評価報告書

2022年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構  
奈良工業高等専門学校

## ま え が き

奈良高専は昭和 30 年代からはじまった高度経済成長期に設立した 15 歳からの 5 年一貫の高等教育機関です。「都市型高専としての地の利」「研究力の高さ」「学生の質の高さ」などの強みを活かして、工学に関する教育研究・産学官連携の要としての重要な使命を担ってきました。現在 5 学科 2 専攻で運営し、学生総数は 1,000 名余りです。本科卒業後は就職が約 4 割、進学が約 6 割です。研究・産学官連携では京阪神企業の技術者教育や全国規模での技術相談・共同研究等に積極的に取り組んできました。その結果、外部資金獲得総額は全国 51 国立高専の上位にランクされています。研究力を生かした教育実践により、学生は国内外の研究発表会で数々の受賞をしています。また、課外活動でもロボコンやラグビーをはじめとして大きな成果を挙げております。

近年、生産拠点の海外移転を契機に産業のグローバル化が進み、デジタル化により異分野の技術が融合複合化しています。奈良高専では産業構造の変化を捉え、協働によるイノベティブなモノ・コトづくりができるグローバルエンジニアリーダー人材の育成を目指しております。世界で活躍するグローバルエンジニアに必要な英語コミュニケーション力と専門英語力を備えるとともに異文化を理解し尊重する資質も身につけた学生を養成するために、2018 年度から「グローバル工学協働教育プログラム」を実施しております。また、工学教育に加えて、感性や表現力を涵養する異分野の学びを取り入れ、「しなやかエンジニア教育プログラム」を 2019 年度から導入しております。工学の基礎である STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) にアート (Art) の要素を組み込んだ STEAM 教育への転換です。今後はダイバーシティ・インクルージョンという観点から、グローバル、しなやか、二つの教育プログラムの融合が課題です。

多様化する生産環境の中で、女性エンジニアの比率向上という社会的要請があります。奈良高専では女子学生の比率 30% を目標として推薦入試で女性エンジニアリーダー養成枠を設け、優秀で意欲の高い女子の入学を促しています。本年度の入学生に占める女子の割合は 27% まで高まりました。男性とは異なるアート目線を持つ女性エンジニアが増加し、男性エンジニアとのシナジー効果でイノベーションを引き起こすことができると期待しております。また、女子学生の比率増加に対応して、女性教員の比率向上、女性研究者の研究環境整備と研究力向上など、様々な男女共同参画推進に関する活動を「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)」の事業 (代表機関：奈良女子大学) により実施しております。

奈良高専を含む国立 51 高専の設置機関である独立行政法人国立高等専門学校機構では、企業・自治体・大学などと幅広く連携した事業として「高専発！ Society5.0 型未来技術人材育成事業」を展開しております。この事業は研究の高度化を目標とした GEAR5.0、次世代基盤技術教育のカリキュラム化を目標とした COMPASS5.0 の二つのプロジェクトで構成されています。奈良高専は、令和 3 年度から GEAR5.0 防災・減災・(エネルギー) 分野の中核拠点校としての活動を開始しております。全国各地域からの 5 高専が協力して高専のスケー

ルメリットを活かした研究拠点を創り上げ、分散型エネルギーデバイス、物質変換技術、ICT・AI技術などの開発を推進します。GEAR5.0に先立ち、全学組織として「共通機器管理センター」を設置しており、この共創拠点をハードとソフトが融合する場として活用し、共同研究や産学官連携を進めていきます。

今後は早期エンジニア教育機関である高専の利点を活かし、地域の高等教育機関と連携し、「高専発！高度エンジニアリーダーの育成」を目指します。社会実装力を強化するために企業との共同教育・共同研究を推進し、その果実をリカレント教育に繋げるダイナミックな人材育成・人材支援が実現することを期待しております。本年4月、奈良女子大学に工学部が設置され、奈良県立大学にも工学部設置構想があり、今後は互いに補完し合う協力体制を築いていきたいと思っております。奈良先端科学技術大学院大学とは専攻科との接続性のよさから長年に亘る多くの教育・研究交流実績があり、今後はさらに連携を深めていきたいと考えております。

本年度も引き続きコロナ禍にありますが、昨年度とは異なり、感染防止対策を徹底しつつ、通常の対面による授業を実施し、部活動もできる限り継続しております。高専教育での体験的・能動的な学びはオンラインでは限界があること、時空を共有する集合形式の学修環境は協働・共創の意識形成や実践に繋がります。一方で、対面授業ができない場合、オンライン授業だからこそできることもあり、デジタルとリアルのベストミックスの追求が今後の課題です。適切な運用で、高専教育の質の向上に繋げることが重要です。

本報告書には、教育・研究・社会貢献などについての記載にとどまらず、多岐にわたる実績データを掲載しました。記載内容のみならず学校の管理・運営に関しても忌憚の無いご意見・ご批判をお待ちしております。今後とも、奈良高専の益々の社会貢献に向けて、一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和4年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構  
奈良工業高等専門学校長 後藤 景子

# 目 次

## まえがき

## 本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項	1
1. 1 教務部門	1
1. 2 学生部門	3
1. 3 寮務・グローバル教育部門	5
1. 4 専攻科・研究推進部門	7
1. 5 総務部門	9
1. 6 その他	10
1. 7 管理運営等	15
1. 7. 1 運営組織	15
1. 7. 2 教員組織	18
1. 7. 2. 1 専任教員の配置(現員数)状況	18
1. 7. 2. 2 出身大学等の構成	19
1. 7. 2. 3 年齢構成	20
1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準	21
1. 7. 2. 5 教員人事について	21
1. 7. 3 事務組織	22
1. 7. 4 自己点検・評価	23
第2章 学科総括	25
2. 1 一般教科	25
2. 2 機械工学科	29
2. 3 電気工学科	35
2. 4 電子制御工学科	37
2. 5 情報工学科	41
2. 6 物質化学工学科	48
第3章 研究活動	51
3. 1 教育研究支援室における研究活動	51
3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況	51
第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト	55

## 資料編

### 第1章 教育に関する評価関係

資料1	入試説明会等状況	69
資料2	入学試験状況	71
資料3	編入学試験状況	72
資料4	令和3年度開講科目一覧表	73
資料5	令和3年度年間行事予定表	86
資料6	令和3年度授業時間割表（本科）	88
資料7	令和3年度特別講演会実施一覧	90
資料8	令和3年度第4学年対象進路セミナー実施一覧	91
資料9	令和3年度秋季社会工場見学，専攻科学外研修	91
資料10	年度別博士号取得者一覧	92
資料11	令和3年度クラブ顧問・部長・部員数一覧	93
資料12	令和3年度大会等成績一覧	94
資料13	学生会組織図	96
資料14	学生支援センター相談件数	97
資料15	令和3年度保健室利用学生数	98
資料16	令和2・3年度 学生事故発生件数	99
資料17	入学料免除者数	100
資料18	授業料免除者数	100
資料19	日本学生支援機構貸与奨学生採用者数	101
資料20	日本学生支援機構給付奨学生採用者数	101
資料21	進路状況	102
資料22	単車通学許可申請者	103
資料23	奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート	104
資料24	学生委員会違反件数	105
資料25	寮生数推移調	106
資料26	学寮の日課表	107
資料27	寮生会の組織	108
資料28	令和3年度学寮の年間行事	109
資料29	専攻科入学者選抜方法	110
資料30	年度別専攻科入学状況	111
資料31	専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場(令和4年度)	112
資料32	令和3年度授業時間割（専攻科）	113
資料33	専攻科特別講演会	114
資料34	専攻科修了者の進路	115
資料35	JABEE修了者進路状況	118

資料36	専攻科入学者数の推移（専攻科）	119
資料37	企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科）	120
資料38	専攻科生の論文等の学会発表件数（専攻科）	121
資料39	専攻科生の学外表彰実績（専攻科）	122

## 第2章 研究に関する評価関係

資料40	科学研究費等受入実績調べ	124
資料41	科学研究費採択状況一覧	125
資料42	令和3年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧	126
資料43	令和3年度 共同研究一覧	127
資料44	令和3年度 奨学寄附金一覧	128
資料45	学会賞等の受賞状況	130
資料46	特許等申請・取得状況	135

## 第3章 社会との連携，グローバル教育，男女共同参画推進関係

資料47	公開講座実施実績一覧	137
資料48	令和3年度 学市連携事業一覧	138
資料49	令和3年度 学市連携以外派遣事業一覧	138
資料50	令和3年度 展示会・地域連携事業一覧	138
資料51	施設開放状況一覧	139
資料52	留学生年度別受入一覧表	140
資料53	国際交流 派遣・受入事業一覧	141
資料54	教員の兼業状況	142
資料55	非常勤講師の配置状況	142
資料56	教務部門アンケート関係	143
資料57	総務部門アンケート関係	147

## あとがき

### ※凡例

本書は令和3年度実績を元に令和3年度末時点で点検・評価を行い、令和4年10月に発行したものである。

特に記載のない場合、本書において「昨年度」は「令和2年度」、「本年度」または「今年度」は「令和3年度」、「次年度」は「令和4年度」を指す。

## 本文編

## 第1章 重点課題, その他特筆すべき事項

### 1. 1 教務部門

#### 教務委員会

#### 1 モデルコアカリキュラム (MCC) による教育の質保証の実質化 (継続)

##### 1-1 授業改善の PDCA サイクル化

- ・教育の質保証項目と関連付けて, DP 実験能力, 分野横断型能力の育成, 教学 IR の導入と連動させて機構本部の支援を受けながら検討を開始した.

##### 1-2 補足的なカリキュラムの改定

- ・AI・数理データサイエンス教育の充実に向け, ワーキンググループを設置してカリキュラム検討を始めた. また, シラバス対応を含めた補足的な教育内容の見直しを実施し, 令和4年度から導入することとした.

##### 1-3 MCC 改定を見越したカリキュラム検討

- ・機構の新 MCC 検討 WG にメンバを推薦し, 検討に参画しつつ, 新 MCC の動向を見据え, 全学的なカリキュラム改訂について各科で検討している.

##### 1-4 90 分授業への統一化と新校時への移行

- ・現行カリキュラムでの 90 分授業対応はほぼ完了. また, 昨年度からの新型コロナ対応での新校時を次年度も継続することとした.

#### 2 新制度の検証 (継続)

##### 2-1 入試制度

- ・近畿地区 4 高専間での入試改革 (欠員が生じた際のセーフティネット対策) については, 実施が困難なことから見送った. 推薦入試のあり方について, IR による検討を開始することとした.

##### 2-2 進級認定制度

- ・学年末成績や休退学状況等の情報収集を始めた段階である.

##### 2-3 担任制度

- ・学年主任制度については, 一般教科で単年度ごとのまとめを実施. 次年度中に, 担任制度と合わせて制度の検証を行う予定.

#### 3 その他

##### ○低学年教育の充実化 (CBT の活用を含む)

- ・データに基づく教育改革として, 1-3 年生を対象とした CBT を継続している (結果は年度内に教科担当にフィードバックした). TA 制度については, 次年度から再開す



る方向で検討している。

- 学生の自学自習を支援する環境の整備
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で自習空間の開放時間を短縮せざるを得ない状況であり、検討は進んでいない。
- ICT教育の充実
  - ・授業配信システム等の運用手引きを作成し、授業等で利用できる環境を整備した。新型コロナウイルス感染症の影響で長期間にわたって対面での授業が受講できない学生について、遠隔システム等を用いた受講が可能な環境を試験的に導入した。
- 定期試験実施方法・16週授業などについての見直し
  - ・近畿地区にある高専とも情報を共有した。次年度は、本年度と同じ方針で対応することとした。
- 関係業務の効率化（制度や手続き等の見直し）
  - ・前期末成績や中間成績について、電子媒体での閲覧を試行した。また、新型コロナウイルスワクチン接種にかかる公欠手続についてその簡素化を行った。卒業・進級認定資料の電子化については情報セキュリティ面から引き続き検討することとした。
- 学生指導必携の改訂
  - ・必要な箇所の変更を行った。
- 出欠管理方法の検討
  - ・Web 出欠簿利用を継続することとし、紙代替の可能性について引き続き検討することとした。

## 教育支援センター

- 1 メディアリテラシーの向上（継続）
  - ・e-Learning 等により向上を図る検討を行った。
- 2 利用環境の充実と利用の促進
  - ・常に活動基準がレベル 1 以上であったため、情報処理演習室の積極的な利用促進は行わなかった。
- 3 その他
  - 今後の ICT 環境の整備の方向性の検討
    - ・ICT 教育対応のための体制整備として、教育支援センター規程の改正を行った。
  - 情報リテラシー教育及び情報セキュリティー教育の充実
    - ・教務委員会による AI 数理データサイエンス教育の検討 WG と連携し、令和 4 年度からシラバス案に基づき「情報リテラシー」科目を実施する。

○Microsoft365 アカウントの管理方法の整理

- ・機構による命名規則の改正に伴う表示名変更を全アカウントに適用するとともに、管理方法の整理を検討した。

○無線 LAN の教育・研究への利用促進を考えた AP の増設・運用方針の整理

- ・各学科の設置場所の要望を調査するとともに運用方針を整理した。

○図書館等の施設・設備の利用促進

- ・常に活動基準がレベル 1 以上であったため、積極的な利用促進は行わなかったが、全学年の学生が自動貸出返却機での貸出処理（非対面での貸出処理）が可能としたこと及び新規書架の購入、名誉教授からの寄贈図書のコナー設置等により利用促進に努めた。

○FAB スペースの運用方針の整理

- ・教育支援センター規程及び教育研究支援室設置規程の改正を行い、FAB スペースの管理に関する業務を明確化し、運用方針を整理した。

## 1. 2 学生部門

### 学生委員会

- 1 課外活動の方針および計画の公表や課外活動指導員の配置など、活動運営に関する事項の継続的な改善と検討（継続）
  - ・課外活動の活動時間管理について、令和元年度より準備しつつも令和 2 年度はコロナ禍の影響により実施できなかった「施設・設備使用許可願（兼月間計画表／活動報告書）」の運用を開始し、実際に活動した時間の管理をできる体制とした。課外活動指導員の配置については、近畿地区高専の動向を伺いつつ検討を重ねているものの、本校においての必要性は見いだせていないところである。
- 2 運転免許取得に関する要項の見直しについて検討（新規）
  - ・令和 2 年度より取り組んできた要項の改正について、9 月運営会議で承認された。11 月より学生に対する周知期間を設け、令和 4 年度 4 月より運用を開始する。また、4 月からの運用方針について、違反事案に対しては原則改正されたものを適用するが、このことにより学生に不利益が生じる場合は、その都度学生委員会に諮ることを 2 月の委員会で確認した。
- 3 処分にとまなう停学期間と修業年限の関係を整理し、学生に修業年限不足による不利益が生じないよう規則の改正等の検討する（新規）
  - ・近畿地区高専の状況を確認するため、9 月 17 日（金）開催「令和 3 年度近畿地区高等専門学校学生主事連絡協議会」の承合事項とし、各校と情報交換を行った。11 月

より学則改正案の作成に取りかかり、学内各部署への調整を進めた。改正案について、2月運営会議で承認され、令和4年度4月より運用を開始する。

- 4 セミナーや講演会を通した学生生活の充実と、校内整備を通した安全対策（継続）
  - ・セミナーや講演会については、コロナ禍により対面での開催は難しいところであるがなるべく開催できるよう、講師を招聘して講演をライブ配信し、学生は移動教室で受講するなどの方法により行った。また、4年生を対象としていた「社会人教育セミナー」について、民法改正に伴う成年年齢引き下げにより、成年年齢に達する以前の2年生を対象とするよう変更する必要があることから、他の講演会の対象学年についても見直しを行い、令和4年度以降、段階的に講演会対象学年を変更することとした。校内整備に係る安全対策の一環として、ものづくり工房エアコンの利きが悪く、課外活動中の熱中症が懸念されることから、エアコンの清掃を行った。
- 5 授業料免除・奨学金など就学支援体制の強化と業務の効率化（継続）
  - ・府県が独自に行っている高校生等奨学給付金制度について、3年生までの全学生に対し対象となるかのアンケートを行い、対象者に制度説明を行うなど支援体制の強化を図った。
- 6 学生の規範意識の向上と、自主的・自発的活動の涵養（継続）
  - ・コロナ禍で必要となる規範意識向上の一つとして、学生委員会による登下校中のマスク着用指導ならびに昼食時の黙食指導を行った。
- 7 学生委員会と学生支援センターの連携（継続）
  - ・学生相談等の内容により学生委員会と学生支援センターにて連携を行い、適切な対応に努めた。
- 8 課外活動のステップの見直し等、新型コロナウイルス感染症対策の検討（継続）
  - ・令和2年度に課外活動の段階的な開始にあたって作成した「課外活動のステップ」について、開始に限定するのではなく、新型コロナウイルス感染症状況に応じた課外活動の段階を定めた内容とするよう見直しを行い、運用を行った。

#### 学生支援センター

- 1 学生全体の心の状態の把握のために適当な時期にアンケート調査を実施する（継続）
  - ・全学生に対し、8月に適応感尺度調査を行ったものの回答率が悪く、10月20日（水）に学級担任に対し、再度アンケート調査の協力依頼を行った。再度の協力依頼を行っても回答率が悪く、来年度はより効果的な時期および方法について検討したうえで実施する。
- 2 令和2年7月に制定された「奈良工業高等専門学校いじめ防止等のための基本計画」

及び令和 3 年度の「いじめ防止プログラム」に基づいて、いじめの防止に取り組む（新規）

- ・10月20日（水）より教職員を対象とした「奈良工業高等専門学校いじめ防止等のための基本計画」等，本校のいじめに関する取組内容の理解度チェックを，Forms を利用して行った．また，11月11日（木）～18日（木）に，学生を対象としたいじめ防止週間を設け，いじめに関するアンケートを実施し，いじめの実態把握と合わせて啓蒙活動を行った．ただし，適応感尺度調査同様，当該アンケートについても回答率が悪く，来年度はより効果的な時期および方法，記名式・無記名式について検討したうえで実施する．
- 3 合理的配慮のためのフローに基づいて具体的支援内容を協議しながら対象学生の支援を実施する（継続）
  - ・配慮の申し出があった学生に対し，学生支援センター運営委員会にて具体的支援を協議し，必要な支援を行った．
- 4 学生支援センターの機能的な運営体制の構築について検討する（継続）
  - ・本年度は専任のセンター担当者が無くなったため，専任担当者の行っていた業務を，センター担当教員，事務職員，SSW 等で分担して，行っている．併せて，今年度の体制での不具合の是正，効率化を検討した．
- 5 学生のメンタルヘルスを向上させる方策について検討する（継続）
  - ・昨年に引き続き，1年生向けに教室に出向いての，支援センターの仕組みの講演や，昨年度より新設された学生支援ルームを「心の休憩室」と名付け，学生のクールダウン等に利用する運用を開始した．
- 6 学生支援に関する情報管理と共有の在り方について検討する（継続）
  - ・学生支援に関しては担任との連携が重要であるが，センターとしての独立も確保する必要もある．これらの線引きの指針について引き続き検討中である．
- 7 人権教育およびいじめ防止対策について学外機関と連携して推進する（継続）
  - ・人権・いじめ教育について，学外機関に講師を依頼し，講演を行った．コロナ禍の影響により講師派遣が難しい場合は，外部団体が推奨する動画を視聴させ理解度アンケートに回答させることにより行った．

### 1. 3 寮務・グローバル教育部門

#### 寮務委員会

##### 1 安全な寮生活のための環境整備

1-1 推薦入試制度の変更（女性エンジニアリーダー養成枠）に伴い女子寮生数の増加

が見込まれるため、女子寮生の定員増が具体化した際の寮の在り方について、規則や宿直の方法などの検討（継続）

- ・女子寮生の定員増を見込み、寮のあり方の検討を行い、まずは令和4年度からの土日祝勤務の非常勤職員に女性を雇用することとした。
- 令和4年度概算要求事業に申請（具体的には管理棟の7部屋を女子寮居室化することで女子寮生定員を増加）
- ・令和4年度概算要求事業の申請が採択され、管理棟の7部屋を女子寮居室化し女子寮生定員の増加に対応することとした。
- 女子寮生への生活指導やケアを行っていただくために、寮務委員以外の女性教員の寮業務への協力を検討
- ・継続して検討を行うこととした。

#### 1-2 国際交流を促進させるため、飛鳥寮の一部のシェアルーム化を検討（新規）

- 令和4年度概算要求事業に申請
- ・令和4年度概算要求事業の申請が採択され、国際交流を促進させるために飛鳥寮の一部をシェアルーム化することとした。

#### 1-3 学寮定員管理の見直し（新規）

- 高学年（4,5年生）の入寮定員を制限し、低学年（1~3年生）の入寮定員を増加
- ・寮務委員会で議論を継続中で、シェアルーム部分についてはグローバル委員会においても具体的な活用方法の検討を継続して行うこととした。

### 2 寮業務の効率化

- 2-1 教員の負担軽減を目的として、土日祝宿直の外注化の実現した際を見据え、宿直に関する規程や申し合わせの改訂（継続）
- ・未着手
- 外注化の実現に向けて仕様書の充実を図り、委託先を探し見積りを依頼
- ・未着手

## グローバル教育センター

### 1 学術交流の活性化

#### 1-1 短期留学生の受け入れ（継続）

- ナンヤン・ポリテクニク（NYP）、リパブリック・ポリテクニク（RP）、香港 IVE、勤益科技大
- ・コロナ禍のため本年度の受け入れを断念した。

#### 1-2 国際交流事業の推進（継続）

- 協定締結校との交流推進
  - ・協定締結校の NYP と 9～11 月にかけてオンライン交流事業を行った。
- 海外 KOSEN 事業への支援
  - ・結果的に派遣教員なしであったが、タイ高専事業の派遣教員募集に協力した。
- 海外インターンシップ派遣先（2 週間程度）の新規開拓
- 新型コロナウイルス禍においても学术交流の継続が可能な方策の検討
  - ・オンラインで AYF に参加するなど、コロナ禍においても積極的に学术交流を行った。
- 英語 HP の充実（総務部門と連携）
  - ・総務部門と連携し英語 HP の充実を図った。

## 2 国際教育の活性化

### 2-1 グローバルエンジニア養成教育プログラム（GEP）/グローバル工学協働教育プログラム（GECEP）事業の推進（継続）

- 関係委員会（寮務，学生，教務，専攻科，女性エンジニア養成推進等）と連携し実施
  - ・関係委員会と連携し実施した。

### 2-2 語学教育の推進（継続）

- 国際学会での学生の発表を促進
  - ・国際学会での学生の発表を促進した結果，国際学会奨励金の申請数が昨年度の 5 件から今年度は 15 件に増加した。
- TOEIC-IP テストの実施
- 英語学習表彰（優秀賞，奨励賞）の実施
  - ・英語学習表彰を実施した結果，今年度は優秀賞を 12 名，奨励賞を 15 名が受賞した。

## 3 留学生指導

- 令和 3 年度の正規留学生の受け入れ（継続）
- 寮務係と連携した学業及び生活指導，グローバル教育プログラム事業への参加促進
- マレーシア政府派遣留学生のための集中講義支援
  - ・1 月に教員 1 名がオンライン集中講義の講師として支援を行った。

## 1. 4 専攻科・研究推進部門

### 専攻科委員会

#### 1 連携教育による新たな人材育成（継続）

- ・豊橋技術科学大学との連携教育プログラム「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」を履修していた専攻科 2 年生 3 名は，コロナ禍の中，困難な面もあったが無事に専攻科を修了するとともに，豊橋技術科学大学を卒業し，学位を取得できた。

- ・この 2 年間で明らかになった問題点，例えば連携プログラムの学生が一方の修了要件・卒業要件のみを満たす場合の取り扱いや大学院の受験資格等について，文部科学省や高専機構と協議し改善を図った。
  - ・次年度の新規履修生より，プログラム実施責任者から専攻科委員会に業務が移譲されるため，連携教育プログラム運営マニュアルの作成を行った。
- 2 近隣大学・大学院との教育研究の連携に向けた検討（継続）
- ・奈良先端科学技術大学院大学との包括協定の具体的な活動として，共同研究・学生の人材育成を目指した教育研究の連携について，早期の制度化を目指していたが，コロナ禍の影響で目立った進展はなかった。
  - ・高専機構の予算事項として掲載されている「高等専門学校と大学の連携教育プログラムの構築支援」への対応を前提とした奈良先端科学技術大学院大学との人材育成モデル案を作成した。
- 3 専攻科特例認定にかかる取り組み（継続）
- ・高専機構が実施している「研究力強化プログラム」に参画している 4 名のプログラム対象者に対して，2 名の研究活動メンターが論文投稿に向けた継続的な研究進捗管理と成果管理を行った結果，2 名の教員が「適」の追加認定を受けた。
  - ・本校専攻科の次回の特例適用認定の審査は令和 5 年度に予定されており，研究業績の積み増し等，学修総まとめ科目担当教員に対して早めに準備をするように依頼をした。

## 産学協働研究センター

- 1 共通機器管理センターの体制強化と展開（継続）
- ・共通機器管理センター外で管理されている機器について，予約フォームを作成することで受け付け事務の効率化を図った。
  - ・今年度の共用率（機器の管理担当者以外による利用）は 55.1%と，共用開始時の 50.9%（令和元年度）から増加した。今後，自立化を見据えた学内の体制整備を進める必要がある。
- 2 奈良高専地域イノベーションコンソーシアムの充実（継続）
- ・会員企業に対して実施したアンケートの結果を踏まえて内容を検討した総会は，参加企業からの肯定的な意見が多かった。運営アンケートを元にした改善の実施は次年度も継続させ，会員企業に求められる活動を，本校の活動に合う形で実施するよう検討を続ける。
- 3 外部資金獲得に関する検証と分析及び計画の検討（新規）

- ・今年度の科研費申請率は 84%と前年度の 68%を上回った一方で、採択率は 13%（前年度 27%）であり、間接経費の獲得総額を増やすためにも科研費の採択率向上を支援する必要がある。
  - ・イノベーションコンソーシアム会費を原資とした研究支援に関する執行具体案として、「若手・新任教員の研究推進を目的とした研究費補助制度」が作成され、次年度より開始する。科研費の応募・採択状況を審査基準に加味したことで科研費の申請率・採択率向上への効果が期待される。
- 4 センター（産学系）業務の整理（新規）
- ・臨時産学協働研究センター運営委員会を Teams の機能 Power Automate を用いる方法へ変更したことで回答率の向上（88.2%から 98.8%へ）、審議日数の短縮（5 日から 2.9 日）、事務担当者の作業工程減少につながった。

## 研究推進

- 1 研究費の傾斜配分方法の検討（継続）
- ・科学研究費の申請・採択や外部資金の獲得を基に傾斜配分してきた研究費を見直し、科研費の採択率、申請率を上げるための施策として、科学研究費のみを基にした新しい配分方法を決定した。
  - ・奈良高専地域イノベーションコンソーシアムの年会費を原資とする若手・新任教員の研究推進を目的とした研究費補助制度を次年度より実施することとなった。
- 2 GEAR5.0 採択事業の推進（新規）
- ・本年度に採択された GEAR5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）事業の推進のために、FD による学内周知、学内体制の整備を行った。
  - ・特命助教 2 名および常勤事務職員 1 名を雇用するとともに、3 名の教員を参画メンバーとして加えて、体制の充実を図った。
  - ・GEAR5.0 事業に係る GEAR-KEA の選任を行った。
  - ・GEAR5.0 の HP 立ち上げ、プレスリリース等、広報の面からサポートを行った。

## 1. 5 総務部門

### 総務委員会

- 1 将来計画の立案（新規）
- 今後 10 年間の本校の進むべき方向性について議論し、計画を立案する。
- ・アクションプランの骨子をまとめた。来年度前半に細部についてまとめる。
- 2 継続的な教育の質保証の実施（継続）



○昨年度までの認証評価対応で決めた事項を実質化する。すなわち、認証評価が目的ではなくて、手段になるように、教育改善に本当に役立つ形を目指す活動を行う。具体的には、①認証評価の審査で懸念とされた項目の改善、②昨年度決まったルールの見える化、周知、③教育の質保証の意義についての周知

- ・昨年度までの認証評価対応で決定された事項を実質化することを目標としていたが、昨年度の審査の現状把握を委員長、副委員長で行うまでで終わってしまった。

### 3 FDの充実（新規）

○他高専・高専機構、他大学、小中高の動向など、内部だけではなく外部の情報の提供も目指す。

- ・他高専・高専機構、他大学、小中高の動向など、内部だけではなく外部の情報も提供することを目指していたが、結果として熊本高専と高専機構理事の講演に留まった。

## 広報センター

### 1 広報戦略の立案（新規）

○数値データの基づく中期的な広報戦略を立案する。今後10年の動向を見据え、今後5年ぐらい重点的に実施する内容（「だれに」、「何を」、「いつ」、「どこで」、「どのよう」）を決定する。

- ・中学校別の受験生データ整理に留まった。

### 2 本校公式ホームページのリニューアルの検討（継続）

○限られた予算の中で、リニューアルできるページの検討を行う。具体的には、入試広報用のページについてのリニューアルができないかを検討する。

- ・WGでサーバーも取り扱いについては決定できたが、コンテンツは未検討。R5年度に本校公式Webページ全体をリニューアルできるようにWGは継続する。

### 3 本校在学生・保護者への効果的な広報の検討（新規）

○在学生や保護者に対する広報活動の目的や手段を整理し、効果的な広報活動を行う。

- ・具体的な活動ができなかった。

## 1.6 その他

### 教育研究支援室

#### 1 新体制の整備

1-1 班編成廃止に伴う人員の再配置（継続）

- ・令和4年度から本格運用を予定している「ものづくり領域（3名）」、「機械・電気・電子制御領域（3名）」、「ネットワーク・情報領域（3名）」、「機器分析、化学領域（2

名)」の体制において、令和4年度に技術職員の異動等が予定されている事から、人員配置の見直しを行った。

- ・授業支援における相互支援体制を実現するため、領域内で問題点の洗い出しを行い、各領域間で情報を共有した。また、領域間で受渡しが必要な業務や領域を跨ぐ必要のある業務等について整理を行った。
- ・新体制下における授業支援の人員配置を適正化し、相互支援体制を確立した状況で、許容可能な支援体制を明確にするための方法について模索している。また、授業支援に関連する業務（授業準備や学生対応等）の把握・整理は引き続き検討課題となっている。
- ・実験・実習への支援について、今年度末で移行措置期間が終了することに伴い、令和4年度前期の授業支援を新体制での人員配置により分担を行った。

#### 1-2 業務内容の把握・整理（依頼申請書による業務、および依頼申請書を必要としない業務の精査）（継続）

- ・年間行事予定に掲載されている行事等への支援や技術職員が配置されている各センターからの支援依頼等「業務支援依頼申請書」を不要とした事により、今年度（2月28日現在）の「業務支援依頼申請書」提出は17件と、組織改編初年度（平成30年度）の53件から大幅に削減する事が出来た。令和4年度も引き続き「業務支援依頼申請書」を不要とする業務の精査を行っていく。
- ・時間割担当の教務委員との連携体制が定着し、令和4年度前期時間割のコマ入れ作業については、担当教務委員の交代はあったが作業の進捗に影響なく進めることが出来た。令和4年度も引き続き連携体制を維持していく。

#### 2 教育研究支援室居室の運用（継続）

- ・教育研究支援室（本館北棟3階）について、学生へ向けて正式な周知は出来ていないが、各技術職員が質問や課題等の提出場所として学生に指示することにより、技術職員が所在する場所としての認知度向上を図っており、その効果が徐々に現れてきている。

#### 3 実習工場の位置付け再確認（継続）

- ・学内共同利用施設としての利便性を保ちながら、新体制下における人員配置での運用を目指し業務内容を精査する作業を進め、最終調整を行った。
- ・学内利用者の利便性向上等を目的とするWeb予約システムについて、試作作業が遅れており年度内に試行を行うことが難しい状況となっている。令和4年度に継続して作業を進める予定である。
- ・実習工場の運用を【教員と技術職員が協働で行う】体制について、令和4年度からの

学内組織体制の見直しと合わせて実施できるよう準備を進めている。

## 男女共同参画推進委員会

### 1 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）（継続）

#### ○女性研究者の研究力向上を図るための体制及び取組内容

- ・ダイバーシティ推進センター運営委員会及び連携機関長会議，実務者会議に参加し事業内容について協議を行った。
- ・「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」に参加し，連携可能な部分を検討している。
- ・女性研究者や若手研究者のための研究支援システム（きららか研究支援員制度）を継続実施し，7名に支援員を配置した。
- ・女性研究者のスタートアップ，研究力向上の為，学内予算により，新任の女性教員を対象に女性教員研究環境支援として，スタートアップのための研究費支援を実施し，研究立ち上げ・研究力向上を支援した（2名の女性教員）。
- ・代表機関である奈良女子大学が運用している保育システム（ならっこネット）の共同の推進のため，学内周知を行った。

#### ○女性研究者の上位職への登用に向けた取組

- ・奈良女子大学や国立高専機構主催及び他機関の実施する研修会・講演会について学内告知を行い，計3名の参加があった。
- ・5月28日，8月5日 女性研究者採用のため，2学科で各1名，女性限定公募の応募を行った。
- ・11月24日，1月7日 1学科1名ずつで，女性優先公募を行った。

#### ○連携機関等の研究者への支援を通じた好事例の展開

- ・本校のホームページを利用し，内外へ本校のダイバーシティの取り組みについて情報発信を行っている。
- ・代表機関に設置したワークライフバランス支援相談室の共同利用をするため，リーフレットの配布および掲示を行っている。
- ・女性研究者の研究業績をあげるために，奈良女子大学と武庫川女子大学で制定した優秀な女性研究者への研究賞を継続実施した（今年度本校からは該当者なし）。
- ・共同研究スタートアップ支援を3機関連携で共同実施し，本校と武庫川女子大学の研究者で申請した1件が採択された。また，昨年度採択された申請については，4機関で今年度も継続して共同研究を実施した。

○意識啓発や組織改革等を図るための取組

- ・男女共同参画推進委員会のホームページを利用して女性研究者の活躍を広報し、意識啓発を行う。研究者育成のために必要な女子学生教育に関する情報交換会を3月にメールで近畿地区高専教員と実施した。
- ・ダイバーシティに関する本校独自の講演会を3月10日に同志社大学政策学部・総合政策科学研究科の藤本哲史教授を講師として「理系女性研究者のキャリア形成と支援」という題目で実施した。

○女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組

- ・研究力向上およびリーダー養成のため本校女子学生、奈良県周辺地域企業、連携機関向けのリーダー養成セミナー（きららかセミナー）を10月12日、19日、26日、11月2日、9日、16日、12月7日、14日と計8回実施し、のべ9名の外部参加者があった。

### 女性エンジニア養成推進センター

1 しなやかエンジニア教育プログラムベーシックコースの円滑な実施（継続）

- 本年度は、3年生に対する授業も開始される。開講コマ数が倍増するため、ゲスト講師の選定や日程調整などを効率的に行い、円滑な実施に努める。
- ・春休みにWSを実施、延期したプログラムもおおむね2月などに実施した。

2 しなやかエンジニア教育プログラムアドバンストコースの円滑な実施（継続）

- 専攻科2年生の科目が開始され、カリキュラムが完成する。新科目の「ビジネスデザイン」の円滑な実施と、カリキュラム全体の評価を行う。
- ・アンケート結果では、おおむね好評であった。

3 高専フォーラムのオーガナイズドセッションの開催など全国高専への水平展開（継続）

- 引き続き、全国高専への水平展開を目指す。
- ・他高専への周知が出来なかった。

4 プログラムの教育成果の発信による認知度の向上（新規）

- プログラムの教育成果を学内外に発信することにより、プログラムの認知度の向上に努める。
- ・春に学内に成果報告会を行った。日本工学教育協会の講演大会での女性エンジニア養成のオーガナイズドセッションで発表した。

### 共通機器管理センター

1 組織力の強化（規程改正）（新規）

- センターの業務計画及び管理運営に関すること

来年度より四半期に一度定期的に会議を行い、各学科からの意見を踏まえて運営方針や以下について検討していくこととした。

- ・外部利用収入の増加にともなう、振替対応とする財源について
- ・外内部収入の検討を開始。年間2万円の利用料聴取について提案。

○センターの利用計画、総括及び連絡調整に関すること

- ・令和2年4月にセンター設置後、「先端研究設備整備補助事業」事業の助成により、設備の共用化と遠隔自動化を進めることで共用率（機器の管理担当者以外による利用）が令和3年度は55.1%と共用開始時の50.9%（令和元年度）から増加している。今年度の機器共用実績はコロナ禍の影響で外部からの測定を制限したものの、30件643千円となった。

2 「機器共用」の高専モデルの構築への取組（新規）

- ・共通機器管理センター管理外機器についても予約フォームを作成することで受付事務の効率化を図った。
- ・高専機構による新しい試みである「共同調達」においては、米子高専と協力して採択され、GC-MSの導入に成功した。今後も積極的に更新や新規設備を導入しながら地域の産学ニーズに即した提案を行っていく。

## 施設整備委員会

1 キャンパスマスタープランの再検討（継続）

○キャンパスマスタープランの更新に向けて整備計画を盛り込んだプラン作成を検討する。

- ・全体のキャンパスマスタープラン見直しよりも、建物改修計画の立案を先に進めることとし、講義棟、本館北棟の改修プランを纏める予定であったが、方向性が纏まらず来年度の課題となっている。

## 人事管理

1 第4期教員人員枠（教育体制整備）に基づく人事マネジメント（継続）

- ・基礎人員枠については引き続き達成している。専門学科について、要件を満たした場合、女性教員限定枠1名の配置を継続する。

2 働き方改革関連法の対応（年休5日取得、長時間労働者の健康管理）（継続）

- ・人事係より教職員向けに年休取得に係る通知を適宜発信した。引き続き対応する。

## 学内管理運営

- 1 危機管理マニュアルの整備（感染症対応の整備）（継続）
  - ・新型コロナウイルス感染防止対策に関してルールの新設，実行を行った。
- 2 行事等の削減，見直し（継続）
  - ・ペーパーレス化の実施，新聞切抜き業務等の総務課に属する一部業務を見直した。
- 3 情報関係業務体制の整備（継続）
  - ・要機密情報格付規程やソフトウェア管理規程を整備し，必須の規程整備は完了した。規程の見直しは今後も適宜行う。また，電子メールポリシーについては令和3年度において議論できなかったため，今後に議論を行う。
  - ・情報セキュリティ管理委員会を4回（4月，6月，9月，3月）開催し，情報セキュリティ推進委員会を2回（7月，11月）開催した。

## その他特記案件

○学内運営組織の再編成案作成

- ・5部門の人員構成の一部見直しと総数の削減（37名）を行った。これに伴い，委員会及びセンター規程の一部改正を行った。

## 1. 7 管理運営等

### 1. 7. 1 運営組織

H29年度に，今後の人員削減への対応，また学内業務の効率化，教員業務の平滑化，責任体制の明確化，運営体制の強化及び特色化等を目的として，校長補佐（グローバル教育担当，研究推進担当，総務担当）を新設，全学委員会と5部門に組織される委員が兼務となる再編案を策定した。新設の校長補佐はそれぞれ寮務・グローバル教育部門，専攻科・研究推進部門及び総務部門を担当し，既存の教務部門，学生部門と合わせ5部門体制とする。

翌H30年度からこの再編の実施運営を開始し，R2年度に再編後の運営体制について検証及び運営組織の最適化を開始した。優れた点として業務分担が明確となったこと，委員会数の削減が進んだことが挙げられたが，改善すべき点として教員個人の業務軽減，情報共有，構成員からの意見の吸い上げがされていないこと及び部門横断的な業務に係る連携が不十分であることが挙げられた他，令和元年度からの第4期中期目標・計画期間における人員枠の適用により，専門学科の教員枠が削減され部門兼任が必要となったことも挙げられた。

令和元年度には，第1学年の学年主任を新たに配置し，学生指導の面において学科の枠

を超え学年を通して指導方針を統一した他、施設整備委員会委員に3主事及び事務部長を追加し、施設整備計画を学内で共有できる体制とした。また、将来計画委員会と点検・評価委員会を総務委員会に統合し、組織体制を整えた。

R2年度には、学年主任を第1学年だけでなく第2学年にも配置した他、我が国の研究開発投資効果の最大化等のため研究設備・機器の共用化を促進させる科学技術振興機構（JST）先端研究基盤共用促進事業（H29年度新たな共用システム導入支援プログラム）の後継として共通機器管理センターを起ち上げた。また業務合理化及び業務に応じた人員の適正配置のため、事務組織について組織体制を整えた。

R3年度には、前年度から開始した学内運営組織体制の再編の検討、作業を進めた。その結果、5部門体制を維持することとし、各部門の人員構成の一部見直しと総数の削減を行った。今後の検討課題として整理された幾つかの点についてR4年度以降も引き続き検討していく。

※R3年度の運営組織図を次ページに示す。

## R3年度の運営組織図





## 1. 7. 2 教員組織

### 1. 7. 2. 1 専任教員の配置（現員数）状況

本校教員数の配置（現員数）は次のとおりである。

（令和4年5月1日現在）

所属 職名	校 長	一般教科	機械 工学科	電気 工学科	電子制御 工学科	情報 工学科	物質化学 工学科	合 計
校 長	1							1
教 授		5	5	3	3	5	6	27
准教授		9	3	5	4	4	5	30
講 師		3		1				4
助 教		6		1	2	1	1	11
合 計	1	23	8	10	9	10	12	73

※その他に次の教員が在籍。

電子制御工学科 嘱託教授1名（短時間再雇用教員）

### 1. 7. 2. 2 出身大学等の構成

本校教員の出身大学等の構成は、次のとおりである。

(令和4年5月1日現在)

大 学 名	人数	大 学 名	人数
北海道大学	2	徳島大学	1
東北大学	1	九州大学	1
東京大学	1	佐賀大学	1
東京農工大学	1	宮崎大学	1
電気通信大学	1	琉球大学	1
金沢大学	2	富山県立大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1	大阪府立大学	3
岐阜大学	1	大阪市立大学	3
豊橋技術科学大学	5	神戸市立外国語大学	1
名古屋工業大学	1	東京工芸大学	1
名古屋大学	1	法政大学	1
京都大学	4	明治大学	1
奈良教育大学	4	同志社大学	4
奈良女子大学	1	立命館大学	1
奈良先端科学技術大学院大学	4	関西大学	1
大阪大学	10	近畿大学	1
神戸大学	3	大阪電気通信大学	1
広島大学	1	関西学院大学	1
鳥取大学	1	その他	1
岡山大学	1	(うち本校卒業者)	7
山口大学	1		

### 1. 7. 2. 3 年齢構成

本校教員の年齢構成は次のとおりである。

全教員73名の平均年齢は47.2歳であり, そのうち教授(27名)は54.2歳, 准教授(30名)は45.8歳, 講師(4名)は38.3歳, 助教(11名)は34.9歳である(次表参照)。

(令和4年5月1日現在)

年 齢	校 長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
67	1						1
66							0
65							0
64							0
63		1					1
62		1	1				2
61		2					2
60		2	1				3
59			1				1
58		4	1				5
57							0
56		1					1
55		3					3
54							0
53		4	1				5
52		1	1				2
51							0
50			1				1
49		3			1		4
48			2				2
47		3	2				5
46		1	3				4
45		1		1			2
44			4				4
43			2				2
42			2				2
41			1				1
40			1				1
39			2	1			3
38			1				1
37			2		1		3
36			1		2		3
35				1	1		2
34				1			1
33					3		3
32					1		1
31					1		1
30							0
29					1		1
合計	1	27	30	4	11	0	73

#### 1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準

教員の採用・昇任等については優秀な人材をより公正に選考するため、校長の諮問機関である人事委員会において、採用の場合は教員選考委員会から、昇任の場合は学科から推薦のあった任用候補者について、奈良工業高等専門学校教員選考基準を踏まえて審査している。

#### 1. 7. 2. 5 教員人事について

新規採用については、教員の退職等に伴う補充人事であるのが一般的である。したがって、当該教員の専門分野を継承する人材の採用が原則となっている。一方、H29年度以降は学生支援専任教員や女性エンジニア養成推進センター担当教員を採用する等、全学的な重点課題へ対応するための新たな教員人事も行なっている。

H30年11月には、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保する観点から、人事委員会の下に教員選考委員会を新設した。当委員会において公募要領の作成並びに応募書類及び面接（模擬授業を含む）により、候補者の選考審査を行うこととした。採用にあたっては採用予定者を人事委員会へ推薦し審議する。人事委員会の承認後、校長が最終的な決定を行なっている。

なお、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標にも掲げられているとおり、優れた教員を確保するため、教授、准教授について本校以外の勤務経験者、長期海外研究・経済協力者の占める割合を向上させることや、高専のみならず、大学を含めて採用校以外への人事交流を活性化させること等が必要である。

### 1. 7. 3 事務組織

本校における、事務部職員の配置状況は次のとおりである。

(令和4年5月1日現在)

課名	係名	部長	課長補佐・ 専門員		係長・ 専門員		主任		一般職員		看護師	計	再雇用・ 有期雇用・ 非常勤					合計	
			事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系			再雇用職員	事務補佐員	技術補佐員	技能補佐員	臨時用務員		その他
部長		1										1							1
総務課	課長	1										1							1
	課長補佐		2									2							2
	総務係				1		1					2		1					3
	人事係				1				1			2		1					3
	企画・研究協力係				1		1		1			3						1	4
	事務電算担当				1							1							1
	財務係				1		1		1			3		2					5
	契約係				1		2		1			4		2					6
	施設係					1		1				2							2
	計		1	2	0	6	1	5	1	4	0	0	20	0	6	0	0	0	1
学生課	課長	1										1							1
	教務係				1		2		1			4		1					5
	学生係				1		1		1		1	4	1	1				4	10
	寮務係								1			1		2		4	1		8
	入試係				1		1					2							2
	図書・国際交流係				1							1	1	3					5
	計		1	0	0	4	0	4	0	3	0	1	13	2	7	0	4	1	4
教育研究支援室				3		6						11			3				14
電子制御工学科												0		1					1
物質化学工学科												0			1				1
合計		3	2	3	10	7	9	1	7	2	1	45	2	14	4	4	1	5	75

#### 1. 7. 4 自己点検・評価

本章においては、管理運営等にかかるこれまでの取り組みを自己点検・評価し、次年度以降の課題を明確にして、その改善を図る。

##### ○運営組織について

- ・ H29 年度に国際交流委員会と留学生委員会をグローバル教育センター運営委員会に統合し、更なるグローバル教育推進のための体制を整えたことは、高専機構が重要事項として掲げている「国際化」に対応しており、優れた取り組みである。
- ・ H30 年度に校長補佐にグローバル教育，研究推進，総務の各担当を新設し，それぞれ寮務・グローバル教育，専攻科・研究推進，総務の各部門を担当することにより責任体制を明確にし，運営体制の強化をもたらしたことは評価できる。
- ・ H31 年度に第 1 学年における学年主任の新たな配置による学科の枠を超えた学生指導方針の統一，施設整備委員への 3 主事及び事務部長の追加による施設整備計画の学内共有体制の確立及び将来計画委員会と点検・評価委員会の総務委員会への統合は組織体制の強化をもたらした。
- ・ R2 年度に第 2 学年にも学年主任を配置し，更なる学生指導方針の統一を図ることができた。
- ・ R2 年度に全学組織として設置した「共通機器管理センター」において，保有する共用機器を学内外で利用可能な体制を整備するとともに，「先端研究設備整備補助事業」による設備の遠隔化・自動化と，「阪奈機器共用ネットワーク」への参画による学外機関との共用化を進めることで，さらなる共同研究や産学官連携の推進を強化している。

##### ○教員組織について

- ・ 教員の出身大学等は，北海道から沖縄までの国公立大学及び外国の大学と幅広く，多様な人材により構成されていることがわかる。なお，教員の年齢構成は全世代間に広がっていることから，適正であると判断できる。
- ・ 採用等に関しては，広く公募を行い本校選考基準に基づき選考をするとともに，模擬授業を行わせることで，研究実績だけではなく，講義力のある優秀な人材の確保を図っている。
- ・ 人事委員会の下に教員選考委員会を新設することにより，優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保している。

- ・ 女性教員の採用・登用の促進等，男女共同参画推進を図るための継続した取り組みとして，第4期中期目標・計画期間における教員人員枠を考慮に入れながら，各学科の基本人員枠を設定するとともに，当該人員枠を超過したポストを校長預かりポストとして管理し，当該ポストを女性教員限定公募に使用することにより女性教員の増加につなげていることは評価できる。
- ・ R3 年度に新任女性教員を対象としたスタートアップのための研究費支援を実施すべく，「女性研究者環境支援プロジェクト実施要項」を制定し，女性教員の研究環境及び研究力向上を図っている。（初年度2名採択）
- ・ 他高専及び他機関の教育研究活動に従事させることにより教員の力量を高めるべく，「高専と両技科大との教員人事交流制度」等の活用による更なる人事交流の推進が必要であり，教授昇任の要件の1つに「当該人事交流経験者」を入れるなどの方策が必要である。

#### ○事務組織について

- ・ 事務職員においても組織の活性化や力量を高めるべく，他高専及び他機関との積極的な人事交流が必要であるが，近隣大学の人事交流縮小の影響を受け，現時点で人事交流を実施できておらず，他機関への積極的な働きかけが必要である。

## 第2章 学科総括

### 2.1 一般教科

幅広い視野と教養，豊かな人間性とコミュニケーション能力，創造力と実践能力を有した技術者を育成するため，各専門学科と連携しながら教育実践を行なっている．一般教科では，本科での5年間，あるいは専攻科2年間を含む7年間にわたる専門教育を確実なものとするために，特に本科低学年における基礎学力の獲得に重点をおいた指導を心掛けてきた．また，基礎学力の定着のためには，通常の授業における学習に加え，自学自習の習慣付けを欠かすことができないため，日頃から適切な課題を課すなど地道に指導を行い，また各学生の必要性に応じた補習や補講も実施している．

以下，学校全体の協力も得つつ一般教科がR3年度に行なった取組，およびその効果について述べる．

#### (1) 教育手段

##### ① 授業での取組と自学自習指導

R1年度に実施したカリキュラム改訂では，本科3年次以降の実施科目の多くを，自学自習を前提とする学修単位として学生のより積極的な学習態度の育成を促すことを狙っている．R3年度についても，微調整を行いつつ，同様のカリキュラムに準じて授業を行なった．また，R2年度に引き続き，R3年度においても新型コロナウイルス感染症対策が重要であったため，その一環として，①Teamsを活用した授業運営，および，②「対面（面接）授業実施のためのガイドライン」を作成しそれに準じた対面授業を全授業において実施した．ガイドラインにより授業内容に制限が発生することがあったが，Teamsを活用した授業は非常に効果的であり，いわゆる「コロナ禍」にあっても当初の目的どおりの教育を実施することができた．

教科ごとの具体的な取組内容は以下のとおりである．下記以外にも各教室に導入されたプロジェクターを活用した視聴覚教材の利用，授業におけるノート指導や長期休暇中の課題など，様々な基本的教育指導の取組があり，いずれについても教員間で情報交換しつつ工夫が重ねられている．

国語：様々な文章が読め，多様なものの見方・考え方が身に付き，自分の考えを言葉で表現できるようにするため，文学作品や評論等の読解を行い，作文等の機会を設けた．常時課題や小テストを課し学習習慣の定着や基本的語彙の習得を図った．また，グループワークで学生のアクティビティを取り入れることで学習効果を高めた．その他，論理的に「読む」ことを意識した教材を試行的に導入しているほか，「日本文化学」（5年次）は



工学系の学生に幅広く文化への関心を持たせる科目としている。

社会：「社会」という教科の特質を生かした技術者養成を執行するため、奈良県の地域文化・産業に焦点をあてた学習を展開している。R1年度以降、本科1年から専攻科にかけて地域を理解するための体系的な教育プログラムを実施し、発表や地元企業との連携を含めた実践的な授業【R3年度においては地理（1年次）、歴史（2年次）、政治・経済・公共（3年次）、現代社会と法・人間環境学（5年次）、地域と世界の文化論（専攻科2年次）】を実施している。

数学：世の中の様々な事象を数学的に考察し対処する能力を身に着けるため、低学年では関数、方程式、図形、数え上げを扱い基礎力をつけ、高学年では体系的に微分積分、線形代数など、専門科目に繋がる応用数学を扱って応用力をつける授業を実施した。計算力をつけ知識を定着させるために課題を頻繁に出し自学自習を促した。長期休暇には専門書を自力で読む力を養い、かつ学習意欲を引き出すため、教科書の予習課題を各学年で出した。

理科（物理・化学・生物）：物理では数式による自然現象の記述方法や数学によって自然現象を説明する論理展開の力の養成を図り、化学・生物では化学の基礎的知識から生体高分子化学・環境問題との関連まで幅広く理解させるとともに、学生の理解を深めるための演習実験やクラス全員が取り組む実験を積極的に取り入れた。また、高専機構コアカリキュラム対応のため、全学科について新授業科目、地球惑星物理と生物（各1単位）の授業を実施している。特に地球惑星物理については、中学理科から高専物理への「接続」として非常に効果的なものとなっている。

英語：各専門分野の英語で書かれた論文や解説書を理解し、かつ英語で論文や報告書を作成できる力を習得すること、一方で国際学会に出席する、あるいは就職後に海外に派遣される場合に支障がない程度の英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的として授業を行なった。リスニングなどのコミュニケーション力養成はもちろん、教材ごとに文法・構文に留意し正確な解釈をする精読にも重点を置き、学習内容の定着を図る小テストや単語テストも常時実施している。

体育：5年間を通じて「保健体育」の授業を体系的に実施することで、運動技能の習得のみならず、健全な心身および社会性、生涯にわたってスポーツや武道などの身体運動に親しむ実践的な態度や知識を効果的に育成することを目的として授業を行なった。R1年度より「ニュー・スポーツ」（トランポリン、ミニ・テニス、セパ・タクロウ、エアロビクス、フリスビー等）を取り上げ、背景にある多様な文化に学生が触れるよう指導した。またR1年度のカリキュラム改訂により、3,4年次の科目名を「体育理論Ⅰ・Ⅱ」とし、理論面の学習内容の充実を図っている。なお、実技は「対面（面接）授業実施のための

ガイドライン」を遵守して実施した。

芸術：選択制を導入するとともに、美術においては、美術への関心と創作者（ものづくり）としての教養を身につけるため、鉛筆でのスケッチと紙による立体表現、アートガラス教材を使い表現方法を模索した。また、コンピュータによる画像処理と作画作業や動画（アニメ）制作を行なった。音楽では幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めるため、前半は主に座学による講義とピアノ伴奏による歌唱、後半はギターを中心とした楽器演奏を（感染症対策を行いながら）実施した。いずれにおいても、「豊かな人間性」を育むために極めて有効なものであると考えている。

## ② 課外授業、補習等

各教員は、日頃より授業中やオフィスアワー以外にも放課後に相談や質問を受けている（遠隔授業での対応を含む）。授業内容の質問から、後述する大学編入学試験に関する質問、研究のヒントを求める5年生や専攻科生の質問まで幅広く応じてきた。また、成績不振者への学力補充の補習や再テストを随時実施するなど、きめ細かな指導も行なっている。なお、例年であれば半年または年間を通じて組織的な形で以下のような補習等を実施しているが、R3年度については新型コロナウイルス感染症対策のため中止ないしは規模の縮小を行わざるを得なかった。

〔例年実施してきた補習・補講等〕

数学：1年生を対象とし、毎週1回、放課後に数学担当教員の指導のもとで専攻科生ティーチングアシスタントをつけた形での補習をH13年度から実施しており、教育効果のさらなる向上のためにH24年度からはTAのほか非常勤講師2名を配置して支援体制の強化を図ってきた。

英語：H22年度から成績不振者（本科1、2年合同）対象の補習授業を実施している。また、海外派遣・留学生受入などの国際交流事業プロジェクトに対応した学生指導（英語プレゼンテーション指導なども含む）も行なっている。シンガポール等の学生との交流においては、奈良を中心に日本文化を紹介することで、本校学生が自国の文化を理解するとともに、英語への動機付けを高めるように工夫した。

合同オフィスアワー：H30年度から、複数の教員が共同で実施する合同オフィスアワーを開設している。

## ③ 外部試験利用と自学自習指導

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標に対応した1～3年対象の「学習到達度試験」（数学・物理・化学）（CBT [Computer Based Testing] 方式）に参加した。学生の学習意欲を喚起し、主体的な学習姿勢の形成を促すため、事前に3年前期までの学習内容を総復習す

る課題を提示し、そのレポートを試験前後に提出させるなどの指導を行なった。学生自身が学力の定着を確認し、また、教員が学年全体の学習（学力）状況を把握するために非常に有効であった。

## （２）教育環境

R3 年度における専任教員は、国語担当が 3 名、数学担当が 6 名（うち、育児休暇取得教員 1 名）、理科担当が 4 名、英語担当が 5 名、体育担当が 2 名、社会担当が 2 名、グローバル科目担当が 1 名の計 23 名であり、うち博士号を取得している教員が 15 名であった。非常勤講師は国語、社会、数学、理科、体育、芸術、英語、グローバル科目を担当した。

施設・設備に関しては、物理実験室、応用物理実験室、化学実験室があり、各種の学生実験、教員による演示実験を行なった。また一般教科の管轄外ではあるが、情報処理演習室では英語と美術の授業を行い、大視聴覚室では音楽の授業を行なった。本校が採択された文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」に伴って整備された地域創生交流室は各教科のプレゼンテーション、外部講師の授業等でよく使用されてきた。同室の維持管理は社会科の教員が中心となって行なっている。教室外の施設、2 棟の体育館、25m プール、武道場、400m トラックを含む運動場、テニスコート 5 面では、様々な体育実技を行なった。これらの施設の環境整備については、体育科の教員が中心となって行なっている。なお、上記設備に関しては、全学的な規模での維持管理が必要であり、今後も教育環境整備に努め、予算措置の申請計画を立てていく予定である。

## （３）進路指導・社会貢献・今後の展望

就職・進学に関する相談や指導も専門学科と連携を取りながら全教科の教員が適宜対応している。各教員はオフィスアワー以外にも放課後等に相談や質問を受け付け、指導を行なった。大学編入学指導に関しては、物理科においては H23 年度から大学編入学を希望する 4～5 年生を対象とし、放課後に定期的に編入問題への対応を中心としたハイレベルな補講を実施している。その他、英語科、数学科、化学科においても、編入学試験に関する質問に随時対応しており、文系科目でも就職・進学に必要な小論文指導や志望理由書・手紙の書き方等の相談に応じ、本校が就職・進学を高いレベルで維持していることに貢献している。

一方、公開講座や出前授業にも取り組んできた。国語科主催の公開講座「日本文学講座」は例年では約 70 名の参加がある。また、社会科で長年継続実施した「文化探訪講座」は H29 年度（第 26 回）で最終回となったが、R1 年度には「やたやま 社会の森 オープンセミナー」という新しい公開講座をスタートさせた。物理科の出前授業も長年にわたって多くの要請に応じて継続的に実施してきたが、R3 年度は新型コロナウイルス感染症対策のためほと

んどのものについて実施を見送らざるを得なかった。

一般教科では、H24年度から教科ごとに年度別の教育計画や教育成果を文書にし、科内で報告している。教科間において互いの教育活動を理解し、情報を共有するための取組である。各教科でのまとまりを基礎に、一般教科という組織が学生の教育に有効に機能するような策を確実に実施し、冒頭に述べた教育目標を実現するための取組を今後も継続して行なっていきたい。

なお、R1年度に実施したカリキュラム改訂では、高学年を中心に、多くの科目で学修単位を導入した。これに対する点検評価とともに、自学自習を前提とする学修単位科目をより効果的に運用していくための方策、および、R6年度実施のカリキュラム改訂案の検討が喫緊の課題である。またR1年度には、1年の担任をすべて一般教科の教員が担当し、併せて学年主任を置いて各クラス担任をサポートする新たな担任制度を導入した。R2年度はこれが1,2年全体に適用された初めての年度となったが、R4年度以降に改めてこの新制度の有効性を検証する予定である。

## 2. 2 機械工学科

機械工学科では、各産業分野における設計開発、生産技術、保守点検、品質管理等の幅広い分野に対応できる技術者の養成を目標としている。そのため、低学年では実習や製図等の実技系科目を中心に導入教育を行い、学年進行とともに座学、実験等により工学基礎から応用までをバランス良く配置することで、機械系技術者としての素養を育む教育を行ってきた。R3年度の学科教員数は9名（教授5名、准教授4名）であり、全員が博士号取得者である。

近年、各種産業界においては、業務の多様化やグローバル化に向け、それに対応できる技術者が求められている。特に、コミュニケーション能力や語学力は、今や技術者にとっても必須スキルと捉えられ、これらの能力開発を如何に教育カリキュラム内に盛り込むかは重要な課題となっている。また、諸外国との技術力競争にも対抗できるような豊かな創造力ならびに課題克服力も持ち合わせた人材が必要とされ、クオリティーの高い技術者を育成する教育内容に改善することが求められている。このような背景のもと、機械工学科としても従来の教育方針（ものづくりに関わる専門教育）に加え、多様な状況にも柔軟に対応でき、豊かな発想力や創造力を有する技術者の育成を目指し、教育改善を行なっている。なかでも、学生自らが企画立案し、主体的に課題を解決する学習方法であるPBL（Problem Based Learning）教育の導入は、学生のデザイン能力を向上させることに大きく貢献することから工学教育の一つの指針として示されている。ただし、この場合、学生が能動的に取り組めるように授業の進行にあたっては明確な方向性を提示する必要がある。また、そのプロセスや

成果等を客観的に評価し、さらなる改善策の提案とその実践を含むPDCAサイクルを機能させることが重要となる。機械工学科としても、これまで実験・実習等の実技系科目においてはPBL教育を念頭に入れた改善を行ってきたが、その成果をさらに発展させることが大切であると考えている。そのために、基礎学力の充実化を図るとともに、個々の学生の能力を把握しつつ、学生自らがその実力を発展させるような教育方法が必要であるとしてその方法を検討している。

特に、能動的学習法として先の問題解決型学習法（PBL）に加え、グループディスカッションやディベート等を含む新たな学習法の積極的な導入が推進されている。この場合、対象とするのは、実技系科目に限らず、座学を含む広く全般的な授業となっている。現状では、一部、その具体例が紹介されているものの、その多くは試行によるものであり、定着化させるには、まだまだ時間が必要であると感じている。その目指すべき方向性は、前述の機械工学科が取り組もうとしている教育方法の改善、すなわち「知識から実践」に即したものであり、今後、多くの具体例を参考とし、機械工学科の教育改善に積極的に取り入れたいと考えている。以下に、機械工学科の取組み状況を述べる。

## （1）教育手段への取組み

### ① カリキュラムの改訂

R1年度のカリキュラム改訂によって、従来から取り組んできたPBL教育のさらなる強化及びニーズの変化への対応を行なった。具体的には、これまで3年次「創造設計製作」において展開してきたPBLをより柔軟に行うために、従来の「機械設計製図Ⅲ」を「創造設計」に置換えた。これにより、通年3時間の「創造設計製作」のうち、特に問題解決の川上側に位置する概念設計に関する内容を「創造設計」でも扱うようになり、グループワークにより多くの時間を割けるようになった。また、大学編入学試験の専門科目試験として、従来のいわゆる3力学（材料力学、流体力学、熱力学）に加え機械力学が課されることが多くみられるようになった。そのため、これまで3年次「エネルギー基礎力学」の一部と5年次「振動工学」で扱ってきた機械力学の内容の学習を3年次からに前倒しし、「機械力学Ⅰ」「機械力学Ⅱ」「機械力学演習」として4年次で終えるようにしている。この変更によって、機械工学科の学生が習得すべき4力学をより明確にする効果もみられた。従来の3力学に関しても、それぞれ「〇〇力学Ⅰ」「〇〇力学Ⅱ」「〇〇力学演習」という科目配置にすることによって、半期の間で習得すべき学習目標の明確化を図っている。

その他には、5年次に「技術英語」を新設し、研究室単位での英文技術論文等の輪読とその内容の全体発表を行うこととした。これによってグローバル化、コミュニケーション力の向上のニーズに応えることができると考えている。

近年の入学生は、ゆとり教育や少子化等の影響により比較的、消極的な学生が増えているように思える。また、情報メディア機器等の発達により情報入手については容易に行える一方、他者とのコミュニケーションに関して、未発達な状況で学年進行している。これらのことから、授業の進行にあたり教科担当者は、学生の資質には注視しつつ、個々の特徴を捉えながら、彼らの学習に対する取り組み姿勢が能動的となるように教科指導を行なっている。さらに、科内会議等においても学生個々の学力ならびに取り組み姿勢について意見交換を行い、情報共有を図っている。

## ② PBL教育の取り組み

機械工学科では、従来から第3学年における「創造設計製作」で、学生自身が計画を立てて主体的に設計・製作を行うPBL的な授業展開を行なってきた。また、第5学年における設計工学演習においてもPBL手法にもとづく問題解決型授業を実施している。さらに、第4、5学年における機械工学実験や第4学年の「機械工学ゼミナール」（R1年度に新設）では、座学で得た知識の定着を図る一方で、新たな事実の発見及び課題抽出となるように授業内容を工夫している。そして、グループワークによる作業や担当教員を交えた討論の場を通して、学生間相互理解ならびにコミュニケーション能力の向上に繋がるような取り組みを始めている。

PBL科目の重要性はこれまで十分認識しているつもりであるが、その継続性と発展性については、常に議論の対象となっている。学生にとっては、内容の斬新さやユニークさから好評を得ることが多いが、学生個々の能力の向上にどれだけ貢献しているかは、今のところ明確にできない点がある。このことから、今後も改善点を明確にしつつ、引き続き取り組んでいく必要があると考えている。

## ③ 学外実習

H12年度から第4学年学生に対し学外実習を正規の授業（選択科目1単位）として実施している。学外実習は、実社会での就業体験、経験をもとに学習意欲の向上ならびに学生のキャリア支援を目的とした科目であり、例年、多くの学生が履修している（全体の70～80%、ただし、R2年度は新型コロナウイルス感染防止に係る対応として実施を自粛、R3年度は13名のみ履修）。近年、実習希望者に対して公募制を採用する企業が増えてきたため、希望しても選考に洩れるケースも生じている。そのため、選考に洩れた学生に対しては、担当教員が個別に企業と連絡を取り、受け入れの追加依頼をする等、実習先を確保することに苦慮することがある。また、学外実習は現在、夏季休業期間中ということで実施しているが、その単位認定は、休業明けの学外実習報告会での発表で決定することとなっている。しかしながら、実習で得た経験は、本来、学習意欲の向上へと繋げるものとなるはずであるが、なかには、その連携が上手く行えない学生もいるようで、この点、実習修了後のフォローアップが

必要であるとの意見がでている。そのため、学科としても、実習中の経験を一過的なものとしなような工夫が必要であるとしてその具体案を検討している。なお、学外実習成果報告会には、次年度、履修予定となる第3学年の学生全員を出席させ開催している。

#### ④ カリキュラム以外の取組み

##### ○資格取得

機械工学科では、実践的かつ創造的な機械技術者を育成する支援策として、工業英語検定試験4級もしくは3級、もしくは日本英語検定試験の取得、さらにはTOEIC試験の受験を奨励している。特に、TOEIC試験（公開テスト）は、そのスコアが大学編入学及び就職にも活かされることから、学生には積極的に受験するように指導を行なっている。今後の課題としては、技術者として英語力の向上は今や必須となっていることから、さらに成績向上に繋がるような指導が必要であると考えている。さらに、語学以外の専門的な資格として、機械設計技術者試験への受験も奨励している。特に、機械設計技術者試験の受験は、日頃の専門教科の学習が如何に理解され、実用化することができるかといった自己診断にも繋がる良い機会と捉えられることから、学生には積極的にチャレンジするように勧めている。

##### ○学会への参加の奨励

第1学年から第5学年までの学生に対して、日本機械学会に学生会員としての入会を奨励し、工場見学への参加、学術講演会、卒業研究講演発表会での発表等を通じて幅広い視野を身につけることを奨励している。日本機械学会関西支部の卒業研究発表講演会では、毎年、平均して4から5人程度の学生が大学生や他高専の学生に混ざって講演している。なお、同研究発表会においては、優秀な口頭発表に贈られるBest Presentation Awards (BPA) を受賞する学生も毎年のようにみられる。この実績は、関西地区の他高専と比べても顕著であり、このような学会発表が、プレゼンテーション能力の向上や研究内容をさらに洗練させる良いモチベーションとなっている。

##### ○編入学生への学習支援

ここ数年の受験者及び合格者が少ないことについては詳細な調査が必要と捉えている。編入学試験の内容は、高校の指導要領に基づき作成しているが、十分な準備と深い洞察力があれば、合格基準に容易に達することができると考えている。しかしながら、試験結果を見る限り、基準に程遠い受験生もいるようである。また、編入学試験に合格し、入学するものの、その後、授業内容についていけず成績不振状態に陥る学生もいるようである。特に、編入学試験に合格した受験生には、入学前指導として補習や課題提出等、入学後を視野に入れた学力補充を行なったりしているが、学生の学習姿勢は過去に編入学し、卒業していったものとは大いに違いがあるように感じる。工業高校からの編入生には1年次から進級してきた学生に対し、大いに刺激を与えて欲しいと期待するが、年々、その効果は薄れているようで

ある。このことから、今後は、向学心旺盛な生徒に受験してもらえるように工業高校の進路指導の先生に対し、PRを行う必要があると考えている。

#### ○広報活動

ここ数年、奈良高専機械工学科の入学志願倍率は他学科に比べて低くなっていることから、その打開策として、H20年に科内組織として広報担当を新たに設けた。その活動は、当然、入試倍率の向上を目指すものであるが、学生の課外活動の支援も兼ねた内容を含んだものである。特に、ここ最近、学校全体の広報活動が活発化するなかで教員への負担が急速に増加する傾向にあり、学生への教育支援が手薄となる恐れがあった。そのため、学生と協同して広報活動に取り組むことができれば、教育支援を損なうことなく充実した活動を行うことができるであろうとの考えで活動がスタートした。具体的な活動としては、年度当初に広報活動に興味のある学生を募集し、担当教員とともに年度活動計画を立案したのち、いくつかのテーマを設定して取り組もうとするものである。テーマの中には、具体的に「ものづくり」に関わるものや各種コンテストを目指したもの等、多岐に渡っており、自ら課題設定を行い、実践することができることから機械工学全般に強い興味や関心を持つ学生にとっては好評であり、学年を問わず多くの学生が参加している。なお、その成果は、体験入学、高専祭における学科展、入試説明会等で作品として展示され、学生による説明は、各イベントに参加した中学生やその保護者からも好評であり、彼らの社会性向上にも大きく役立つものとなっている。一方、広報活動に参加する学生は、これらの活動以外にも教員の研究活動（一般向けの講座）の補助員としても参加することがあり、活動範囲を拡張させることで視野拡大にも繋がっている。なお、当初の目的であった志願倍率増への効果に関しては、未だ十分な成果を上げるまでには至っていないが、今後、さらなる企画を練り、より活発に取り組むことで倍率増につながるものと思われる。

## （2）教育環境への取組み

H25年度の実験設備導入に引続き、H29年10月に竣工した機械工学科実験室を含む実験実習棟の改修によって、機械工学科の教育環境はさらに改善された。特にFabRoomでは、3Dプリンタやレーザ加工機、小型の工作機械等を学生が身近に利用できるように整備されており、学生の自主的な取組みを大きく推進している。また、機械工学科としての直接の取組みではないが、「機械工作実習Ⅰ」「機械工作実習Ⅱ」「創造設計製作」「創造設計」等で利用するものづくり実験実習棟では、空調の設置や工作機械レイアウトの見直し、照度の改善等を行なっていただき、機械工学科学生（だけではないが）はその恩恵に大いに与っている。

このような学生のための教育研究設備の充実の一方で、産業界との連携や地域貢献を推進する現状では、さらに新たな設備導入が必要であり、そのための施策を検討することは学



科として重要課題と位置づけている。機械工学科の発展，すなわち将来像を見据えた設備計画（マスタープラン）を至急，検討する必要が有り，その準備は急務であると考えている。

### （3）進路指導への取組み

進路指導に関しては，ここ数年，4名の教員が分担して指導を行なっている。その内訳としては，3名が就職担当，1名が進学を主に担当している。大まかなスケジュールとしては例年，全4年生を対象とする進路ガイダンスが12月に進路対策協議会主催で行われ，その後，学科単位で指導を行うこととなっている。機械工学科としては，このスケジュールに沿って，2月上旬に4年生を対象に進路ガイダンス（就職・進学のための説明会）を行なっている。また，5年生への進級前であるが，2月下旬から機械工学科の進路指導室を開放し，学生に求人情報を閲覧させることで就職活動に対する意識を高めるように指導している。なお，応募締め切りが早い企業については，別途，企業名を掲示し，決められた期日までに申し出るよう指導している。最終的には，5年生になった4月初旬に，第1回目の就職希望先を提出させるスケジュールで進めている。なお，学生の進路相談については，進路指導担当者が主として対応するが，それ以外にも，事前に卒業研究仮配属を行い，指導予定教員からもアドバイスが受けられるような複数体制をとっている。一方，保護者向けの進路ガイダンスは，学年末試験終了後の3月上旬に開催し，学生向けのガイダンスとほぼ同じ内容を用いて説明している。なお，個別相談を必要とする場合には，進路指導担当者もしくは指導予定教員が対応し，詳細な説明を行なっている。また，R2年度より，新型コロナウイルス感染防止に係る対応としてMicrosoft Teamsを用いて求人情報を閲覧できるようにし，遠隔での進路指導を行える体制も整えている。

R3年度の進路内訳は，就職18名，進学13名（専攻科への進学4名を含む）であった。就職先の分類としては，機械，建設，電気，化学等，製造業を中心に就職している。就職に関しては，コロナ禍においても例年通り，機械工学科に対する求人件数は非常に多く，採用担当者との面談において高専卒業生の実力を高く評価される方が多いことから，その期待の大きさを感じている。一方，進学に関しても専攻科を含め多くの国公立大学等へ進学している現状から，在校生及びその保護者の進学に対する興味は高まる一方である。いずれの場合も多様な進路を保障しているという点では，一定の成果を示しているように思えるが，現実には進路決定の際，思うような結果を導けない者が毎年，数人みられる。受験後の報告によると，概して，準備不足の一言でまとめられるが，これらの結果は，学生のキャリアデザイン支援に対する課題として捉えるべきであり，今後，指導方法を含めた改善策を示す必要があると考えている。

## 2. 3 電気工学科

電気工学科では、電気・電子機器や装置等の「ものづくり」を基盤とした知識と技術を修得させ、「あらゆる産業分野で活躍できる幅広い知識を持った電気・電子技術者の育成」、「電気・電子技術を使って環境問題の解決や社会に貢献できる技術者の養成」を目標として教育を実施している。このため、電気・電子工学に関係する専門の基礎理論から、電力・エネルギー・制御系、電子・新素材・デバイス系、情報・通信・コンピュータ系分野等に関する専門知識を段階的に教授している。さらに演習と実験・実習を重視して、技術的な実践能力を高める指導も行なっている。学科教員数は10名（教授3名、准教授5名、講師1名、助教1名）である。うち博士号取得者は9名である。

### (1) 電気工学科における具体的な取り組み

電気工学科の令和2年度までの取り組みを振り返り、解決すべき項目を明確にし、それに対する年次計画を立てて教育・学生指導・研究活動を推進した。また新型コロナウイルス感染予防対策、1月のオンライン授業期間における学生の学びをサポートする対策等、実施した主な項目を以下に示す。

#### ① オンライン授業環境の整備

新型コロナウイルス感染予防対策のため、1月当初から2月の後期末試験まで、オンライン授業となった。家庭におけるオンライン授業が困難な学生に対し、PC等の貸し出しを行なった。

#### ② 卒業研究における新型コロナウイルス感染予防対策

人が密になるのを避けるため、一昨年度までポスター型式で行なっていた中間発表会を昨年度同様オーラル型式で行なった。発表する5年生を研究室ごとに分散し、遠隔聴講する4年生のため別に2会場設けた。また最終発表会の時期に全ての授業がオンラインとなったため、発表者、聴講者ともにオンラインで参加する発表会を行なった。制限された環境であったが、活発な質疑応答が行われた。

#### ③ 学生情報交換会（学科FD）の実施

電気工学科の全クラス状況や学生の情報を共有するため、ほぼ毎月、学生情報交換会を開催した。この情報交換会により、クラスの問題点を全教員が共有するとともに学生への的確で早い対処が可能になっている。

#### ④ キャリア教育

4年生に対し、5月に進路ガイダンスを実施し、年度末までに複数回進路調査および教員との面談を行いながら進路選択から決定までの支援を行なった。また、テルモ株式会社の西村佳那子氏（電気工学科卒業生、オンライン）による進路セミナー（工場見学の代替、対面）や九州工業大学の安川真輔准教授、龍谷大学および富士ウェーブ株式会社の粟井郁雄教授による講演会（前者：12月13日オンライン、後：12月20日対面）を実施し、視野を広げまた具体的に進路対策を行うために参考となる情報を提供した。さらに、3月に2日間、

就職希望者を対象とした企業説明会（複数の Teams 会議室を用意し、入れ替わり企業説明，3月7日，9日オンライン）を実施した。

3年生には，卒業生と語る会（豊橋技術科学大学の前川啓一郎氏，7月1日オンライン）やインターンシップ報告会への参加等を通して，自らの進路について考える機会を設けた。また，4年生の保護者に対する進路ガイダンス（3月5日対面，1～3年生の保護者も参加可）も行なっている。

## （2）R3年度卒業生の進路

### ① 概要

R3年度卒業生38名の進路は，就職が20名，専攻科・大学等への進学が18名であった。

### ② 就職先

旭化成，アステック，大阪ガス，牛乳石鹼共進社，京セラ，クオリカプス，Keigan，京阪電気鉄道，向洋電機，ジェイエスキューブ，品川工業所，新コスモス電機，スタンレー電気，セガ，中部電力，デンソーテクノ，奈良市消防局，日本電気計器検定所，P&G ジャパン，フジ矢

### ③ 進学先

奈良高専専攻科（8名），長岡技科大（3名），京都工芸繊維大（1名），大阪府立大（1名），奈良教育大（1名），福井大（1名），岡山大（1名），立命館大学（1名），スペースデザインカレッジ（1名）

## （3）研究に関する評価

### ① 所属学協会および学協会活動

教員の所属学会は，電気学会，電子情報通信学会，地球電磁気・地球惑星圏学会，応用物理学会，計測自動制御学会，自動車技術会，電気鍍金研究会，日本ESD学会，日本音響学会，日本学術振興会，日本感性工学会，日本神経回路学会，日本磁気学会，日本人間工学会，日本プラント・ヒューマンファクター学会，パワーエレクトロニクス学会，ヒューマンインターフェース学会，表面技術協会，アメリカ地球物理学連合，The Electrochemical Society等多岐に渡っている。また，各学会で理事，評議員，編集委員や委員会委員等を務めている。

### ② 外部資金の獲得

科研費5件（藤田（代表），顯谷（代表），石飛（分担），大谷（分担），芦原（代表）），その他，複数教員が共同研究を行い，奨学寄附金も受けている。

## （4）社会との連携

### ① 公開講座・出前授業等

新型コロナウイルスの影響で，計画していた出前授業と公開講座を中止せざるを得なかった。これらに代わり，以下のオンライン講座を行なったところ，多数の参加者があった。

第1回「超伝導を作る！材料系実験を体験しよう」 11月13日（土）

第2回「宇宙を電波でみる！ 通信系実験を体験しよう」 11月23日（火・祝）

第3回「ミニ雷を発生！ 放電実験を体験しよう」 12月12日（日）

## ② 産学連携

奈良県および周辺地域の中小企業を中心に技術相談を受け対応するとともに、共同研究、受託研究等を積極的に行なった。

## 2. 4 電子制御工学科

電子制御工学科では、工業技術分野における急速な自動化の進展及びコンピュータによる制御技術の発達に対応できる総合的な処理能力を持った制御系技術者・研究者となりうる人材の育成を目標としている。

### （1）教育目標達成のための取り組み及び教員組織

#### ① 実践教育

教育目標を達成するためには、実際に設計・製作するという体験学習が効果的であるとの考えに基づいて、1年から4年まで系統的に「工学実験」プログラムを構築している。また、システムデザイン能力、システム開発能力さらには問題解決能力に富む技術者を育成する教育プログラムとして、ロボットを題材とした多段階体験型課題解決プログラムを1学年から「工学実験」で行なっており、大いに学習効果を上げている。

さらに、4年次の「システム設計製作」においては、自律型ロボットを設計製作し、学科内ロボットコンテスト（『レスキューロボット』、『清掃ロボット』、『配達、回収ロボット』等、学生のスキルを踏まえ、毎年課題内容、難易度を見直し、適切な課題を設定している）を実施し、総合的なメカトロニクス技術を身に付けさせると共に、豊かな創造力を育成している。そして、予備知識、設備、予算、時間等様々な制約がある中で、設定された課題を解決するロボットシステムの設計、製作をプロジェクトとして進めて、より実際的な技術活動を通して問題解決能力を養っている。また、ロボットコンテストを通じて各チームのロボットを相互評価し、色々なアイデアを自身の知的財産として蓄積していくことも目的として行なっている。

R3年度のロボットコンテストは、縦1,800mm、横3,600mmのフィールドを使用して行なった。フィールドは1辺450mmの正方形により格子状に区切られており、縦4マス、横8マスの配置となっている。課題は“フィールド内のいずれか4つのマスに配置された空き容器（各マス1個）を回収し、代わりに充填された容器の配置、を自律制御動作するロボットにより達成する”ことである。新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、R3年度コンテストも外部への公開は行わない形で12月24日（金）に開催した。前年度、新型コロナウイルス感染

症の感染拡大により1月以降遠隔に切り替わった事も踏まえ、R3年度は最終コンテストを年内に実施するというスケジュールを組んだ。そのため、製作期間は例年と比べると1ヶ月程度短くなることとなったが、ロボットコンテストにおいては全チームが得点を獲得することができ、容器4個をすべて回収、設置するチームも複数出るなど、全体的にハイレベルなコンテストとなり、本授業が目的とする、総合的なメカトロニクス技術の修得がある程度実現できたものとする。

なお、多段階体験型課題解決プログラムの特徴である、1年次からのレゴマインドストーム等を教材として、学年進行と共に多段階的に学習レベルを積み上げていく方式(多段階体験)をR3年度も継続して行なった。またH30年度より第3学年に、新たにTETRIX及びmyRIOを用いたベースロボット教材を導入し、これを用いたラインレース競技を行い、課題解決のための手法について学習させている。これらの取組みにより、学生の自主性が助長され、学生の創造性の育成に大きく寄与していると考えられる。また、これらの実践教育では、自ら製作したロボットについて実演を交えたプレゼンテーションを、近隣企業・保護者・在校生に対し行うことで(R3年度は新型コロナウイルス感染症のため外部へは非公開で実施)、プレゼンテーション能力の育成も図っている。

さらに、H28、29年度採択された教育改革推進本部プロジェクト「社会ニーズを踏まえたロボット人材の育成」の連携協力校として電子制御工学科を中心として採択された取組みで実施したPROGテストの結果を踏まえ、教育プログラムの改善検討を継続して行なった。併せて公益財団法人NSKメカトロニクス技術高度化財団の教育助成への申請が採択され(R1、R2年度)、H30年度に導入したTETRIX及びmyRIOの追加導入、及び多段階体験型課題解決プログラムの改善に取り組んだ。

また、(独)工業所有権情報・研修館のR3年度「知財力開発校支援事業」に採択された。本事業では特許出願、特許取得経験のある企業技術者及び弁理士による講演会や、各学年でのロボット製作に関連した特許情報の収集や分析を行い、本学科で行なっている多段階課題解決型学習と知財教育とを連携させることで、学生の知的財産に対する興味を喚起し、知的財産権に対する知識、重要性を効果的に学習させることができた。R3年度の講演会は、4年生対象に11月22日に弁理士の先生から「高専生の将来の仕事を楽しむ特許・商標の話」と題して特許に関する知財セミナーが行われた。また、昨年度と同様に5年生対象に11月22日、12月13日および12月20日の3回にわたって、特許検索競技大会に出場するための講習会が開催され、12月21日に競技大会に出場し、53%の学生が合格した。なお、この講習会・競技大会出場は機械工学科5年生と共同で行なった。

## ② 学外実習

実社会での実務経験が今後の技術者としての学習に有効であるためインターンシップへ

の取組に力を入れた。また、毎年第3学年学生に聴講させる学外実習報告会を開催し、プレゼンテーション能力の育成も行なっている。H13年度に学外実習として単位認定して以来、受講者は増えており、H22年度以降はクラスの半数程度が受講し、R1年度は20名が履修した。インターンシップに参加した学生の取り組む姿勢は積極的であり、職業意識の向上の一助になっているものと考えられる。しかしながら、R2年度は新型コロナ（COVID-19）感染防止のため、インターンシップの実施を控えることになったことは残念であった。R3年度は、クラスの9割を超える39名中36名の学生が履修希望であったが、新型コロナ（COVID-19）感染防止のため19社から受入中止があり、最終的には4割程度の17名の学生が履修することになった。

### ③ 教員組織

R3年度における電子制御工学科の教員数は11名である。その内訳は、教授5名（うち2名は特任教授と嘱託教授）、准教授4名、助教2名（うち1名は人事交流により他高専からR3年度4月に着任）である。博士号取得者は9名である。本学科は複合学科であり、機械系学科出身者が5名、電気・電子・情報・制御系学科出身者が6名である。また、企業等での実務経験者が4名で、高専出身者が4名おり、新規採用にあたっては特定の分野、出身に偏らないように配慮している。

## （2）電子制御工学科における進路指導と卒業生の進路

電子制御工学科では「進路対策委員会」を設置し、進路対策委員が各指導教員及び保護者との連携を図りながら、学生の就職・進学について学生本人の希望を尊重し、進路指導を行なっている。R3年度は求人企業数が474社（R2年度480社）で例年並みであったが、新型コロナウイルス感染症による業績悪化のためか各社の採用枠を絞っているようにも見受けられ、例年よりも不合格数が増えた。しかしながら、このような状況にあって、卒業者37名中、就職を希望した学生13名は10月までに就職先が内定した。一方、20名の学生が専攻科、大学等へ進学した。専門分野は本学科が複合系学科であることから、機械系、電気系、情報系等多岐に渡ってきているのが最近の特徴である。20名のうち、本校専攻科には6名が進学した。なお、2名が奈良高専研究生になった。

学生への指導は、4年次学年末に進路に対するガイダンスを行うとともに、就職、進学各卒業生との懇談会を持ち、進路決定の参考としている。また、年末以降にR2年度分の各企業からの求人資料を公開し、将来の進路に対する意識を喚起している。さらに、5年生の保護者に対する進路ガイダンスをR3年度直前の3月下旬に実施し、学科の進路方針について説明を行なった。そして、就職活動を遅滞なく行うよう指導を強化し、5年次当初に就職・進学の希望調査を行い、進路対策委員、指導教員、保護者等のアドバイスのもと4月中旬に具体

的な受験企業及び進学受験先を決定した。なお、R3年度の採用選考等就職活動時期の変更に対しては、学生重視の観点から、各企業側の計画に応じて対応した。また、今後の就職活動時期については臨機応変に対応し、学生が不利益を被らないような対策、及び学生指導、保護者との懇談等が必要になる。

### (3) 電子制御工学科独自の事項

電子制御工学科においては学生の自主性と創造力の育成を重んじており、学生の自主学習を期待している。本学科に所属する学生の特徴の一つとして言えることは、入学当初からNHK主催「ロボットコンテスト」への参加を希望する学生が多いことに代表されるように、ものづくりに大変興味を持っている学生が多いということである。また、彼らの独創性や自主性を尊重しつつ、ものづくりへの興味を育んでいくためにも、「多段階体験による課題解決プログラム」を実施している（前述の(1)①の項を参照）。課題解決用のロボットの開発を最終目的とし、アクティブラーニングの要素を取り入れたPBLを導入し、PDCAサイクルを循環できる教育を行なっている。このプログラムは学生へのアンケートではよい評価を得ており、学生の自主的、積極的な取組、総合力の育成がされていると考えられる。また、5年生の卒業研究は、5年間の学業の集大成とも言えるものであり、学内にとどまらず、彼らの研究成果を広く社会に情報発信すべきとの考えから、毎年中間報告会と最終報告会を近隣企業と5年生の保護者に対して開催・聴講案内を送付しているが、R3年度は新型コロナウイルス感染症のため中間報告会をオンラインで実施し、最終報告会は4,5年生のみの参加として実施した。

### (4) 社会との連携

#### ① 公開講座

例年、小学校高学年生を対象とした「楽しく作るライン追跡ロボット」を8月下旬に実施している。本公開講座は、毎回参加希望者が定員の2倍近くに達しており、抽選により参加人数を調整している。実施アンケートの結果を見ても概ね好評であり、数年後に本校を受験し入学している参加者がいる等、長期的視点においても有効であることがわかる。しかしながら、新型コロナ（COVID-19）感染防止のため、R2、R3年度はこれら実施を見送ることとなったことは残念であった。

#### ② 産学連携

産学連携への取組にも力を入れ、各種展示会等への展示、奈良県内外企業からの技術相談、共同研究や受託研究等を積極的に行なった。

### ③ 地域連携

本校電子制御工学科棟電子工学実験室を会場として開催された大和郡山市科学教室・高専教室，学市連携出前授業として大和郡山市治道小学校，生駒市生駒北小学校等に参加し，近隣地域の小中学生の科学技術に対する興味の一層の増進に貢献した．ただし，新型コロナウイルス（COVID-19）感染防止のため，R2，R3年度はこれら実施を見送ることとなった．

## （５）国際交流

### ① 学生の国際交流派遣

グローバルエンジニア養成教育プログラム（GEP）及びグローバル工学協働教育プログラム（GECEP）へ20名弱が参加した．さらに，文部科学省の“トビタテ！留学JAPAN”のプログラムに採択され，参加した．

### ② 留学生の受け入れ

マレーシア政府派遣より，2名の留学生を受け入れている．

## 2. 5 情報工学科

情報工学科では，情報化社会の新たな問題を解決するために必要とされる情報技術，コンピュータ，ネットワークおよびセキュリティに関する知識，技術，問題解決能力を身につけた情報系技術者・研究者を養成することを教育目標にあげている．具体的には組み込みシステムやIoT等のハードウェア技術，AI，画像／音声等のマルチメディア情報処理，ソフトウェア工学等のソフトウェア技術，高速インターネット回線やコンピュータ，スマートフォン・タブレットなどの情報端末等を支えるネットワーク技術，安全なデジタル社会を実現するためのセキュリティ技術の各分野をカバーするため，ハードウェア，ソフトウェア，ネットワーク，セキュリティを教育の柱としてカリキュラムを編成し，教育目標の達成を目指し，教育・研究活動に取り組んでいる．

### （１）教育手段への取組み

#### ① サイバーセキュリティ教育研究部門

情報工学科では，サイバーセキュリティの重要性を認識し，これまでも情報系専門学科としてサイバーセキュリティ教育研究に取り組んできた．特に近年は，高等教育機関に対するサイバーセキュリティ人材の育成ならびにサイバーセキュリティに関する研究の推進の要望が高まっている．そこで情報工学科では，H28年末に「サイバーセキュリティ教育研究部門」を設置し，より深化したサイバーセキュリティ教育研究に取り組んでいる．これまでの活動は以下のとおりである．



- ・サイバーセキュリティ対策アドバイザー

R1 年 7 月 31 日に情報工学科教員が奈良県警察からサイバーセキュリティ対策アドバイザーの委嘱（～現在）を受け、R1 年 12 月 10 日及び R2 年 1 月 15 日にログ解析手法やメモリフォレンジック手法に関する実技演習を実施した。更に、R2 年 11 月 17 日にモバイル端末の活用における留意点と電子決済の不正利用事案について講演した。

- ・サイバー防犯ボランティア活動

H30 年 11 月 8 日に、情報工学科が奈良県警察からサイバー防犯サポーターの委嘱を受けた。以降、学生が奈良県警察と協力して、サイバー空間の浄化活動等のサイバー防犯ボランティア活動を行なっている。

- ・情報セキュリティ教育研究会 2019（木更津高専情報工学科と合同で開催）
- ・佐世保高専におけるサイバーセキュリティ人材育成事業の視察
- ・サイバーセキュリティ対策についての講演

## ② 社会のニーズに対応したカリキュラム改訂

科内のカリキュラム検討 WG で検討を重ねた上で改訂したカリキュラムを R1 年度に導入している。ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークを軸とし、更に社会のニーズの変化に合わせて上述の情報セキュリティ分野を含めて新しい科目を多く取り入れ、カリキュラムを大幅に見直した。なお、H26 年度から全学年で新カリキュラムとなり、2 年間のカリキュラム検討 WG での議論を経て、H28～29 年度には、情報分野のコアカリキュラムに対応した新カリキュラム案を作成した。R1 年度以降実施のカリキュラムの主な変更点を以下に示す。

- ・確実な基礎力を身につけるために、2 年時にプログラミング基礎と電気回路基礎を実施
- ・課題解決の手段としてのデータ処理能力を養うために、4 年時に実例に即した演習を含む数値計算・統計を実施
- ・他者と協調・協働して行動できる能力を養成するため、3、4 年時に学年横断科目の課題解決型講義である情報アクティブラーニング I, II を実施

## ③ 社会のニーズに対応した実験・演習科目の内容の見直し

PBL 科目教育のニーズの高まりに対応して上述の情報アクティブラーニング I, II を 1 グループ 8 名程度による本科 3、4 年生の混成グループで実施する。

## ④ インターンシップへの取り組み

H30 年度からは受講率 80%以上を目標に取り組んでいる。例年の受講希望者は 8 割を超えているが、公募型のインターンシップの増加に伴う競争状況や学生の希望する受け入れ先の確保の問題等があり、実際の参加率は 7 割前後である。R1 年度は 37 名中 35 名（95%）がインターンシップを希望し、うち 26 名の学生が 27 社（1 名のみ 2 か所で実施）の約 73%

がインターンシップに参加した。R2年度は、インターンシップを中止、R3年度は、36名中4名の約11%であった。

#### ⑤ 卒業研究と特別研究に関する学内外発表

情報工学科所属の学生が卒業研究及び特別研究の成果を外部で発表するよう指導を行っている。専攻科生は2年間で1回以上の学外発表を行うよう指導している。それらの発表に対し学会からの表彰を毎年複数件受賞している。R1年度は、9月に情報コースの専攻科生1名のポスター発表がFinalists of SICE2019 Annual Conference Awardに選ばれた。ほかにも11月には、一般社団法人関西ニュービジネス協議会主催のビジネスコンテスト「NBKニュービジネスアワード2019」において、情報コースの専攻科生1名がビジネスプラン部門において最優秀賞を受賞した。2020年の「関西NBCニュービジネスアワード2020」においても専攻科生1名がビジネスプラン最優秀賞を受賞した。

5年生が取り組む卒業研究「災害時用情報通信システム」を題材として、2021年8月～2022年2月の期間で実施された第4回高専防災コンテストに参加した結果、2ndステージ進出を果たした。

R4年2月25日（金）に開催された「令和3年度第3ブロック専攻科研究フォーラム」の発表で、専攻科生2名が優秀賞を受賞した。

R3年3月に開催された「情報処理学会第83回全国大会」の発表で、専攻科生1名が学生奨励賞を受賞した。

R4年3月に開催された「情報処理学会第84回全国大会」の発表で、本科生1名と専攻科生1名が学生奨励賞を受賞した。

なお、学内の発表に関しても、学外発表において広く実施されているポスターによる発表形式をH25年度から卒業研究中間発表会に導入している。更に提出された論文を教員が査読を行い、研究内容を精査する。論文内容が不十分であるときは、提出後から卒業までの残った期間で追加研究を実施する等して、研究や論文内容の質を高める指導を実施している。

#### ⑥ カリキュラム以外での学生教育

学生の情報工学専門科目の学習意欲と学力及び能力の向上を図るために、おもに以下の資格取得への推奨と各種コンテストへの参加の取り組みをそれぞれ担当教員の指導の下で行なっている。

##### ・情報処理技術者資格の取り組み

情報処理推進機構が実施する情報処理技術者試験をはじめとする各種情報処理技術者資格を取得することを推奨している。具体的には1～2年次でITパスポート試験以上、3年次で基本情報技術者試験以上の合格を目標に設定し、受験希望学生に対して放課後や長期休業期間中に情報処理演習室で個別指導等を実施している。

・プログラミングコンテスト等への取り組み

全国高等専門学校プログラミングコンテストの競技部門、課題部門、自由部門にそれぞれ学生チームを出場させている。R3年度の第32回プログラミングコンテストの競技部門に3年生から5年生の3名が参加する等、プログラミングのスキルアップを図っている。

H29年度からは、全国高等学校パソコンコンクール（パソコン甲子園）のプログラミング部門、モバイル部門等に出場している。R1年度、R2年度、R3年度は、プログラミング部門で予選を通過し、本選出場を果たした。

・セキュリティ・コンテストへの取り組み

H28年度は、11月27日にKOSENセキュリティ・コンテスト2016に4名（うち、情報工学科3年から2名）参加し、B部門第2位となった。H29年度は、KOSENセキュリティ・コンテスト2017に4名（うち、情報工学科4年から2名）参加し、優勝（第1位）となり、H30年2月17日に開催されたセキュリティ技術を競う日本国内最大のコンテストSECCON2017国内決勝大会への出場権（招待枠4チーム）を得て、大学生、社会人チーム等オンライン予選上位20チームを加えた参加24チーム中19位となった。H30年度は、「KOSENハッカソン2018」（学生向け情報セキュリティイベント）に学生3名が参加した。R1年度KOSENセキュリティ・セキュリティコンテスト2019には、2チームが参加した。専攻科生4名のチーム（うち3名が情報コース）が4位、本科生の3年から5年の混合チーム4名が12位であった。R2年度は、11月14日にオンラインで開催されたKOSENセキュリティコンテスト2020において、本科生1名、専攻科生3名のチームが参加し、優勝した。

R3年度は、サイバーセキュリティ教育プログラム「CyberSakura」に本科3年生の2チームと本科1年生の1チームが参加した。高専生9チームを含む中高生24チームが参加した予選ラウンドにおいて、本科3年生5名のチームが上位3チームに入り、決勝ラウンドへ進出した。さらに、R4年3月26日に開催された決勝ラウンドにおいて、本科3年生5名のチームが優勝した。

・情報オリンピックの取り組み

情報オリンピックに1、2年生の有志を参加させ、思考力の育成を図っている。R3年度は、4名（市川注：漆原、竹田、富岡、藤村）が予選に参加した。

・デザインコンペティションへの取り組み

R1年度は、12月に全国高等専門学校デザインコンペティションのAMデザイン部門に4年生4名が参加し、全国で11位という成績をおさめた。

・他コンテストへの取り組み

他にも、ICTSC（ICTトラブルシューティングコンテスト）では、H31年、R2年に本学科

学生が参加し、R2年度には優勝した。

- ・ AtCoder などの競技プログラミングへの参加も推奨しており、学生のプログラミングスキルの向上を図っている。

- ・ 留学生に対する補講の取り組み

留学生 1 名に対して情報工学科学生 2 名をチューター選任し、寮生活・学校生活に対する支援と勉学に対する支援を行なっている。

## (2) 教育環境への取り組み

### ① 教員組織

H29 年度に助教 1 名を新規採用し、R3 年度は、教授 5 名、准教授 4 名、助教 1 名、技術職員 1 名のほか、合計 11 名のスタッフで教育・研究に当たっている。

### ② 情報処理実習室等の施設・設備の更新

H27 年度に、カリキュラム改訂に伴うソフトウェア及びネットワーク系演習科目増への対応を目的とした第 2 演習室化への設備更新を実現した。H30 年度末には、情報工学科 1 階の情報処理実習室のセンター教室化及び 2 階の情報工学実験室（第 2 演習室）の更新を行い、PC 設備を一新した。まず情報処理実習室では、年度末に R1 年度の図書館棟改修工事に伴う LL 教室の移転先として学内共用施設化して総合情報センター第 3 演習室に改称し、PC 設備がセンターの新設備へと更新された。並行して情報工学実験室では、H30 年度末に、老朽化した情報工学科 PC 設備を更新し、合わせてアカウントを総合情報センターに統合し、センター 3 教室と同一のアカウントで利用できるよう利用学生の利便性を高めた。

### ③ 学科の情報発信と広報活動

学科紹介パンフレット、キャンパスガイド、学校概要の記述内容をそれぞれ見直し、現状に即した文章、データ、写真等に更新した。また、R3 年度には、アクティブラーニングの 1 つのテーマとして学生が作成した学科紹介パンフレットを作製した。体験入学については、プログラミング体験など学科カリキュラムに対応した内容で実施している。秋の学校・入試説明会では、アクティブラーニングで作成した学生による学科紹介コンテンツを使用するなど、参加者から好評を得た。これらの取り組みは、情報工学科の入学試験の受験倍率の維持・増加の一役を担っている。

### ④ e-Learning システムの活用

他学科に先駆けて一部の授業において本格的にブレンディット e-Learning による授業を実施している。これにより、学生の授業に対する授業理解度の把握や、課題、レポート作成等の進捗把握、成績評価の学生への提示が速やかに実施されている。さらに、e-Learning システムのアンケート機能を利用して、授業や e-Learning に対する満足度調査を行い、調査結

果に基づいた授業改善を行なっている。また、学生の資格取得、放課後における自学自習のための e-Learning コンテンツの提供も開始しており、学力向上とキャリア教育にむけた取組と成果が得られている。また、e-Learning システムを活用し、アクティブラーニングの試行を実施している。H25 年度に教育支援用ソフトウェアを導入し、H26 年度からそのソフトウェアと e-Learning システムを活用した授業展開を開始している。R2 年からは Microsoft 社の Teams も使用したオンライン授業、オンデマンド授業にも対応している。

#### ⑤ ネットワーク環境の整備

情報工学科の LAN は他の学科に先駆けて H20 年度に高速ネットワーク環境に移行した。更に H28 年 8 月にネットワークの張替えを行い、それまでの Cat5 から Cat6 に移行し、更に通信速度が向上した。R1 年度からはそれまでの LL 教室にあった設備を情報工学科 1 階に移転、共同施設の情報処理演習室 3 とし、他学科や他専攻でも利用できるようにした。また、同じ H31 年 3 月からこれまで情報処理センターと 2Gbps でつないでいた回線を 20Gbps で接続できるようになった。このように基幹ネットワークとの接続整備を随時行なっていくことで、情報工学科の高度なネットワーク系の教育を支えている。

### (3) 進路指導への取り組み

情報工学科での進路指導は学科主任、副主任、5 年学級担任を含む 5～6 名の教員（内資料管理 1 名）で進学、就職をそれぞれ分担して行なっている。毎年 7～9 月頃に 1～3 年生の保護者向けに学級担任教員らと協力して合同保護者懇談会を開催し、学科主任が学科の進路指導状況について説明している。最近では 3、4 年生の学級担任と協力して、まず進学・就職どちらかの進路選択を早めに行うよう学生に指導している。主な狙いは、進学希望者は科目平均点 80 点以上を目標に学業に取り組むこと、就職希望者は 3 年次の段階で部活動や課外活動に積極的に取り組むことである。第 4 学年では夏休みでの学外実習を経て、12 月頃から本格的に進路指導を開始し、翌年 3 月に主任が新 5 年生対象進路説明会を実施するとともに、進路希望を調査する。それ以降、卒業研究の研究室配属を決定し、主任、副主任、5 年学級担任で保護者対象の進路説明会を開催し、各指導教員のもとで進路指導を開始している。

本科生の 5 年次 4 月時点での希望進路先は、例年進学希望者が 25 名程度、就職希望者が 15 名程度である。進学希望者のうち 3 名程度が夏休み以降、就職に進路変更しており、最近 3 年間は、進学 14～23 名程度、就職 15～21 名程度、研究生 0～2 名程度で推移している。R3 年度は、卒業生名 39 名中、進学 14 名（奈良高専専攻科システム創成工学専攻 7 名）、就職 21 名、研究生 2 名、未定 2 名である。

- ・ 支援学生の指導

支援対象学生の保護者と連絡を取りながら、本科 1～4 年生は在籍クラスの学級担任、本科 5 年生及び専攻科生は、指導教員が教科担当と連携し、学習相談を中心に行なっている。

- ・ 国際交流

H27 年、H30 年にそれぞれ 10 月から 12 月の 2 か月間で 2 名のシンガポールのナンヤンポリテク短期留学生を受け入れた。H30 年 8 月には香港 IVE 受入イベントとして

『Program with scratch』Work Shop を開催した。

#### (4) 社会貢献

以下のように公開講座、学市連携、出前授業において複数の教員が小中学生対象の講座を開設し、積極的に社会貢献を行なっている。

##### ① 公開講座

毎年、電子情報通信学会関西支部と共催で小中学生向けのプログラミング入門に関する公開講座を実施している。H28 年度から小学校高学年向けの初級講座と中学生向けの中級講座の 2 コースに分けて開催している。親子ペアでの申し込みで、各コースの定員は、初級:20 組 40 名、中級:10 組 20 名である。R1 年度の受講生及び保護者それぞれのアンケート結果は半数以上の受講生が高い満足度を示し、全体的に好評であった。R2, 3 年度は中止とした。

##### ② 学市連携

大和郡山市との学市連携協定に基づく科学教室の一環として、情報工学科は「少年少女パソコン教室（パソコンでアニメーションを作ろう）」を年 3 日間担当している。R1 年度は 6 月～7 月の休日の 3 日間にわたって実施し、小学 4～6 年生 15 名が参加した。この教室は毎年、教員 3 名、技術職員 1 名、学生 6 名程度で運営している。

##### ③ 出前授業

H29 年度から、生駒市教育委員会からの依頼で、プログラミングに必要な問題解決の手順（アルゴリズム）を試行錯誤しながら学ぶ出前授業を実施している。R1 年度は「いこまっこチャレンジ教室『プログラミングに挑戦』」を 12 月に教員 3 名、技術職員 1 名、学生 10 名で実施した。他にも 8 月には、近鉄百貨店橿原店において「夏休みこども博」の一環で出前授業「パズルの達人」を教員 2 名、補助学生 5 名で実施、他にも『IKOMA サマーセミナー』において「音を見てみようーフリーソフトで音を分析するー」として、教員 1 名、事務職員 1 名で出前授業を実施した。生駒市以外でも出前授業を実施しており、1 月に川西町子ども探検隊「プログラミングに挑戦」に教員 3 名、技術職員 1 名、補助学生 10 名で、9 月には田原本町青垣生涯学習センター、「子ども科学教室『プログラミングに挑戦！』」を教員

3名、技術職員1名、補助学生10名で実施した。H31年、R2年10月には奈良市立三笠中学校において「高校授業体験」にて教員1名、事務職員1名で出前授業を実施した。

## 2.6 物質化学工学科

### (1) 令和3年度の重点取り組み課題

#### ① 実践教育への取り組み

当該学科では、『化学と生物の二つの学問領域を礎とする幅広い技術領域で活躍できる、時代に流されない確かな学問と技術を有したダイナミックレンジの広い創造的人材の育成』という目標を掲げて教育を行なっている。卒業後に学生が自立した技術者として活躍できるようにするために、在学中から目的意識をもって学習に取り組む実践教育を行う必要がある。

#### ② 研究開発を通じた地域社会貢献

当該学科では、学生が機器分析技術や原理を習得することの重要性を考え、学生・教職員の教育研究活動の高度化と活性化、さらには産学連携活動の推進をめざして、物質化学工学科機器分析センター（H25年度に高専教育の高度化予算の支援を受けて設立、今年度に全学的な組織に改編）の拡充を行なってきた。引き続き、高度な能力を有する技術者の育成を行うためには、地域社会と産学官連携活動を行う総合研究開発拠点を整備する必要がある。

#### ③ 国際化をめざした先端技術教育

当該学科では、化学と生物に係わる産業分野において、急速な時代の流れにも対応できる創造的人材の育成を目指している。現在、我が国を取り巻く国際情勢は風雲急を告げ、先端技術教育の趨勢が国の存亡に係るところにまで事態が進行している。そこで、応用化学からバイオテクノロジーの基礎と応用力を使って、分子・ナノレベルの微小な世界から化学工学によるプラント設計や地球環境の保護といったマクロ的な世界にも対応できる人材の育成を行い、産業界に優れた人材を送り出すことが重要である。

### (2) 重点取り組み課題の達成状況

#### ① 実践教育への取り組み

R1年度の全学的なカリキュラム改訂により、当該学科ではIOT技術を含めて化学と生物の幅広い視野と知識を育みながら、技術の本質を見抜く力をより強固にし、目的意識を持って技術の修得に取り組めることを目指してきた。そのために、情報科学（2年2単位）を情報リテラシーとして1年で2単位配当しIOT教育を充実させるとともに、低学年の段階から教科担当教員が授業中に工学的応用分野に触れることで、幅広い知識の定着と想像力の向上を図ってきた。その事例としては、第3学年ではH17年度から導入した創造力の育成

を目的として、問題解決型テーマを設定した実験とプレゼンテーションによる実践的技術者教育を実施してきた。また、第4・5学年の卒業研究においても高度な分析装置を用いて実践的教育を行ってきた。昨今のコロナ過の中では、Microsoft Teams によるグループワークやプレゼンテーションを駆使して、対面授業を行えない状況を逆に積極的に利用することで、IOT 教育を取り込んだ形での実践的教育を行うことを可能にしてきた。

## ② 研究開発を通じた地域社会貢献

例年、教員が公開授業や出前授業等を通じた学外協力にも積極的に参画し、理科教育支援及び産学連携活動を推進している。昨今のコロナ過で対面式のイベントは行えない状況ではあるが、若手教員と学生との協力で、理科実験の動画を撮影しオンラインイベントでの活用を目指している。また、研究活動を通じた社会貢献は、各教員レベルで取り組んでおり、それぞれ専門分野での学協会に所属して学会活動を行なっている。さらに、科学技術研究費をはじめとする競争的資金、企業との共同研究・受託研究あるいは奨励寄付金を獲得する教員もおり、その研究成果を通じた社会貢献にも積極的に取り組んでいる。

上記に加えて当該学科では、高度な分析装置の有効利用と維持管理の観点から、学外にも広く門戸が開かれた組織としての役割を担えるように、文部科学省（JST）先端研究基盤共用促進事業に申請し、全国高専で唯一採択されてきた。H29年度より機器分析センターに設置されている研究設備・機器について、地域企業や近隣大学・研究機関による共用化による有効活用を進めるために、大阪大学が主管して大阪市立大学と奈良高専が参画する「阪奈機器共用ネットワーク」に参画している。当該学科は、このネットワークの遠隔利用サービスを利用することで、IOT 技術に対応できる人材育成にも取り組んできた。さらに当該学科では、これら分析機器については、今年度から本学研究推進部門の管轄になった共通機器管理センターに登録・運用を主体的に進めるとともに、高専発「Society5.0 型未来技術人財」育成事業における GEAR5.0 (未来技術の社会実装教育の高度化) の防災・減災分野「K- $\S$  MART が拓く超スマート社会の実現に向けた実装技術の開発」に協力することで、社会実装を遂行する能力を備えた人材を地域社会に送り出す仕組みを整備してきた。

## ③ 国際化をめざした先端技術教育

グローバル人材の育成に対応した技術教育への対応として、長岡技術科学大学を中心とするコンソーシアムに基づいた英文電子ジャーナルを活用した卒業研究・講義等における文献調査の推進を行ってきた。特に、学生に対する技術分野の外国語教育は、卒業研究において、英語の文献調査等、研究遂行による実践的な取り組みを通じて推進し、専門用語に慣れる機会を増やして英語力の増強をはかってきた。また、学生・専攻科生がコロナ禍にもかかわらず、オンラインなどを通じて国内外で開催される国際会議において研究発表を行ってきた。



### (3) 令和4年度に向けた課題

#### ① ポストコロナに向けた実践教育の取り組み

コロナ前の生活様式に戻りつつある中で、対面式授業において従来の手を動かして行う実験技術と IOT 技術との融合により、化学と生物の分野においてイノベーションを起こせる人材育成をいかに行うか検討する。

#### ② 地域社会貢献の拡充

IOT 技術に対応できる化学・生物分野の人材育成の先にある、地域企業への社会貢献をいかに行うか検討する。

#### ③ 先端技術教育の国際化

海外渡航が徐々に緩和される方向である中で、教員および学生が海外に出て研究や技術教育で交流を進めるための仕組みの拡充をいかに行うか検討する。

### 第3章 研究活動

※教員の研究活動については国立高専研究情報ポータル (<https://research.kosen-k.go.jp/>) への掲載に代えています。

#### 3. 1 教育研究支援室における研究活動

【学会講演等】3件

◎ 技術職員のみ (2件)

1. 伝統技法を題材にした「ハイブリッド型実験教材の開発」

尾崎 充紀

第13回高専技術教育研究発表会 in 木更津 概要集, 2022年3月, pp.25-26

2. 車いすでの作業を可能にするフライス盤補助装置の開発

福田 龍一

第13回高専技術教育研究発表会 in 木更津 概要集, 2022年3月, pp.27-28

◎ 教員 (\*1) と専攻科生 (\*2) および学外共同研究者 (\*3) との連名 (1件)

1. 翼後縁部に弾性平板を用いたジャイロミル風車の実証実験

坂本 雅彦\*1, 蔦原 道久\*3, 中内 豊\*4, 尾崎 充紀, 島田 大嗣, 福田 龍一, 井上 智弘, 萩原 奈月, 塩見 清純\*2

日本機械学会第99期流体工学部門講演会, 2022年11月, 演論文集 OS09-03

#### 3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況

【研修・講習等への参加】20件

研修名：令和3年度東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修

開催日時：令和3年8月25日（水）～27日（金）

参加者名：尾崎 充紀, 福田 龍一

開催場所：オンライン開催

主催：富山高等専門学校

研修名：技術職員が指南！分析装置初歩セミナー「SEMの原理、装置の構成」

開催日時：令和3年8月27日（金）

参加者名：加藤 綾子

開催場所：オンライン開催（Zoom）

主催：分子科学研究所, 大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名：特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習

開催日時：令和3年8月30日（月）～31日（火）

参加者名：尾崎 充紀

開催場所：エル・おおさか（大阪府立労働センター）南館4階

主催：（公社）大阪労働基準連合会

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー  
「試料の前処理、SEM観察実演」「NMRの原理」  
開催日時： 令和3年9月3日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー「SEMに関連する分析法の紹介、その他」  
開催日時： 令和3年9月10日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習  
開催日時： 令和3年9月13日（月）～14日（火）  
参加者名： 島田 大嗣，福田 龍一  
開催場所： エル・おおさか（大阪府立労働センター）南館4階  
主催： （公社）大阪労働基準連合会

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー「NMRの測定法」「質量分析の概要」  
開催日時： 令和3年9月17日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー  
「NMRスペクトルの見方」「マスマススペクトロメトリー解析の基礎」  
開催日時： 令和3年9月24日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー「RI基礎」  
開催日時： 令和3年10月1日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー「XPS基礎」  
開催日時： 令和3年10月8日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー  
「TEM入門－試料作製－」「ICP-OES基礎編」  
開催日時： 令和3年10月15日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー  
「TEM入門－結像の仕組みとコントラスト－」  
開催日時： 令和3年10月22日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 令和3年度IT人材育成研修会  
開催日時： 令和3年10月26日（火）～27日（水）  
参加者名： 二宮 由成  
開催場所： オンライン開催  
主催： 独立行政法人国立高等専門学校機構本部

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー  
「XRD基礎（X線回折法の基礎）」「XRD薄膜測定基礎」  
開催日時： 令和3年11月5日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー  
「SQUID型磁化測定装置の基礎」「電子スピン共鳴（ESR）基礎」  
開催日時： 令和3年11月19日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 技術職員が指南！分析装置初歩セミナー  
「3Dプリンタ入門」「蛍光X線分析装置（XRF）」「有機元素分析の基礎」  
開催日時： 令和3年11月26日（金）  
参加者名： 加藤 綾子  
開催場所： オンライン開催（Zoom）  
主催： 分子科学研究所，大学連携研究設備ネットワーク事業

研修名： 令和3年度国立高等専門学校機構情報担当研修会

開催日時： 令和3年11月29日（月），12月1日（水）

参加者名： 二宮 由成

開催場所： オンライン開催

主催： 独立行政法人国立高等専門学校機構本部

研修名： 1DCAE・MBDシンポジウム2021

開催日時： 令和3年12月8日（水）～10日（金）

参加者名： 尾崎 充紀，島田 大嗣，井上 智弘，福田 龍一，萩原 奈月

開催場所： オンライン開催

主催： 日本機械学会 設計工学・システム部門

研修名： AR溶接訓練シミュレーター「Soldamatic（ソルダマティック）」の紹介

開催日時： 令和4年2月15日（火）

参加者名： 笹山 智仁

開催場所： オンライン開催（Zoom）

主催： 株式会社 大塚商会

講演名： 第22回質量分析技術者研究会・講演「MSの発展と科学捜査」

開催日時： 令和4年3月15日（火）

参加者名： 笹山 智仁

開催場所： オンライン開催（Zoom）

主催： 日本質量分析学会 質量分析技術者研究会

## 第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
1 教育の内部質保証システム	1-1 【重点評価項目】教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。	1-1-① 【重点評価項目】教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	1-1-①-(1)	1	学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門	
			1-1-①-(2)	2	(1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門	
			1-1-①-(3)	3	(1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。 ■設定している □設定していない	総務部門	
			1-1-② 【重点評価項目】内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	1-1-②-(1)	4	根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。 ■収集・蓄積している □収集・蓄積していない	総務部門
				1-1-②-(2)	5	自己点検・評価を定期的に行っているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
				1-1-②-(3)	6	(2)の結果を公表しているか。 ■公表している □公表していない	総務部門
				1-1-③ 【重点評価項目】学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	1-1-③-(1)	7	自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、□就職・進学先関係者
			自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、□就職・進学先関係者				学生部門
		自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、□就職・進学先関係者	索務・グローバル 教育部門				
		自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、■卒業（修了）時の学生、■卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、■就職・進学先関係者	専攻科・研究推進 部門				
		1-1-③-(2)	8	自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	教務部門		
				自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、□学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、□教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	学生部門		
				自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	索務・グローバル 教育部門		
				自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 □学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	専攻科・研究推進 部門		

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価(進級時等、卒業(修了)前の評価)、■学生による満足度評価(進級時等、卒業(修了)前の評価)、□その他 【卒業(修了)時の意見聴取】 □卒業(修了)時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業(修了)時の学生による満足度評価、□その他 【卒業(修了)後の意見聴取】 □卒業(修了)後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業(修了)後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価(機関別認証評価、JABEE等。)、□設置計画履行状況調査、□その他	総務部門
		1-1-④ 【重点評価項目】自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。	1-1-④-(1)	9	自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	総務部門
			1-1-④-(2)	10	前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	教務部門
					前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	専攻科・研究推進部門
					前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	総務部門
			1-1-④-(3)	11	(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	教務部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	学生部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	業務・グローバル教育部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	専攻科・研究推進部門
					(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	総務部門
1-2	準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて定められていること。	1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-①-(1)	12	ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	教務部門
			1-2-①-(2)	13	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの)と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	教務部門
			1-2-①-(3)	14	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	教務部門
		1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-②-(1)	15	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	教務部門
			1-2-②-(2)	16	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	教務部門
			1-2-②-(3)	17	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、どのような内容を含んでいるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■学習成果をどのように評価するかを示している □その他	教務部門
		1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-③-(1)	18	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	教務部門(入試)
			1-2-③-(2)	19	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)は、学校の目的や学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの)、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	教務部門(入試)
			1-2-③-(3)	20	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門(入試)
			1-2-③-(4)	21	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)には、「求める学生像(受け入れる学生に求める学習成果を含む。)」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門(入試)
			1-2-③-(5)	22	受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	教務部門(入試)

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
		1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-④-(1)	23	ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門	
			1-2-④-(2)	24	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門	
			1-2-④-(3)	25	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	専攻科・研究推進部門	
			1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑤-(1)	26	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑤-(2)	27	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑤-(3)	28	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している □学習成果をどのように評価するかを示している □その他	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑥-(1)	29	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑥-(2)	30	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑥-(3)	31	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門
		1-2-⑥-(4)		32	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門	
		1-2-⑥-(5)		33	受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	専攻科・研究推進部門	
		1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	1-3-①-(1)	34	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門
						学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門
						学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
				1-3-①-(2)	35	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	専攻科・研究推進部門
					学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	専攻科・研究推進部門	
					学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	総務部門	
	2 教育組織及び教員・教育支援者等	2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	2-1-①-(1)	36	学科の構成が学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	専攻科・研究推進部門
			2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	2-1-②-(1)	37	専攻の構成が学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	専攻科・研究推進部門
			2-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。	2-1-③-(1)	38	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門	
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	事務・グローバル教育部門	
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門	
				教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門		



基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等			
			2-1-③-(2)	39	(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門			
			(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門					
			(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	業務・グローバル 教育部門					
			(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門					
			(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門					
	2-2 教育活動を展開する ために必要な教員が 適切に配置されてい ること。	2-2-① 学校の目的を達成 するために、進学 士課程に必要な一 般科目担当教員及 び各学科の専門科 目担当教員が適切 に配置されている か。		2-2-①-(1)	40	一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門		
				2-2-①-(2)	41	専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門		
				2-2-①-(3)	42	専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門		
				2-2-①-(4)	43	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	教務部門		
				2-2-①-(5)	44	適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。(該当する選 択肢にチェック■する。) ■博士の学位 □ネイティブスピーカー(担当する言語を母国語とする) □技術資格 ■実務経験(教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等) □海外経験 □その他	総務部門		
		2-2-② 学校の目的を達成 するために、専攻 科課程に必要な各 分野の教育研究能 力を有する専攻科 担当教員が適切に 配置されている か。		2-2-②-(1)	45	専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。 ■適切に確保している □適切に確保していない	専攻科・研究推進 部門		
				2-2-②-(2)	46	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進 部門		
				2-2-②-(3)	47	適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進 部門		
		2-2-③ 学校の目的に応じた 教育研究活動の 活性化を図るた め、教員の年齢構 成等への配慮等適 切な措置が講じら れているか。		2-2-③-(1)	48	教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、 教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	総務部門		
				2-2-③-(2)	49	(1)以外に配慮している措置はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■教育経歴 ■実務経験 ■男女比 □その他	総務部門		
				2-2-③-(3)	50	在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために 行っている措置等はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学位取得に関する支援 ■任期制の導入 ■公募制の導入 ■教員表彰制度の導入 □企業研修への参加支援 ■校長職費等の予算配分 □ゆとりの時間確保策の導入 □サブディカル制度の導入 ■他の教育機関との人事交流 □その他	総務部門		
				2-3 全教員の教育研究活 動に対して、学校 による定期的な評価 が行われていること。 また、教員の採用及 び昇格等に当たっ て、明確な基準や規 定が定められ、それ に従い適切な運用が なされていること。	2-3-① 全教員の教育研究 活動に対して、学 校による定期的な 評価が行われてお り、その結果が活 用されているか。	2-3-①-(1)	51	全教員(非常勤教員を除く。)に対して校長又はその委任を受けた者による教育上 の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分 への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
						2-3-①-(2)	52	(1)の体制の下、教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
				2-3-①-(3)	53	把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。(該当する選択肢にチェック ■する。) □給与における措置 ■研究費配分における措置 □教員組織の見直し ■表彰 □その他	総務部門		
				2-3-①-(4)	54	非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	教務部門		
	2-3-② 教員の採用や昇格 等に関する基準や 規定が明確に定め られ、適切に運用 されているか。		2-3-②-(1)	55	教員(非常勤教員を除く。)の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めている か。 ■定めている □定めていない	総務部門			
			2-3-②-(2)	56	(1)で定められている基準等では、教育上の能力等を確認する仕組みとなっている か。(該当する選択肢にチェック■する。) ■模擬授業の実施 ■教育歴の確認 ■実務経験の確認 □海外経験の確認 □国際的な活動実績の確認 ■その他	総務部門			
			2-3-②-(3)	57	(1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門			
			2-3-②-(4)	58	非常勤教員の採用基準等を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門			

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
2-4	教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	2-4-①-(1)	59	学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を実施する体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			2-4-①-(2)	60	定期的にFDを実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
			2-4-①-(3)	61	(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	教務部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	学生部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	寮務・グローバル 教育部門
			2-4-①-(3)	61	(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	専攻科・研究推進 部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	総務部門
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	総務部門
			2-4-②	2-4-②-(1)	62	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない
		2-4-②-(2)				63
		2-4-③	2-4-③-(1)	64	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
		3	学習環境及び 学生支援等	3-1-① 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備され、とともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究に必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	3-1-①-(1)	65
3-1-①-(2)	66				校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
3-1-①-(3)	67				運動場を設けているか。 ■校舎と同一の敷地内又はその隣接地に設けている □その他の適当な位置に設けている □設けていない	総務部門
3-1-①-(4)	68				高等専門学校の校舎に専用の施設を法令に従い適切に備えているか。 ■備えている □備えていない	総務部門
3-1-①-(5)	69				学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■実験・実習工場 □練習船 □その他	総務部門
3-1-①-(6)	70				自主的学習スペースを設けているか。 ■設けている □設けていない	教務部門
					自主的学習スペースを設けているか。 ■設けている □設けていない	寮務・グローバル 教育部門
3-1-①-(7)	71				教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■厚生施設 ■コミュニケーションスペース □その他	教務部門
					教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■厚生施設 □コミュニケーションスペース □その他	学生部門
					教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■厚生施設 ■コミュニケーションスペース □その他	寮務・グローバル 教育部門
3-1-①-(8)	72				施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
3-1-①-(9)	73				(8)の体制が有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	総務部門
3-1-①-(10)	74				施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
3-1-①-(11)	75				整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
3-1-①-(12)	76				(11)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
		3-1-②-(1)	77	教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境を適切に整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門	
		3-1-②-(2)	78	ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門	
3-1-②-(3)	79	ICT環境は有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	教務部門			

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			3-1-②-(4)	80	(3)について学生や教職員のICT環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			3-1-②-(5)	81	(4)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門
		3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	3-1-③-(1)	82	図書館の設備を法令に従い備えているか。 ■備えている □備えていない	教務部門
			3-1-③-(2)	83	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。 ■系統的に収集、整理している □系統的に収集、整理していない	教務部門
			3-1-③-(3)	84	(2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	教務部門
			3-1-③-(4)	85	(4)(2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
3-2	教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。	3-2-①-(1)	86	教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学科生 ■専攻科生 □編入学生 ■留学生 ■障害のある学生 □社会人学生 □その他  教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学科生 ■専攻科生 □編入学生 □留学生 ■障害のある学生 ■社会人学生 □その他	教務部門  専攻科・研究推進部門
		3-2-② 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上で相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	3-2-②-(1)	87	学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他  学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) □担任制・指導教員制の整備 □オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他  学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他	教務部門  業務・グローバル教育部門  専攻科・研究推進部門
			3-2-②-(2)	88	(1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない  (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない  (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	教務部門  業務・グローバル教育部門  専攻科・研究推進部門
			3-2-②-(3)	89	学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の導入 ■学生との懇談会 ■意見投書箱 □その他  学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の導入 □学生との懇談会 □意見投書箱 □その他	教務部門  専攻科・研究推進部門
			3-2-②-(4)	90	(3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない  (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない  (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門  業務・グローバル教育部門  専攻科・研究推進部門
		3-2-③ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	3-2-③-(1)	91	留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	業務・グローバル教育部門
			3-2-③-(2)	92	(1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	業務・グローバル教育部門
			3-2-③-(3)	93	編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			3-2-③-(4)	94	(3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
			3-2-③-(5)	95	社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(6)	96	(5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。 □行っている ■行っていない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(7)	97	障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(8)	98	(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(9)	99	障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条 項も含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	教務部門
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条 項も含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	学生部門
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条 項も含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(10)	100	上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
		3-2-④ 学生の生活や経済 面に係る指導・ 相談・助言等を行 う体制が整備さ れ、機能している か。	3-2-④-(1)	101	学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備し ているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学生相談室 ■保健センター ■相談員やカウンセラーの配置 ■ハラスメント等の相談体制 ■学生に対する相談の案内等 ■奨学金 ■授業料減免 □特待生 ■緊急時の貸与等の制度 □その他	学生部門
			3-2-④-(2)	102	(2)健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	学生部門
			3-2-④-(3)	103	(3)(2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助 言等の活動が実際に学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	学生部門
		3-2-⑤ 就職や進学等の進 路指導を含め、 キャリア教育の体 制が整備され、機 能しているか。	3-2-⑤-(1)	104	就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-⑤-(2)	105	(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校とし てどのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 ■進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 ■進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ■資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	学生部門
					(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校とし てどのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■キャリア教育に関する研修会・講演会の実施 ■進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 ■進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 ■資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	専攻科・研究推進 部門
			3-2-⑤-(3)	106	(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門
					(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	専攻科・研究推進 部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
		3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	3-2-⑥-(1)	107	学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門		
			3-2-⑥-(2)	108	(1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	学生部門		
			3-2-⑥-(3)	109	学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門		
		3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	3-2-⑦-(1)	110	学生寮を整備しているか。 ■整備している □整備していない	業務・グローバル 教育部門		
			3-2-⑦-(2)	111	生活の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	業務・グローバル 教育部門		
			3-2-⑦-(3)	112	勉学の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	業務・グローバル 教育部門		
			3-2-⑦-(4)	113	(2)(3)について、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	業務・グローバル 教育部門		
			3-2-⑦-(5)	114	管理・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	業務・グローバル 教育部門		
		4 財務基盤及び管理運営	4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	4-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	4-1-①-(1)	115	過去5年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
					4-1-①-(2)	116	校地、校舎等の資産を保有しているか。 ■保有している □保有していない	総務部門
					4-1-①-(3)	117	過去5年間に於いて運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。 ■確保している □確保できない年があった	総務部門
					4-1-①-(4)	118	過去5年間の収支状況において支出超過となっていないか。 ■支出超過となっていない □支出超過となった年があった	総務部門
4-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	4-1-②-(1)			119	収支に係る方針、計画等を策定しているか。 ■策定している □策定していない	総務部門		
	4-1-②-(2)			120	(1)を関係者(教職員等)へ明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門		
4-1-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	4-1-③-(1)			121	学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門		
	4-1-③-(2)			122	資源配分が、4-1-②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。 ■整合性がある □整合性がない	総務部門		
	4-1-③-(3)			123	資源配分の内容について、関係者(教職員等)に明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門		
4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	4-1-④-(1)			124	設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公表しているか。 ■作成・公表している □作成・公表していない	総務部門		
	4-1-④-(2)			125	財務に係る監査等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門		
4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。			4-2-①-(1)	126	管理運営体制に関する規程等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門	
		4-2-①-(2)	127	委員会等の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門			
		4-2-①-(3)	128	校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門			
		4-2-①-(4)	129	事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門			
		4-2-①-(5)	130	教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連絡体制を確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門			
		4-2-①-(6)	131	(1)～(5)の体制の下、効果的な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門			
	4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	4-2-②-(1)	132	学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門			
		4-2-②-(2)	133	危機管理マニュアル等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門			
		4-2-②-(3)	134	(1)(2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門			
	4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	4-2-③-(1)	135	外部の財務資源(科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学金等、同窓会等からの寄付金等)を積極的に受入れる取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門			
		4-2-③-(2)	136	公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	総務部門			
	4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。	4-2-④-(1)	137	外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない	教務部門			

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
					外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■活用している □活用していない	専攻科・研究推進 部門
		4-2-⑤ 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。	4-2-⑤-(1)	138	S/D等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
	4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	4-3-① 学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。	4-3-①-(1)	139	教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 □教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 □校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 □授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 □高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	教務部門
					教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 □教育研究上の基本組織 □教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 □入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 □授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 □学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	学生部門
					教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	専攻科・研究推進 部門
					教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■教育研究上の基本組織 ■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 ■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	総務部門
5 準学士課程の教育課程・教育方法	5-1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	5-1-①-(1)	140	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	教務部門
			5-1-①-(2)	141	一般教育の充実配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	教務部門
			5-1-①-(3)	142	進級に関する規定を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			5-1-①-(4)	143	1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。 ■確保している □確保していない	教務部門
			5-1-①-(5)	144	特別活動を90単位時間以上実施しているか。 ■実施している □実施していない	教務部門
		5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	5-1-②-(1)	145	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □他学科の授業科目の履修を認定 ■インターンシップによる単位認定 ■正規の教育課程に関わる補充教育の実施 ■専攻科課程教育との連携 □外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成 ■資格取得に関する教育 ■他の高等教育機関との単位互換制度 ■個別の授業科目内での工夫 ■最先端の技術に関する教育 □その他	教務部門
			5-1-②-(2)	146	他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。 ■適切に取り扱っている □適切に取り扱っていない □単位互換制度を設けていないので、該当しない	教務部門
		5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	5-1-③-(1)	147	創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
			5-1-③-(2)	148	実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
	5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実	5-2-①-(1)	149	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■採用されている □採用されていない	教務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	5-2-①-(2)	150 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。 (該当する選択肢にチェック■する。) ■教材の工夫 □少人数教育 ■対話・討論型授業 □フィールド型授業 ■情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 □一般科目と専門科目との連携 □その他	教務部門
		5-2-②	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	5-2-②-(1)	151 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■授業科目名 ■単位数 ■授業形態 ■対象学年 ■担当教員名 ■教育目標等との関係 ■達成目標 ■教育方法 ■教育内容(1授業時間ごとに記載) ■成績評価方法・基準 ■事前に行う準備学習 ■高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目名、4項の規定に基づく授業科目名の区別の明示 ■教科書・参考文献 □その他	教務部門
				5-2-②-(2)	152 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。 ■改善を行っている □改善を行っていない	教務部門
				5-2-②-(3)	153 設置基準17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。 ■確保している □確保していない	教務部門
				5-2-②-(4)	154 (3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。 □1単位時間=50分で規定・運用 ■1単位時間=50分で規定、45分で運用	教務部門
				5-2-②-(5)	155 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合は、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門
				5-2-②-(6)	156 (5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■授業外学習の必要性の周知 ■事前学習の徹底 ■事後展開学習の徹底 ■授業外学習の時間の把握 □その他	教務部門
5-3	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)並びに卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	5-3-①	成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	5-3-①-(1)	157 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	教務部門
				5-3-①-(2)	158 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
				5-3-①-(3)	159 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	教務部門
				5-3-①-(4)	160 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	教務部門
				5-3-①-(5)	161 (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	教務部門
				5-3-①-(6)	162 追試、再試の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
				5-3-①-(7)	163 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	教務部門
				5-3-①-(8)	164 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □GPAの進級判定への利用 ■成績分布のガイドラインの設定 □複数年にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	教務部門
					成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □GPAの進級判定への利用 ■成績分布のガイドラインの設定 □複数年にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	総務部門
		5-3-②	卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	5-3-②-(1)	165 学則等に、修業年限を5年(商船に関する学科は5年6月。)と定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
				5-3-②-(2)	166 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、卒業認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門
				5-3-②-(3)	167 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 ■認定している □認定していない	教務部門
				5-3-②-(4)	168 卒業認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	教務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
			5-3-②-(5)	169	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	教務部門		
6	準学士課程の 学生の受入れ	6-1-① 入学者の受入れに 関する方針（アド ミッション・ポリ シー）に沿って適 切な入学選抜方法 が採用されてお り、実際の学生の 受入れが適切に実 施されているか。	6-1-①-(1)	170	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学選抜の基本方針に沿った入学選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等。）となっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門		
			6-1-② 入学者の受入れに 関する方針（アド ミッション・ポリ シー）に沿って学 生を実際に受入れ ているかどうかを 検証するための取 組が行われてお り、その結果を入 学選抜の改善に 役立っているか。	6-1-②-(1)	171	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門	
			6-1-②-(2)	172	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門		
			6-1-②-(3)	173	(2)の検証の結果を入学選抜の改善に役立っているか。 ■改善に役立っている □改善に役立っていない	教務部門		
			6-1-③ 実入学数が、入 学定員を大幅に超 過、又は大幅に不 足している状況に なっていないか。また、その場合 には、入学選抜方法 を改善するための 取組が行われる など、入学定員と 実入学数との関 係の適正化が図ら れているか。	6-1-③-(1)	174	学生定員を学科ごとに1学級当たり40人を標準として、学則で定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門	
			6-1-③-(2)	175	学科ごとの入学定員と実入学数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門		
		6-1-③-(3)	176	過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学数が適正であるか。 ■適正である □超過又は不足がある	教務部門			
		6-1-③-(4)	177	過去5年間で、実入学数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 □行っている □行っていない ■過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	教務部門			
		7	準学士課程の 学習・教育の 成果	7-1-① 成績評価・卒業 認定の結果から判 断して、卒業の認 定に関する方針 （ディプロマ・ポ リシー）に沿った 学習・教育の成果 が認められるか。	7-1-①-(1)	178	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
					7-1-①-(2)	179	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	教務部門
					7-1-①-(3)	180	(2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	教務部門
					7-1-② 達成状況に関する 学生・卒業生・進 路先関係者等から の意見聴取の結果 から判断して、卒 業の認定に関す る方針（ディプロ マ・ポリシー）に 沿った学習・教育 の成果が認めら れるか。	7-1-②-(1)	181	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない
7-1-②-(2)	182				学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門		
7-1-②-(3)	183				学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業生（卒業後5年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門		
7-1-②-(4)	184			学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業生（卒業後5年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門			
7-1-②-(5)	185			(2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門			
7-1-③ 就職や進学とい った卒業後の進路 の状況等の実績 から判断して、学 習・教育の成果 が認められるか。	7-1-③-(1)			186	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	教務部門		
7-1-③-(2)	187			学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	学生部門			
7-1-③-(2)	187			学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門			



基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
					学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	学生部門
8 専攻科課程の教育活動の状況	8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	8-1-①-(1)	188	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	8-1-②-(1)	189	専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。 ■考慮している □考慮していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	8-1-③-(1)	190	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■採用されている □採用されていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-③-(2)	191	教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教材の工夫 ■少人数教育 ■対話・討論型授業 ■フィールド型授業 ■情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 ■一般科目と専門科目との連携 □その他	専攻科・研究推進部門
		8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	8-1-④-(1)	192	学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
		8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	8-1-⑤-(1)	193	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(2)	194	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(3)	195	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(4)	196	成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(5)	197	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-⑤-(6)	198	追試、再試の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門	
		8-1-⑤-(7)	199	成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	専攻科・研究推進部門	
		8-1-⑤-(8)	200	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 ■GPAの選級判定への利用 □成績分布のガイドラインの設定 □複数年度にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	専攻科・研究推進部門	
		8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	8-1-⑥-(1)	201	学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(2)	202	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(3)	203	修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 ■認定している □認定していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(4)	204	修了認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(5)	205	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
	8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	8-2-①-(1)	206	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門
		8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その	8-2-②-(1)	207	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない  検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門 総務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
		結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	8-2-②-(2)	208	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門	
			8-2-②-(3)	209	(2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ■改善に役立てている □改善に役立っていない	専攻科・研究推進部門	
			8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	8-2-③-(1)	210	学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
				8-2-③-(2)	211	専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
				8-2-③-(3)	212	過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 □適正である ■超過又は不足がある	専攻科・研究推進部門
				8-2-③-(4)	213	過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■行っている □行っていない □過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	専攻科・研究推進部門
		8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らし、学習・教育・研究の成果が認められること。	8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-①-(1)	214	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
				8-3-①-(2)	215	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	専攻科・研究推進部門
				8-3-①-(3)	216	(2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門
			8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-②-(1)	217	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門
				8-3-②-(2)	218	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
				8-3-②-(3)	219	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
				8-3-②-(4)	220	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
8-3-②-(5)	221	(2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門				
8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-③-(1)	222	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門			
	8-3-③-(2)	223	学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門			
8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-④-(1)	224	過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進部門			
9 その他	9-1 いじめの未然防止、早期発見等のための対策が組織的に取られていること。	9-1-① 全学的にいじめ防止等対策に取り組んでいるか。	9-1-①-(1)	225	(1)いじめ対策の基本計画は定められているか。 ■定められている。 □定められていない。	学生部門	
			9-1-①-(2)	226	(2)いじめ対策マニュアルを整備しているか。 ■整備している。 □整備していない。	学生部門	
			9-1-①-(3)	227	(3)いじめ対策プログラムは計画しているか。 ■計画している。 □計画していない。	学生部門	

## 資料編

### 第 1 章 教育に関する評価関係

## 入試説明会等状況

## 中学校教諭対象入試説明会

年度	奈良	大阪	京都	その他	合計
H24	70名	7名	8名	5名	90名
25	67名	16名	3名	2名	88名
26	66名	12名	7名	1名	86名
27	67名	13名	4名	0名	84名
28	58名	7名	2名	4名	71名
29	63名	7名	2名	0名	72名
30	73名	10名	13名	1名	97名
R1	57名	18名	7名	2名	84名
R2	58名	21名	7名	3名	89名
R3	68名	22名	9名	4名	103名

## 中学生・保護者対象 学校&amp;入試説明会等

年度	学校・入試説明会				学校・入試説明会以外の 本校主催入試説明会の計		合計	
	10月下旬の土曜日		10月下旬の日曜日					
H24	97組	205名	172組	369名	129組	249名	398組	823名
25	119組	235名	128組	251名	170組	312名	417組	798名
26	80組	171名	117組	255名	152組	287名	349組	713名
27	92組	206名	134組	280名	214組	422名	440組	908名
28	85組	187名	90組	194名	215組	428名	390組	809名
29	113組	233名	99組	212名	249組	484名	461組	929名
30	組	名	127組	273名	278組	574名	405組	847名
R1	98組	214名	139組	295名	114組	230名	351組	739名
R2	99組	196名	89組	177名	85組	145名	273組	518名
R3	97組	193名	95組	185名	98組	166名	290組	544名

※H30:12/9 1日開催

## 学習塾指導者対象入試説明会

年度	参加者数	
H24	21塾	25名
25	40塾	45名
26	23塾	29名
27	28塾	32名
28	25塾	27名
29	28塾	29名
30	31塾	39名
R1	21塾	25名
R2	17塾	17名
R3	15塾	15名

### 中学校訪問

年 度	訪 問	左のうち県内	
H24	218 校	90 校	
25	216 校	90 校	
26	221 校	91 校	
27	242 校	92 校	
28	243 校	93 校	
29	114 校	75 校	
30	92 校	71 校	
R1	92 校	71 校	
R2	- 校	- 校	※
R3	7 校	7 校	※

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止

### 体験入学

年 度	1日目	2日目	3日目	計	
H24	185 名	181 名	192 名	558 名	
25	201 名	194 名	175 名	570 名	
26	206 名	174 名	163 名	543 名	
27	189 名	196 名	153 名	538 名	
28	187 名	190 名	144 名	521 名	
29	182 名	180 名	136 名	498 名	
30	167 名	164 名	178 名	509 名	
R1	199 名	193 名	189 名	581 名	
R2	- 名	- 名	- 名	- 名	※
R3	- 名	- 名	- 名	- 名	※

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止

### 塾・中学校主催 学校説明会等参加状況

年 度	塾主催説明会	中学校主催説明会	中学校からの本校訪問	計
H24	12 回	11 回	6 回	29 回
25	13 回	10 回	3 回	26 回
26	13 回	7 回	2 回	22 回
27	13 回	7 回	8 回	28 回
28	12 回	8 回	4 回	24 回
29	8 回	6 回	1 回	15 回
30	6 回	8 回	1 回	15 回
R1	8 回	5 回	3 回	16 回
R2	3 回	3 回	0 回	6 回
R3	5 回	3 回	0 回	8 回

## 入学試験状況

( )は女子で内数

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計
H24	総志願者	68	84	63	75	69	359 (48)
	志願者倍率	1.7	2.1	1.6	1.9	1.7	1.8
	推薦志願者数	17	61	32	44	45	199 (33)
	入学者数	40 (5)	40 (6)	42 (1)	41 (4)	40 (9)	203 (25)
25	総志願者	74	64	73	89	72	372 (59)
	志願者倍率	1.9	1.6	1.8	2.2	1.8	1.9
	推薦志願者数	29	40	39	44	54	206 (48)
	入学者数	40 (1)	42 (4)	42 (5)	42 (3)	41 (18)	207 (31)
26	総志願者	68	49	85	86	78	366 (44)
	志願者倍率	1.7	1.2	2.1	2.2	2.0	1.8
	推薦志願者数	30	26	50	37	43	186 (34)
	入学者数	42 (1)	42 (9)	40 (2)	41 (2)	41 (10)	206 (24)
27	総志願者	52	64	64	56	54	290 (43)
	志願者倍率	1.3	1.6	1.6	1.4	1.4	1.5
	推薦志願者数	25	30	35	27	36	153 (25)
	入学者数	42 (2)	42 (5)	40 (0)	42 (6)	41 (14)	207 (27)
28	総志願者	59	56	67	79	53	314 (60)
	志願者倍率	1.5	1.4	1.7	2.0	1.3	1.6
	推薦志願者数	33	35	40	43	33	184 (46)
	入学者数	41 (7)	41 (9)	41 (7)	40 (7)	42 (14)	205 (44)
29	総志願者	52	49	53	51	59	264 (50)
	志願者倍率	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	1.3
	推薦志願者数	21	23	32	26	34	136 (33)
	入学者数	42 (5)	42 (9)	40 (4)	41 (8)	42 (15)	207 (41)
30	総志願者	52	51	69	75	52	299 (50)
	志願者倍率	1.3	1.3	1.7	1.9	1.3	1.5
	推薦志願者数	30	40	37	38	32	177 (39)
	入学者数	41 (3)	41 (4)	42 (2)	40 (4)	40 (20)	204 (33)
31	総志願者	55	48	53	88	64	308 (67)
	志願者倍率	1.4	1.2	1.3	2.2	1.6	1.5
	推薦志願者数	27	26	35	48	44	180 (45)
	入学者数	42 (6)	40 (6)	41 (2)	41 (12)	41 (19)	205 (45)
2020	総志願者	52	70	60	71	58	311 (51)
	志願者倍率	1.3	1.8	1.5	1.8	1.5	1.6
	推薦志願者数	41	44	41	38	46	210 (42)
	入学者数	41 (4)	42 (9)	42 (0)	40 (6)	40 (18)	205 (37)
R3	総志願者	35	39	50	78	45	247 (50)
	志願者倍率	0.9	1.0	1.3	2.0	1.1	1.2
	推薦志願者数	19	23	32	49	30	153 (44)
	入学者数	40 (6)	42 (8)	41 (3)	42 (13)	40 (16)	205 (46)
R4	総志願者	43	40	41	71	66	261 (69)
	志願者倍率	1.1	1.0	1.0	1.8	1.7	1.3
	推薦志願者数	24	32	27	46	45	174 (55)
	入学者数	43 (8)	42 (8)	42 (8)	41 (10)	42 (23)	210 (57)

※ 志願者倍率は、総志願者数を入学定員(学科欄は40名、合計欄は200名)で割ったもの。

## 編入学試験状況

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計	志願者数 内 訳	
H24	志願者数	3	2	1	2	1	9	9	0
	合格者数	1	1	1	2	1	6	工業系	普通科
	入学者数	1	1	1	1	1	5		
25	志願者数	0	1	1	2	1	5	5	0
	合格者数	0	1	0	0	0	1	工業系	普通科
	入学者数	0	1	0	0	0	1		
26	志願者数	1	3	0	2	0	6	H26年度より 普通科系廃止	
	合格者数	0	1	0	1	0	2		
	入学者数	0	1	0	1	0	2		
27	志願者数	3	1	0	1	0	5		
	合格者数	1	1	0	0	0	2		
	入学者数	1	1	0	0	0	2		
28	志願者数	0	1	0	2	0	3		
	合格者数	0	0	0	2	0	2		
	入学者数	0	0	0	2	0	2		
29	志願者数	1	0	1	2	0	4		
	合格者数	0	0	0	0	0	0		
	入学者数	0	0	0	0	0	0		
30	志願者数	1	1	0	3	0	5		
	合格者数	0	1	0	2	0	3		
	入学者数	0	1	0	2	0	3		
31	志願者数	1	2	0	3	0	6		
	合格者数	0	0	0	3	0	3		
	入学者数	0	0	0	3	0	3		
2020	志願者数	1	1	1	3	0	6		
	合格者数	0	1	0	3	0	4		
	入学者数	0	1	0	3	0	4		
R3	志願者数	0	3	0	3	1	7		
	合格者数	0	2	0	0	0	2		
	入学者数	0	2	0	0	0	2		
R4	志願者数	3	1	0	4	0	8		
	合格者数	1	0	0	3	0	4		
	入学者数	1	0	0	3	0	4		

一般科目 [令和3年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語Ⅰ	3	3					学修単位	
	国語Ⅱ	3		3					
	国語Ⅲ	2			2				
	国語表現法	2				2			
	地理	2	2						
	歴史	2		2					
	公共	2			2				学修単位
	政治・経済	2			2				学修単位
	現代社会と法	2					2		学修単位
	基礎数学 $\alpha$	4	4						
	基礎数学 $\beta$	2	2						
	微分積分Ⅰ	4		4					
	微分積分Ⅱ	2			2				
	線形代数	2		2					
	数学特論 $\alpha$	2			2				
	数学特論 $\beta$	1			1				
	地球惑星物理	1	1						
	物理Ⅰ	1	1						
	物理Ⅱ	3		3					
	生物	1	1						
	化学Ⅰ	2	2					物質化学工学科以外	
	化学Ⅱ	2		2					
	化学	4	4					物質化学工学科のみ	
	保健・体育Ⅰ	2	2						
	保健・体育Ⅱ	2		2					
	体育理論Ⅰ	2			2			学修単位	
	体育理論Ⅱ	2				2		学修単位	
	体育実技	1					1		
	英語Ⅰ	3	3						
	英語Ⅱ	3		3					
	英語Ⅲ	2			2				
	英語Ⅳ	4				4		学修単位	
英語Ⅴ	2					2	学修単位		
英文法Ⅰ	2	2							
英文法Ⅱ	2		2						
英文法Ⅲ	1			1					
選択必修科目	美術	2	※2					学修単位	
	音楽	2	※2					※の内いずれか1科目を選択	
	人間環境学	2					△2	学修単位	
	地域学	2					△2	△の内いずれか1科目を選択	
日本文化学	2					△2			
必修科目 (留学生)	留学生の日本語	2			2				
選択科目	実用英語Ⅰ	1			1	(1)	(1)	( )は未修得者	
	実用英語Ⅱ	1				1	(1)		
	実用英語Ⅲ	1					1		
	異文化交流Ⅰ	1	1						
	異文化交流Ⅱ	1		1					
	異文化交流Ⅲ	1			1				
	異文化交流Ⅳ	1				1			
	異文化交流Ⅴ	1					1		
	海外協働研修Ⅰ	1	1						
	海外協働研修Ⅱ	1		1					
	海外協働研修Ⅲ	1			1				
	海外協働研修Ⅳ	1				1			
	海外協働研修Ⅴ	1					1		
	修得単位数計	79[79]	25[27]	23[21]	16[16]	8[8]	7[7]		



専門科目（機械工学科）[令和3年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 $\alpha$	2				2		学修単位
	応用数学 $\beta$	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	機械工学基礎	2	2					
	機械工学ゼミナール	1				1		
	技術英語	2					2	学修単位
	材料学Ⅰ	1		1				
	材料学Ⅱ	2			2			
	機械工作法Ⅰ	2		2				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		学修単位
	材料力学演習	1				1		
	流体力学Ⅰ	2				2		学修単位
	流体力学Ⅱ	2				2		学修単位
	流体力学演習	1					1	
	熱工学Ⅰ	2				2		学修単位
	熱工学Ⅱ	2				2		学修単位
	熱工学演習	1					1	
	機械力学Ⅰ	2			2			
	機械力学Ⅱ	2				2		学修単位
	機械力学演習	1				1		
	電気電子工学	2			2			
	計測工学	2					2	学修単位
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	制御工学Ⅱ	2					2	学修単位
	応用制御工学	2					2	学修単位
	情報処理	2			2			
	数値計算法	1				1		
	機械設計製図Ⅰ	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	2		2				
	創造設計	1			1			
機構学	2		2					
機械設計工学	2					2	学修単位	
機械設計工学演習	2					2		
生産システム工学	2					2	学修単位	
機械工作実習Ⅰ	3	3						
機械工作実習Ⅱ	3		3					
創造設計製作	3			3				
機械工学実験Ⅰ	3				3			
機械工学実験Ⅱ	2					2		
卒業研究	6					6		
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	9	10	18	28	24	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	9	10	18	27	24	
	計	167	34	33	34	35	31	





## 専門科目 (情報工学科)[令和3年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 $\alpha$	2				2		学修単位
	応用数学 $\beta$	2				2		学修単位
	応用物理 I	2			2			
	応用物理 II	2				2		
	デジタル回路	2	2					
	情報工学概論	2	2					
	電気回路基礎	1		1				
	プログラミング基礎	1		1				
	プログラミング I	1		1				
	コンピュータシステム概論	1		1				
	論理回路 I	1		1				
	IT活用	2		2				
	情報数学	2		2				
	論理回路 II	2			2			学修単位
	データベースとWebアプリケーション	1			1			
	情報アクティブラーニング I	2			2			
	プログラミング II	2			2			
	コンピュータアーキテクチャ	2			2			
	データ構造とアルゴリズム	2			2			
	計算機ネットワーク I	2			2			
	数値計算・統計	2				2		学修単位
	コンピュータ援用論理設計	2				2		学修単位
	オペレーティングシステム	2				2		学修単位
	計算機言語処理	2				2		学修単位
	情報理論	2				2		学修単位
	情報セキュリティ	2				2		学修単位
	計算機ネットワーク II	2				2		
	プログラミング III	2				2		
	情報アクティブラーニング II	2				2		
	集積回路	2					2	学修単位
	情報工学特論	2					2	学修単位
	マルチメディア情報処理	2					2	学修単位
信号処理	2					2	学修単位	
ソフトウェア工学	2					2	学修単位	
情報戦略システム	2					2	学修単位	
人工知能	2					2	学修単位	
ヒューマンコンピュータインタラクション	2					2	学修単位	
工業外国語	1					1		
情報工学実験 I	2		2					
情報工学実験 II	3			3				
情報工学実験 III	3				3			
卒業研究 I	4					4		
卒業研究 II	5					5		
選択科目	学外実習	1				1		
	専門科目開設単位計	89	6	11	18	28	26	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	6	11	18	27	26	
	計	167	31	34	34	35	33	

専門科目 (物質化学工学科) [令和3年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 $\alpha$	2				2		学修単位
	応用数学 $\beta$	2				2		学修単位
	応用物理 I	2			2			
	応用物理 II	2				2		
	一般化学演習 I	1	1					
	一般化学演習 II	1		1				
	一般化学演習 III	1		1				
	化学特論 I	1	1					
	化学特論 II	1		1				
	分析化学	2			2			
	機器分析	2					2	学修単位
	有機化学 I	2		2				
	有機化学 II	2			2			
	有機化学 III	2				2		
	有機材料合成化学	1					1	
	機能性高分子化学	2					2	学修単位
	無機化学 I	2		2				
	無機化学 II	2			2			
	固体化学	2				2		学修単位
	基礎電気化学	2					2	学修単位
	物理化学 I	2			2			
	物理化学 II	2				2		
	基礎量子化学	2				2		
	生物化学 I	2		2				
	生物化学 II	2			2			
	生物化学 III	2				2		
	応用微生物学	1				1		
	分子生物学	2					2	学修単位
	生物化学工学	1				1		
	化学工学 I	2			2			
	化学工学 II	2				2		
	微粒子工学	2				2		学修単位
反応工学	2					2	学修単位	
環境分離工学	2					2	学修単位	
プロセス制御	2					2	学修単位	
物質化学工学実験 I	2	2						
物質化学工学実験 II	4		4					
物質化学工学実験 III	4			4				
物質化学工学実験 IV	4				4			
卒業研究	10					10		
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	6	13	18	27	25	
修得単位	一般科目	79	27	21	16	8	7	
	専門科目	88	6	13	18	26	25	
	計	167	33	34	34	34	32	

## 特別活動

単位時間数	学年別配当		
	1年	2年	3年
90	30	30	30

## グローバルエンジニア養成教育プログラム [令和3年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考	
		本科	専攻科		
ベーシック	英語アクティブラーニングI	1			
	英語アクティブラーニングII	1			
	グローバルコミュニケーション	2			
	異文化交流 I	1		※1, ※3	
	異文化交流 II	1			
	異文化交流 III	1			
	異文化交流 IV	1			
	異文化交流 V	1			
	海外協働研修 I	1		※2, ※3	
	海外協働研修 II	1			
	海外協働研修 III	1			
	海外協働研修 IV	1			
	海外協働研修 V	1			
	アドバンスト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション		2	
		海外インターンシップ		2	
アドバンスト・グローバルエンジニアスキル			2		
※1 異文化交流 I～Vのうち、1単位以上修得すること ※2 海外協働研修 I～Vのうち、1単位以上修得すること ※3 グローバルエンジニア養成教育プログラム履修者以外の学生も受講できる					

## グローバル工学協働教育プログラム [令和3年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考
		本科	専攻科	
ベーシック	英語アクティブラーニングI	1		
	英語アクティブラーニングII	1		
	グローバルコミュニケーション	2		
	異文化交流 I	1		※1, ※3
	異文化交流 II	1		
	異文化交流 III	1		
	異文化交流 IV	1		
	異文化交流 V	1		
	海外協働研修 I	1		※2, ※3
	海外協働研修 II	1		
	海外協働研修 III	1		
	海外協働研修 IV	1		
	海外協働研修 V	1		
	グローバルチャレンジ	1		
	アドバンスト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション		2
海外インターンシップ			2	※3, ※4
アドバンスト・グローバルエンジニアスキル			2	
アドバンスト・グローバルチャレンジ			2	※4
※1 異文化交流についてはI～Vのうち、1単位以上修得すること ※2 海外協働研修についてはI～Vのうち、1単位以上修得すること ※3 グローバル工学協働教育プログラム履修者以外の学生も受講できる ※4 2単位以上修得すること				



## しなやか教育プログラム [令和3年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考
		本科	専攻科	
ベーシック	エンジニアの感性と表現Ⅰ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅱ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅲ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅳ	1		
	基礎イノベティブワークショップ	1		
	応用イノベティブワークショップ	1		
	統合イノベティブワークショップ	1		
	ダイバーシティとインクルージョン	1		
アドバンス	エンジニアと経営		2	
	リーダーシップと意思決定		2	
	ビジネスデザイン		2	

## 専攻科 [令和3年度開講科目一覧表]

教養・専門基礎科目

区分	科目名	単位数	学年別配当		備考	
			1年	2年		
教養	選択必修	特修英語Ⅰ	2	2		4単位以上選択すること
		特修英語Ⅱ	2	2		
		プレゼンテーション英語	2		2	
		アドバンスト・グローバルコミュニケーション	2	2		
	選択必修	地域と世界の文化論	2		2	2単位以上選択すること
		リーダーシップと意思決定	2	2		※2
		ビジネスデザイン	2		2	※2
開設単位数計		14				
専門基礎	必修	地域社会技術特論	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	選択必修	数理科学	2	2		2科目以上を選択
		物理学特論A	2	2		
		物理学特論B	2		2	
	選択	エンジニアと経営	2	2		※2
		インターンシップ	2	2		
		海外インターンシップ	2	2		※3
		アドバンスト・グローバルエンジニアスキル	2	2		※1
		アドバンスト・グローバルチャレンジ	2	2		※3
開設単位数計		20				
教養・専門基礎科目開設単位数計		34				
<p>教養 専門基礎科目修得単位数 計 20単位以上修得すること</p> <p>(※1) グローバル工学協働教育プログラム履修生は必修</p> <p>(※2) しなやかエンジニア教育プログラム履修生は必修</p> <p>(※3) グローバル工学協働教育プログラム履修生はいずれかを履修すること</p>						

## 専攻科 [令和3年度開講科目一覧表]

専門科目 (システム創成工学専攻)

区分	科目名		単位数	学年別配当		備考	
				1年	2年		
専 門 必 修	工学基礎研究		10	10		いずれかを選択	
	地域創生工学研究		10	10			
	特別研究		10		10		
	システムデザイン演習		3	3			
	システム設計論Ⅰ		2	2			
	システム設計論Ⅱ		2	2			
	機械制御システムコース		電子情報設計技術基礎	2	2		
	電気電子システム、情報システムコース		機械設計技術基礎	2	2		
	機械制御システムコース		研究力向上セミナーⅠ (機械制御系)	2	2		
	機械制御システムコース		研究力向上セミナーⅡ (機械制御系)	2	2		
	電気電子システムコース		研究力向上セミナー (電気電子系)	2	2		
	情報システムコース		研究力向上セミナーⅠ (情報系)	2	2		
	情報システムコース		研究力向上セミナーⅡ (情報系)	2		2	
	専門必修開設単位数 計			51	39	12	
	専 門 選 択	機械制御システムコース		実用技術英語 (機械系)	2	2	
電気電子システム、情報システムコース		実用技術英語 (電気電子・情報系)	2	2			
3コース共通		計測工学特論	2		2		
		ヒューマンインターフェース	2		2		
機械制御システムコース		油空圧制御工学	2	2			
		制御工学特論	2	2			
		特殊加工学	2		2		
		工業材料	2		2		
		流体力学特論	2		2		
		計算機援用設計	2		2		
		輸送現象論	2		2		
電気電子システムコース		電気電子回路特論	2	2			
		電磁気学特論	2	2			
		電子物性	2		2		
		エネルギーエレクトロニクス	2		2		
		情報伝送	2		2		
		電力システム工学特論	2		2		
情報システムコース		計算理論	2	2			
		計算機ハードウェア	2	2			
		ソフトウェア設計	2		2		
		情報工学基礎論	2		2		
		メディアシステム論	2		2		
専門選択開設単位数 計			44	16	28		
専門科目開設単位数 計			95	55	40		
システム創成工学専攻 合計			129				
専門科目修得単位数 計 42単位以上							

## 専攻科 [令和3年度開講科目一覧表]

専門科目 (物質創成工学専攻)

区分	科目名	単位数	学年別配当		備考	
			1年	2年		
専 門	必 修	工学基礎研究	10	10		いずれかを選択
		地域創生工学研究	10	10		
		特別研究	10		10	
		研究リテラシー	2	2		
		実践化学英語	2	2		
		先端工学特論	2		2	
		専門必修開設単位数 計	36	24	12	
	選 択	量子化学	2	2		
		現代有機合成化学	2	2		
		物質分析工学	2	2		
		細胞工学	2	2		
		応用反応工学	2	2		
		選択的有機反応論	2		2	
		電子応用化学	2		2	
		資源エネルギー工学	2		2	
		生物構造化学	2		2	
		生物化学工学特論	2		2	
		拡散工学特論	2		2	
		専門選択開設単位数 計	22	10	12	
専門科目開設単位数 計		58	34	24		
物質創成工学専攻 合計		92				
専門科目修得単位数 計 42単位以上						

令和3年度 年間行事予定表

〔前期〕

日曜	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1 木	1 土	1 火	1 火	1 木	1 日	1 水
↑ 春季休業(4日まで)				卒業生と語る会(6年)		
2 金	2 日	2 水	2 水	2 金	2 月	2 木
3 土	3 月	3 木	3 木	3 土	3 火	3 金
4 日	4 火	4 金	4 金	4 日	4 水	4 土
	みどりの日	補講日			全校集会 専攻科前期授業終了	
5 月	5 水	5 土	5 土	5 月	5 木	5 日
令和3年度入学式・入寮式 専攻科新生オリエンテーション	こどもの日 開寮・寮生集会		↑ 公開授業(9日まで)		補講日・試験予備日 専攻科夏季休業(10月1日まで)	
6 火	6 木	6 日	6 日	6 火	6 火	6 月
新生オリエンテーション(学生部 門)	社会人教育セミナー(4年)				補講日 開寮	
7 水	7 金	7 月	7 月	7 水	7 土	7 火
健康診断・教習書購入 新生オリエンテーション(教務・グ ラフ)		↑ 前期中間試験(本科・11日まで)			↑ 夏季休業(9月26日まで)	
8 木	8 土	8 火	8 火	8 木	8 日	8 水
前期授業開始(本科・専攻科)					山の日	
9 金	9 日	9 水	9 水	9 金	9 月	9 木
					山の日振替	
10 土	10 月	10 木	10 木	10 土	10 火	10 金
11 日	11 火	11 金	11 金	11 日	11 水	11 土
12 月	12 水	12 土	12 土	12 月	12 木	12 日
13 火	13 木	13 日	13 日	13 火	13 金	13 月
14 水	14 金	14 月	14 月	14 水	14 土	14 火
15 木	15 土	15 火	15 火	15 木	15 日	15 水
16 金	16 日	16 水	16 水	16 金	16 月	16 木
17 土	17 月	17 金	17 土	17 土	17 火	17 金
18 日	18 火	18 金	18 日	18 日	18 水	18 土
19 月	19 水	19 土	19 土	19 月	19 木	19 日
20 火	20 木	20 日	20 日	20 火	20 金	20 月
21 水	21 金	21 月	21 月	21 水	21 土	21 火
22 木	22 土	22 火	22 火	22 木	22 日	22 水
23 金	23 日	23 水	23 水	23 金	23 月	23 木
24 土	24 月	24 木	24 木	24 土	24 火	24 金
25 日	25 火	25 金	25 金	25 日	25 水	25 土
26 月	26 水	26 土	26 土	26 月	26 木	26 日
27 火	27 木	27 日	27 日	27 火	27 金	27 月
28 水	28 金	28 月	28 月	28 水	28 土	28 火
29 木	29 土	29 火	29 火	29 木	29 日	29 水
30 金	30 日	30 水	30 水	30 金	30 月	30 木
	31 月	31 日	31 日	31 土	31 火	

令和3年度 年間行事予定表

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜	日曜
1 金	1 月	1 水	1 水	1 土	1 土	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火
2 土	2 火	2 木	2 木	2 日	2 日	2 水	2 水	2 水	2 水	2 水	2 水
3 日	3 水 文化の日	3 金	3 金	3 月	3 月	3 木	3 木	3 木	3 木	3 木	3 木
4 月	4 木	4 土	4 土	4 火	4 火	4 金	4 金	4 金	4 金	4 金	4 金
5 火	5 金	5 日	5 日	5 水	5 水	5 土	5 土	5 土	5 土	5 土	5 土
6 水	6 土	6 月	6 月	6 木	6 木	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日
7 木	7 日	7 火	7 火	7 金	7 金	7 月	7 月	7 月	7 月	7 月	7 月
8 金	8 月	8 水	8 水	8 土	8 土	8 火	8 火	8 火	8 火	8 火	8 火
9 土	9 火	9 木	9 木	9 日	9 日	9 水	9 水	9 水	9 水	9 水	9 水
10 日	10 水	10 金	10 金	10 月	10 月	10 木	10 木	10 木	10 木	10 木	10 木
11 月	11 木	11 土	11 土	11 火	11 火	11 金	11 金	11 金	11 金	11 金	11 金
12 火	12 金	12 日	12 日	12 水	12 水	12 土	12 土	12 土	12 土	12 土	12 土
13 水	13 土	13 月	13 月	13 木	13 木	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
14 木	14 日	14 火	14 火	14 金	14 金	14 月	14 月	14 月	14 月	14 月	14 月
15 金	15 月	15 水	15 水	15 土	15 土	15 火	15 火	15 火	15 火	15 火	15 火
16 土	16 火	16 木	16 木	16 日	16 日	16 水	16 水	16 水	16 水	16 水	16 水
17 日	17 水	17 金	17 金	17 月	17 月	17 木	17 木	17 木	17 木	17 木	17 木
18 月	18 木	18 土	18 土	18 火	18 火	18 金	18 金	18 金	18 金	18 金	18 金
19 火	19 金	19 日	19 日	19 水	19 水	19 土	19 土	19 土	19 土	19 土	19 土
20 水	20 土	20 月	20 月	20 木	20 木	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日
21 木	21 日	21 火	21 火	21 金	21 金	21 月	21 月	21 月	21 月	21 月	21 月
22 金	22 月	22 水	22 水	22 土	22 土	22 火	22 火	22 火	22 火	22 火	22 火
23 土	23 火	23 木	23 木	23 日	23 日	23 水	23 水	23 水	23 水	23 水	23 水
24 日	24 水	24 金	24 金	24 月	24 月	24 木	24 木	24 木	24 木	24 木	24 木
25 月	25 木	25 土	25 土	25 火	25 火	25 金	25 金	25 金	25 金	25 金	25 金
26 火	26 金	26 日	26 日	26 水	26 水	26 土	26 土	26 土	26 土	26 土	26 土
27 水	27 土	27 月	27 月	27 木	27 木	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日
28 木	28 日	28 火	28 火	28 金	28 金	28 月	28 月	28 月	28 月	28 月	28 月
29 金	29 月	29 水	29 水	29 土	29 土	29 火	29 火	29 火	29 火	29 火	29 火
30 土	30 火	30 木	30 木	30 日	30 日	30 水	30 水	30 水	30 水	30 水	30 水
31 日	31 水	31 金	31 金	31 月	31 月	31 木	31 木	31 木	31 木	31 木	31 木

奈良工業専門学校

令和3年度 授業時間割 (前期)

Table with 30 columns (1-30) representing days and times. Rows are organized by grade level (一学年 to 五学年) and subject (M, E, S, T, C). Each cell contains course details such as course name, instructor, and location.





## 令和3年度特別講演会実施一覧

学科	実施日	演題	講師
M	令和3年12月23日(木)	「働くということ」	ダイヤ製薬株式会社 信頼性保証室 課長 開発営業課 課長代理  株式会社吉川国工業所 企画開発部 技術開発チーム チーフマネージャー
E	令和3年12月13日(月)	「生物の視覚系をヒントにしたフィールドロボットの眼の開発」	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻 准教授
S	令和3年11月11日(木)	「機械システムの知能化とその可能性」	名古屋大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻 教授
I	令和3年12月14日(火)	「宇宙プラズマ物理学」	兵庫県立大学大学院 情報科学研究科 准教授
C	令和3年6月22日(火)	「タンパク質で超分子を作る」	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 物質創成科学領域 教授
専攻科	令和3年11月11日(木)	「現場主義と一気通貫のものづくり」	山本光学株式会社 執行役員 開発部部长

## 令和3年度第4学年対象進路セミナー実施一覧

学科	実施日	講師
M	令和4年2月4日(金)	平成30年度卒業生及び令和元年度卒業生 (同志社大学大学院 頭脳科学研究科及び株式会社樺本チエイン アグリビジネス部 アグリ新商品開発課)
E	令和3年7月5日(月)	平成25年度専攻科修了生 (テルモ株式会社 ホスピタルカンパニー ホスピタルシステム事業 部 医療器グループ 輸液システム部)
S	令和3年6月24日(木)	令和元年度卒業生 (日鉄レールウェイテクノス株式会社 装置技術部 電気制御室)
I	令和3年9月30日(木)	令和元年度卒業生 (京都工芸繊維大学 情報工学課程 インタラクティブ知能研究室及 び日本アイ・ビー・エムテクニカル・ソリューション株式会社 テクニカ ル・サービス第一事業部 第四技術部)
C	令和3年11月16日(火)	昭和61年度卒業生 (ライオン株式会社 国際事業本部 生産統括部長)

## 令和3年度 秋季社会工場見学, 専攻科学外研修

新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため中止し, 本科4年生は代わりにキャリア教育を実施した.

## 年度別博士号取得者一覽

年 度	区分		学科別博士号取得者数						
	現員	校 長	一 般	機 械	電 気	電 制	情 報	物 化	合 計
平成29年度	74	1	15	9	8	8	8	12	61
平成30年度	77	1	17	10	8	8	9	12	65
平成31年度	75	1	15	10	9	8	9	12	64
令和2年度	75	1	15	9	8	6	9	12	60
令和3年度	75	1	13	9	8	7	9	12	59

## 令和3年度 クラブ顧問・部長・部員数一覧

## 体育部

クラブ名	顧問教員 (一番左が連絡担当)	部員数					計
		1年	2年	3年	4年	5年	
アーチェリー	三木功次郎 岩田大志 山口賢一 石丸裕士 本間啓道	2	0	6	0	0	8
合気道	石飛学 片倉勝己 池田陽紀 松浦幸仁	3	3	2	3	2	13
弓道	鍵本有理 谷口幸典 北村誠	21	13	9	11	6	60
剣道	池田陽紀 須田敦 土井滋貴	4	3	4	5	0	16
硬式野球	酒井史敏 内田眞司 小柴孝 平俊男 竹原信也	6	12	4	7	6	35
サッカー	竹原信也 中山大輝 山口智浩 上野秀剛 松尾賢一	6	6	10	5	4	31
柔道	森弘暢 矢野充志 山田裕久	1	1	2	0	0	4
少林寺拳法	直江一光 松井真希子	0	4	0	0	0	4
水泳	石飛学 廣和樹 島岡三義 松村寿枝 橋爪進	6	6	13	10	6	41
ソフトテニス	米田京平 宇田亮子 伊月亜有子 西田茂生	7	6	11	5	1	30
卓球	飯田賢一 武田充啓 上島智史 亀井稔之 松井真希子 中山敏男	12	9	7	5	4	37
テニス	中村秀美 伊月亜有子 山口賢一 中村篤人 亀井稔之 福岡寛	8	3	8	4	0	23
バスケットボール	新野康彦 嶋田芳 頭師孝拓 稲田直久	5	8	4	2	1	20
バドミントン	伊月亜有子 林啓太 玉木隆幸 中村篤人 岡村真吾	11	3	15	3	0	32
バレーボール	松井良明 石水明香 金澤直志 矢野順彦 板倉和裕 太田孝雄	8	9	9	5	2	33
ハンドボール	大谷真弘 坂本雅彦 豊田洋平 小坂洋明	4	1	7	5	4	21
ラグビー	森弘暢 矢野充志 山口和也 市川嘉裕	5	8	4	3	8	28
陸上競技	稲田直久 飯間圭一郎 安田智之 米田京平 中村篤人 森弘暢 山中聡恵	7	11	7	8	4	37
	小計	116	106	122	81	48	473

## 文化部

からくり	橋爪進 中村篤人 頭師孝拓 石飛学 飯間圭一郎 伊月亜有子 池田陽紀	11	14	6	4	0	35
機械研究会	谷口幸典 須田敦 頭師孝拓	2	8	7	10	7	34
軽音楽	谷口幸典 山口和也 大谷真弘 武田充啓	18	34	9	12	6	79
茶道	西田茂生 松村寿枝 C.E.グレイディ	4	2	5	3	2	16
システム開発研究会	橋爪進 中村篤人	0	0	3	7	1	11
将棋	玉木隆幸 岡村真吾	5	1	4	4	1	15
情報処理研究会	岩田大志 山口賢一 上野秀剛 松尾賢一	4	8	10	8	4	34
吹奏楽	芦原佑樹 林啓太 島岡三義 藤田直幸 顯谷智也子 土井滋貴	1	6	14	10	0	31
美術	市川嘉裕 竹原信也	5	5	7	10	0	27
放送	芦原佑樹 山口賢一	6	5	5	11	11	38
	小計	56	83	70	79	32	320

## 同好会

化学同好会	林啓太 山田裕久 米田京平 伊月亜有子	15	15	7	11	0	48
合唱同好会	安田智之 松井良明	3	0	0	3	4	10
クイズ研究会	安田智之 C.E.グレイディ	5	9	1	11	2	28
現代視覚文化研究会	飯間圭一郎 北村誠 上野秀剛	1	0	8	2	1	12
手芸同好会	石水明香	7	0	2	8	2	19
数学同好会	矢野充志	3	1	3	0	2	9
生協学生同好会	飯間圭一郎 伊月亜有子	2	0	3	2	0	7
電気技術研究会	大谷真弘 芦原佑樹	2	2	2	9	1	16
寮アスレチック同好会	内田眞司 松井真希子 飯田賢一 林啓太	29	28	16	24	21	118
	小計	67	55	42	70	33	267

各学年部員数※	1年	2年	3年	4年	5年	合計
	239	244	234	230	113	1060

※各学年部員数はのべ数(複数の部に所属している者もカウント)

学生会執行部	岩田大志 池田陽紀 飯間圭一郎	9	8	14	5	7	43
--------	-----------------	---	---	----	---	---	----

令和3年度 大会等成績一覧

<体育系>

大会名	月・日	種目	成績	選手名
第103回全国高校野球選手権大会 春季 奈良 良大	4.18	硬式野球 2回戦 対 法隆寺国際 0-9 (7回コールド)	2回戦敗退	
第58回近畿地区高等専門学校体育大会	7.10	陸上競技 総合	3位	
		男子100m	5位	矢部 亨 (1M)
			6位	大津 翔生 (3C)
			8位	藤保 慈元 (3C)
		男子200m	7位	藤保 慈元 (3C)
		男子400m	5位	笹川 航平 (2E)
			6位	上林 優生 (3M)
		男子800m	2位	木下 隼 (4S)
			5位	山田 智也 (1M)
		男子110mH	4位	古川 壮汰 (5C)
		男子4×100mリレー	3位	矢部 亨 (1M) 大津 翔生 (3C) 藤保 慈元 (3C) 古川 壮汰 (5C)
		男子4×400mリレー	3位	上林 優生 (3M) 木下 隼 (4S) 笹川 航平 (2E) 古川 壮汰 (5C)
		男子走高跳	4位	音成 岬 (4C)
		男子走幅跳	7位	森井 優天 (1C)
		男子砲丸投	優勝	明石 駿汰 (3C)
			5位	竹田 時英 (2I)
		男子円盤投	2位	明石 駿汰 (3C)
		3位	竹田 時英 (2I)	
	女子100m	優勝	奥田 陽美 (1C)	
	女子4×100mリレー	優勝	山口 叶夢 (4C) 奥田 陽美 (1C) 西前 若菜 (3M) 林部 亜衣香 (3C)	
	女子走幅跳	優勝	奥田 陽美 (1C)	
		3位	山口 叶夢 (4C)	
	女子砲丸投	4位	林部 亜衣香 (3C)	
	2位	山口 叶夢 (4C)		
	3位	西前 若菜 (3M)		
7.3~4	バスケットボール 男子	予選敗退		
7.3~4	バレーボール 男子	3位		
	女子	1回戦敗退		
7.17~18	ソフトテニス 団体 男子	入賞なし		
	個人 男子	入賞なし		
	個人 女子	予選敗退		
7.17~18	卓球 団体 男子	3位		
	個人 男子ダブルス	入賞なし		
	個人 男子シングルス	入賞なし		
	団体 女子	3位		
	個人 女子ダブルス	3位	岩崎 琴音 (5I) 横山 朋代 (4M)	
	個人 女子シングルス	入賞なし		
7.11	柔道 個人 66kg級	入賞なし		
	個人 73kg級	入賞なし		
	初心者部	優勝	水口 旭 (3E)	
6.26~27	剣道 団体 男子	7位		
	個人 男子	入賞なし		
	個人 女子	入賞なし		
6.26~27	硬式野球 1回戦 対 明石高専 10-4 2回戦 対 近畿大学高専 13-20	2回戦敗退		
7.3~4	サッカー	1回戦敗退 優秀選手賞	坂田 柊斗 (2C)	
7.10	ハンドボール 男子	優勝		
7.3~4	テニス 団体 男子	入賞なし		
	個人 男子シングルス	入賞なし		
	個人 男子ダブルス	入賞なし		
	個人 女子シングルス	2位	山口 璃桜 (3I)	
	個人 女子ダブルス	3位	山口 璃桜 (3I) 矢田 衣千加 (1M)	
7.10~11	バドミントン 団体 男子	入賞なし		
	個人 男子シングルス	入賞なし		
	男子ダブルス	入賞なし		
7.4	水泳 総合	2位		
	男子50m自由形	入賞なし		
	男子100m自由形	6位	堀田 壮馬 (3C)	
	男子200m自由形	2位	今元 賢 (2E)	
		3位	藤井 晴翔 (1M)	
	男子400m自由形	4位	鈴木 誠二郎 (3E)	
	男子200m背泳ぎ	入賞なし		
	男子100m平泳ぎ	3位	面前 太郎 (4M)	
		4位	小山 遼 (3M)	
	男子200m平泳ぎ	3位	安田 怜生 (1M)	
	男子100mバタフライ	入賞なし		
	男子200m個人メドレー	4位	安田 怜生 (1M)	
	男子400mリレー	2位	藤井 晴翔 (1M) 堀田 壮馬 (3C) 安田 怜生 (1M) 今元 賢 (2E)	

大会名	月・日	種目	成績	選手名	
第58回近畿地区高等専門学校大会	7.4	男子800mリレー	2位	北野 結士 (4M) 鈴木 誠二郎 (3E) 熊内 雄飛 (4E) 河崎 伸太郎 (4S) 今元 賢 (2E) 面前 太郎 (4M) 藤井 晴翔 (1M) 安田 怜生 (1M)	
		男子400mメドレーリレー	2位		
女子50m自由形		優勝	上中 理央 (1M)		
女子100m自由形		4位	高田 菜奈 (1E)		
女子200mリレー		5位	清家 莉恵 (1C)		
			3位	橋本 悠希 (3I)	
		2位	清家 莉恵 (1C) 高田 菜奈 (1E) 橋本 悠希 (3I) 上中 理央 (1M)		
第54回近畿地区高等専門学校大会	7.2	ラグビーフットボール	優勝		
		弓道	男子団体の部	優勝	渡邊 幹 (4I) 松山 鼓 (4I) 松生 天眞 (2S) 滝田 悠輝 (4E) 飯田 琢也 (3M)
		女子団体の部	優勝	荒井 千優 (4M) 西井 想来 (2C) 山田 怜奈 (3C)	
		男子個人の部	優勝	渡邊 幹 (4I)	
		女子個人の部	2位	滝田 悠輝 (4E) 3位 飯田 琢也 (3M) 2位 山田 怜奈 (3C) 3位 西井 想来 (2C)	
第103回全国高校野球選手権大会	7.11	硬式野球	1回戦 対 権原 8-12	1回戦敗退	
第56回全国高等専門学校大会	8.25~26	テニス	個人 女子シングルス	1回戦敗退	山口 璃桜 (3I)
	9.4~5	陸上競技	男子総合	14位	
			女子総合	8位	
		男子400m	予選敗退	笹川 航平 (2E)	
		男子800m	予選敗退	木下 隼 (4S)	
		男子110mハードル	8位	古川 壮汰 (5C)	
		男子円盤投	3位	明石 駿汰 (3C)	
		男子砲丸投	11位	竹田 時英 (2I)	
		女子砲丸投	2位	明石 駿汰 (3C)	
	女子100m	2位	奥田 陽美 (1C)		
女子4×100mリレー	予選敗退	山口 叶夢 (4C) 奥田 陽美 (1C) 西前 若菜 (3M) 西川 優衣 (1C)			
12.18~19	水泳	男子200m自由形	1位	今元 賢 (2E)	
		男子200m平泳ぎ	9位	藤井 晴翔 (1M)	
		女子50m自由形	10位	安田 怜生 (1M) 1位 上中 理央 (1M)	
12.22~23	ハンドボール	男子	予選敗退		
1.4~9	ラグビーフットボール	対 久留米高専 76-17	優勝		
第97回日本選手権水泳競技大会2021	9.17~19	水泳	女子3m飛板飛込	予選敗退	勝眞 海音 (3C)
第6回全国高等専門学校弓道大会	8.28~29	弓道	男子団体の部	入賞なし	
			女子団体の部	2位	福王 彩音 (3E) 西井 想来 (2C) 山田 怜奈 (3C) 荒井 千優 (4M)
		男子個人の部	3位	滝田 悠輝 (4E)	
		女子個人の部	2位	山田 怜奈 (3C)	

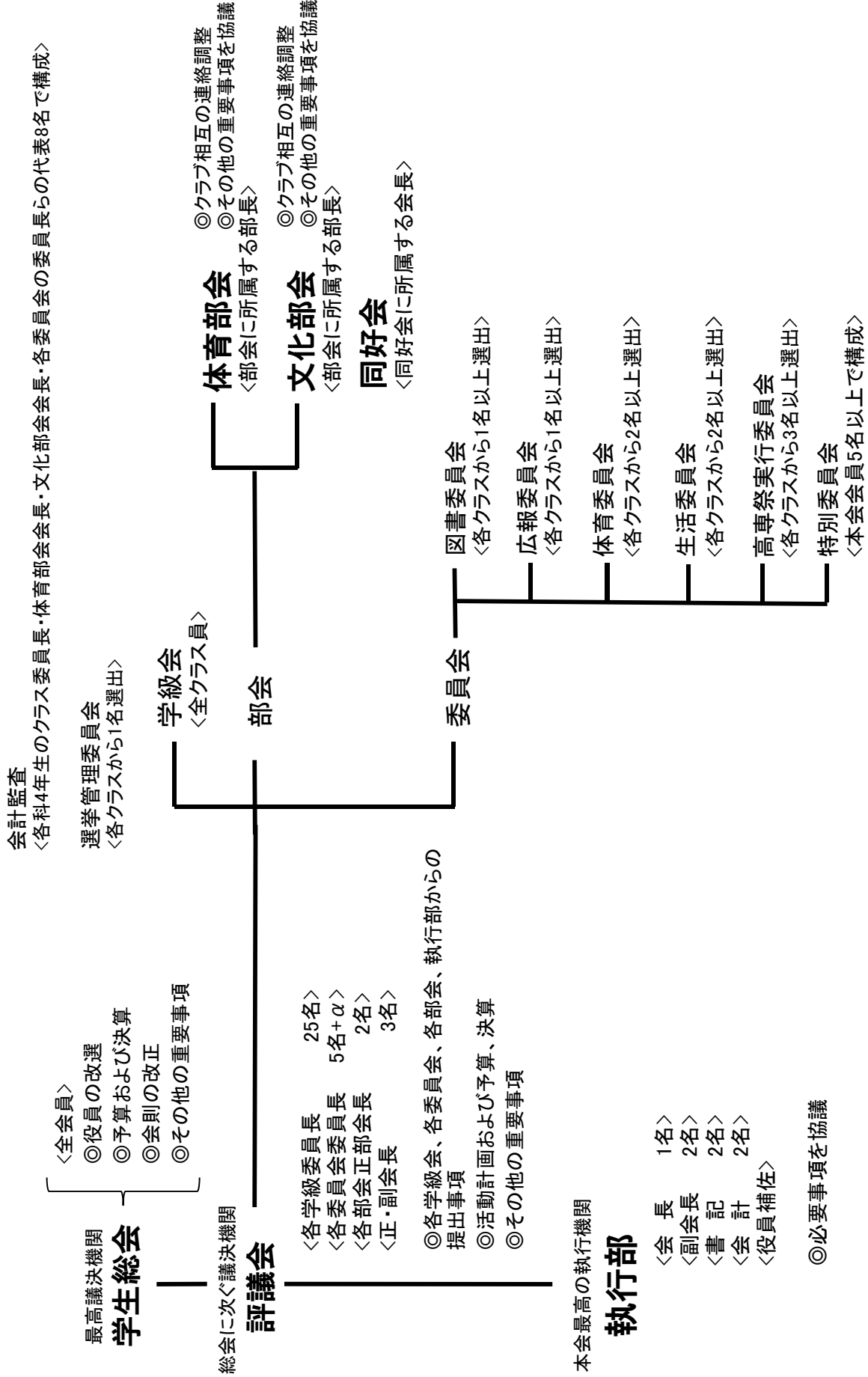
<文化系>

大会名	月・日	種目	成績	選手名
第13回全国高等学校鉄道模型コンテスト	8.20~21	機械研究会	H〇車輛部門 モジュール部門	努力賞 理事長特別賞
ぐんまプログラミングアワード2021	8.28	情報処理研究会	テクニカル部門高校生以下の部 他の部門も含めた全ファイナリスト	2位 クライム賞

<コンテスト>

大会名	月・日	種目	成績	選手名
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2021近畿地区大会	10.31	ロボコンプロジェクト	Aチーム「華籃球麗(カラクリ)」 Bチーム「ニノ鹿跳(ニノシカチョウ)」	特別賞 優勝
第15回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	11.20~21	シングル部門	第2位 第5位	宮崎 倅多 (3C) 向井 悠馬 (2S)
第15回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	1.22	シングル部門	入賞なし	入賞なし
パソコン甲子園2021	11.13~14	プログラミング部門	入賞なし	入賞なし
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2021全国大会	11.28	ロボコンプロジェクト	Bチーム「ニノ鹿跳(ニノシカチョウ)」	入賞なし
第18回全国高等専門学校デザインコンペティション	12.4	空間デザイン部門 構造デザイン部門	入賞なし 入賞なし	入賞なし
第28回全国高等専門学校将棋大会	1.6~8	団体戦 個人戦 女子個人戦	入賞なし 入賞なし 優勝	仙入 汐夏 (1S)

# 《学生会組織図》



## 学生支援センター相談件数

年度	学年		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	保護者	教職員	合計
	相談項目										
H29	心理相談	人数	7	7	4	5	6	1	11	11	52
		延べ数	22	13	16	20	7	1	18	16	113
	学業	人数	11	12	16	4	24	0	12	8	87
		延べ数	19	36	17	4	44	0	21	13	154
	対人関係	人数	8	9	1	5	2	1	4	15	45
		延べ数	16	12	4	6	2	3	6	24	73
	進路相談	人数	5	2	4	46	21	9	7	1	95
		延べ数	12	2	4	72	26	19	8	2	145
	異性問題	人数	0	0	0	1	1	0	0	1	3
		延べ数	0	0	0	1	3	0	0	1	5
	家庭内問題	人数	1	2	3	1	2	0	3	9	21
		延べ数	1	2	12	2	5	0	8	15	45
	その他	人数	5	8	4	7	3	3	5	44	79
		延べ数	7	13	4	11	5	3	10	79	132
合計	人数	37	40	32	69	59	14	42	89	382	
	延べ数	77	78	57	116	92	26	71	150	667	
H30 (SSW除く)	心理相談	人数	20	10	9	14	6	3	19	17	98
		延べ数	43	14	10	33	20	15	39	27	201
	学業	人数	14	10	12	8	23	4	9	5	85
		延べ数	17	13	30	38	54	4	10	10	176
	対人関係	人数	18	16	10	5	7	2	5	8	71
		延べ数	32	20	13	9	12	6	7	14	113
	進路相談	人数	4	7	7	21	19	8	6	0	72
		延べ数	7	7	9	30	27	10	9	0	99
	異性問題	人数	1	3	1	0	4	1	0	1	11
		延べ数	1	5	1	0	11	1	0	1	20
	家庭内問題	人数	8	2	1	3	3	0	7	5	29
		延べ数	12	3	1	5	4	0	11	6	42
	その他	人数	11	5	6	8	1	1	11	28	71
		延べ数	12	5	9	11	1	14	24	59	135
合計	人数	76	53	46	59	63	19	57	64	437	
	延べ数	124	67	73	126	129	50	100	117	786	
R1 (SSW含む)	心理相談	人数	21	11	5	13	5	11	16	71	153
		延べ数	60	38	7	18	7	19	17	160	326
	学業	人数	15	14	18	16	3	1	9	17	93
		延べ数	38	32	24	43	3	3	14	39	196
	対人関係	人数	7	24	11	5	3	0	1	68	119
		延べ数	15	65	24	6	3	0	4	201	318
	進路相談	人数	1	3	1	13	7	0	0	6	31
		延べ数	1	9	1	33	7	0	0	9	60
	異性問題	人数	4	0	3	4	0	1	0	15	27
		延べ数	4	0	3	7	0	1	0	53	68
	家庭内問題	人数	2	2	1	0	3	2	1	20	31
		延べ数	2	2	1	0	3	2	1	33	44
	その他	人数	11	14	3	5	1	2	9	56	101
		延べ数	15	31	3	5	1	4	23	128	210
合計	人数	61	68	42	56	22	17	36	253	555	
	延べ数	135	177	63	112	24	29	59	623	1222	
R2 (SSW含む)	心理相談	人数	5	4	3	0	1	1	4	4	22
		延べ数	23	16	9	0	6	1	9	51	115
	学業	人数	17	3	3	8	3	3	11	0	48
		延べ数	23	7	10	12	3	3	15	0	73
	対人関係	人数	1	1	2	1	1	0	0	2	8
		延べ数	5	1	17	1	1	0	0	15	40
	進路相談	人数	1	1	0	13	19	2	4	1	41
		延べ数	7	6	0	23	23	21	14	1	95
	異性問題	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延べ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家庭内問題	人数	2	1	1	1	1	0	0	4	10
		延べ数	6	1	6	1	1	0	0	17	32
	その他	人数	5	6	3	7	6	3	8	18	56
		延べ数	15	33	12	11	6	82	10	19	188
合計	人数	31	16	12	30	31	9	27	29	185	
	延べ数	79	64	54	48	40	107	48	103	543	
R3 (SSW含む)	心理相談	人数	3	8	8	4	5	3	8	12	51
		延べ数	6	16	12	10	82	11	14	37	188
	学業	人数	10	8	8	6	5	0	9	5	51
		延べ数	27	37	11	8	5	0	10	11	109
	対人関係	人数	1	2	2	6	2	1	2	16	32
		延べ数	1	9	8	75	25	1	3	71	193
	進路相談	人数	2	2	4	8	47	8	13	2	86
		延べ数	3	4	9	15	86	30	13	6	166
	異性問題	人数	0	1	1	1	2	0	0	0	5
		延べ数	0	1	1	1	4	0	0	0	7
	ハラスメント	人数	0	2	0	1	0	0	0	5	8
		延べ数	0	5	0	1	0	0	0	5	11
	家庭内問題	人数	0	3	1	1	1	0	0	2	8
		延べ数	0	3	1	2	32	0	0	2	40
その他	人数	7	4	4	3	2	4	19	36	79	
	延べ数	23	10	6	26	2	20	38	74	199	
合計	人数	23	30	28	30	64	16	51	78	320	
	延べ数	60	85	48	138	236	62	78	206	913	



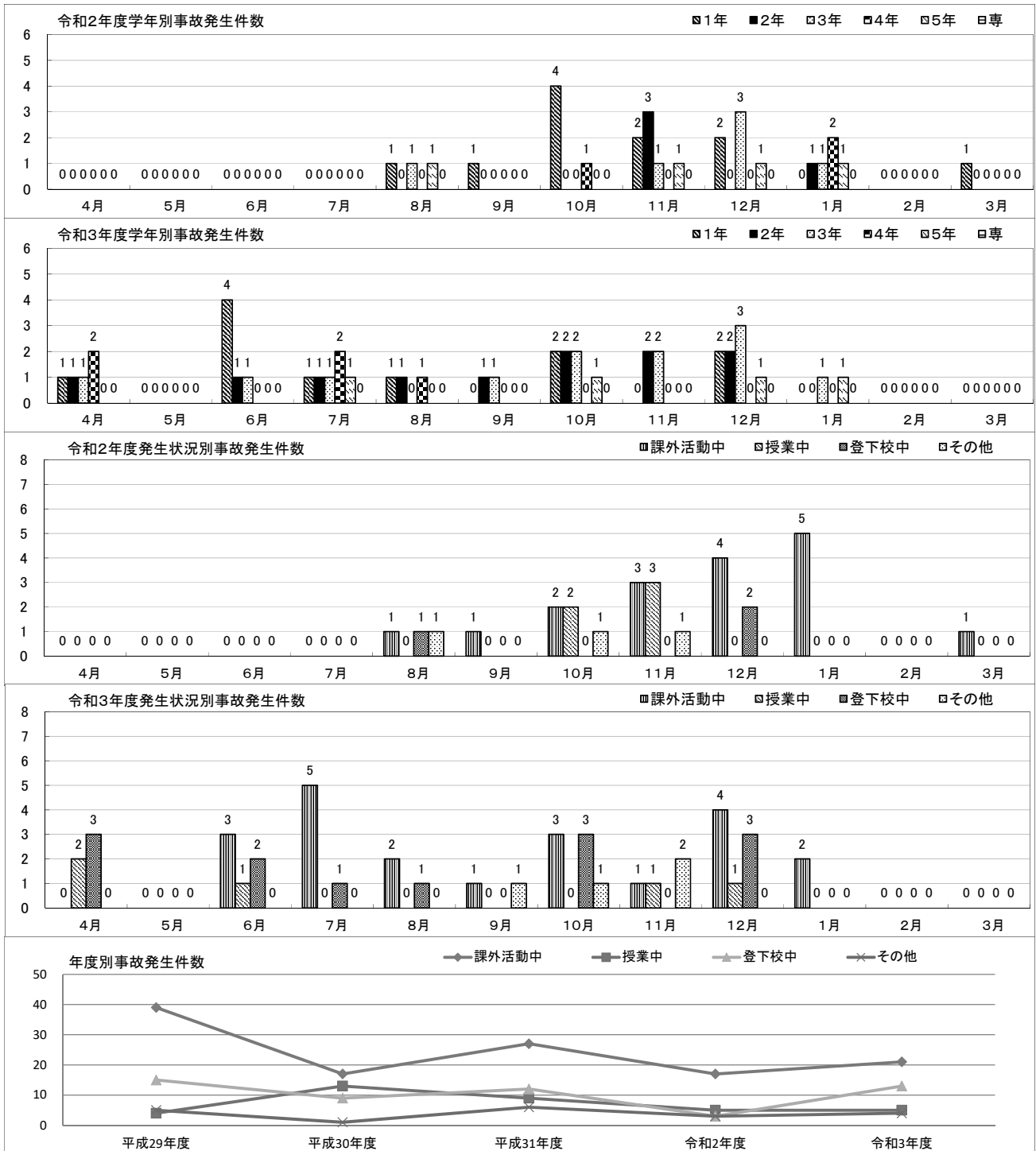
## 令和3年度 保健室利用学生数

区分 月	怪我等	体調不良等	相談等	総数	登校日数
4	16	18	5	39	18(春季休業)
5	13	18	5	36	17
6	30	17	6	53	22(前期中間試験)
7	15	22	4	41	20(前期末試験)
8	5	3	5	13	5(前期末試験・夏季休業)
9	2	0	1	3	4(夏季休業)
10	17	36	20	73	19
11	24	32	6	62	20(後期中間試験)
12	14	22	4	40	18(後期中間試験・冬季休業)
1	0	4	1	5	17(冬季休業・学年末試験)
2	2	6	3	11	10(学年末試験)
3	2	0	0	2	0(学年末休業)
合計	140	178	60	378	170

## 保健室利用状況

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
怪我等	109	151	274	110	140
体調不良等	113	272	313	134	178
相談等	141	133	216	73	60
合計	363	556	803	317	378

令和2・3年度 学生事故発生件数



資料 17

入学料免除者数（高専機構）

年 度	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成29年度	0	0	0	0
平成30年度	0	0	0	0
令和元年度	2	2	0	0
令和2年度	0	0	0	0
令和3年度	0	0	0	0

入学料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

年 度	申請者数	満額減免	2/3減免	1/3減免	不認定
令和2年度	15	4	2	3	6
令和3年度	6	5	0	1	0

資料 18

授業料免除者数

授業料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有）に対し、①授業料等の減免（授業料と入学料の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

※減免額については、(1)「第Ⅰ区分：満額（上限の範囲内）」 (2)「第Ⅱ区分：第Ⅰ区分の減免額の2/3」 (3)「第Ⅲ区分：第Ⅰ区分の減免額の1/3」  
(4)「停止：適格認定（家計）により支援対象外」 (5)「廃止」 (6)「不認定」

年 度	申請者数	(1) 全額減免	(2) 2/3 減免	(3) 1/3 減免	(4) 停止	(5) 廃止	(6) 不認定
令和2年度	前期	83	33	13	10	0	27
	後期	56	32	11	9	4	0
令和3年度	前期	67	39	12	7	3	6
	後期	65	38	11	9	4	2

授業料免除者数（高専機構）

年 度	前 期				後 期			
	申請者数	全額免除	半額免除	不許可	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成29年度	23	14	6	3	22	15	6	1
平成30年度	27	12	8	7	25	12	9	4
令和元年度	29	14	11	4	28	15	10	3
令和2年度	24	11	11(3)※	2	21	9	10(2)※	2
令和3年度	8	1	5(2)※	2(1)※	7	1	5	1

※カッコ内の授業料免除者は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」の免除額が「高専機構による授業料免除」の免除額（不許可含む）より多いため、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」（2/3又は1/3減免）を適用している。

資料 19

日本学生支援機構貸与奨学生採用者数

	本 科					専 攻 科					採用者数 合計 (第一種)	採用者数 合計 (第二種)
	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	予約採用	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	応急採用 (第二種)	無利子 (第二種)		
平成29年度												
申請者数	5	2	0	0		5	0	0	0	0		
推薦者数	4	2	0	0		4	0	0	0	0		
採用者数	4	2	0	0	4	4	0	0	0	0	12	2
平成30年度												
申請者数	6	1	0	0		6	0	0	0	0		
推薦者数	6	1	0	0		6	0	0	0	0		
採用者数	6	1	0	0	3	6	0	0	0	0	15	1
令和元年度												
申請者数	2	1	1	1		1	0	0	0	0		
推薦者数	1	0	1	1		1	0	0	0	0		
採用者数	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4	1
令和2年度												
申請者数	5	1	0	0		2	1	0	0	1		
推薦者数	5	1	0	0		2	1	0	0	1		
採用者数	4	1	0	0	0	2	0	0	0	1	6	2
令和3年度												
申請者数	6	3	0	0		5	4	0	0	0		
推薦者数	5	3	0	0		5	4	0	0	0		
採用者数	4	2	0	0	2	3	1	0	0	0	9	3

※予約採用は、中学校で予め申請をし、本校入学後に届け出ることで採用が決定される。  
 ※第一種・第二種併用貸与者は第一種・第二種それぞれに計上する。

資料 20

日本学生支援機構給付奨学生採用者数

令和元年度	本科4年			本科3年（予約採用）			採用者数 合 計	採用 候補者数	
	自宅生	自宅外生	社会的養護		自宅生	自宅外生			社会的養護
進学届提出者数	1	1	0	申請者数	21	3	1	17	
採用者数	1	1	0	推薦者数	21	3			
				採用候補者数	15	2			0
令和2年度	本科4年～専攻科2年			本科3年（予約採用）			採用者数 合 計	採用 候補者数	
	自宅生	自宅外生	社会的養護		自宅生	自宅外生			社会的養護
進学届提出者数	採用者	13	2	0	申請者数	11	2	1	13
進学届提出者数（編入）	採用者	1	0	0	推薦者数	11	2	1	
在学予約採用	申請者	22	7	0	採用候補者数	10	2	1	
	推薦者数	21	6	0	/				
	採用者	11	4	0					
在学採用	申請者	40	2	0					
	推薦者数	40	2	0					
	採用者	24	1	0					
令和3年度							採用者数 合 計	採用 候補者数	
	自宅生	自宅外生	社会的養護		自宅生	自宅外生			社会的養護
進学届提出者数	採用者	10	2	1	申請者数	8	1	0	8
進学届提出者数（編入）	採用者	1	0	0	推薦者数	8	1	0	
在学採用	申請者	14	0	0	採用候補者数	7	1	0	
	推薦者数	14	0	0	/				
	採用者	6	0	0					

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有）に対し、①授業料等の減免（授業料と入学金の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

## 進路状況

年度	学科	卒業者数	求人		就職者			進学・ その他
			企業数	求人数	民間企業	官公庁	計	
平成29年度	機械工学科	33	958	251	15	0	15	18
	電気工学科	36		251	21	0	21	15
	電子制御工学科	32		225	10	0	10	22
	情報工学科	39		200	16	0	16	23
	物質化学工学科	45		130	16	0	16	29
平成30年度	機械工学科	37	1,090	354	15	1	16	21
	電気工学科	39		236	11	0	11	28
	電子制御工学科	36		240	15	0	15	21
	情報工学科	38		186	14	0	14	24
	物質化学工学科	37		131	17	0	17	20
令和元年度	機械工学科	36	1,120	332	13	1	14	22
	電気工学科	34		237	16	0	16	18
	電子制御工学科	34		221	11	0	11	23
	情報工学科	40		227	16	0	16	24
	物質化学工学科	34		131	14	0	14	20
令和2年度	機械工学科	36	935	260	13	1	14	22
	電気工学科	48		235	23	0	23	25
	電子制御工学科	34		227	11	0	11	23
	情報工学科	35		195	15	0	15	20
	物質化学工学科	35		119	13	0	13	22
令和3年度	機械工学科	32	848	248	18	0	18	14
	電気工学科	38		209	19	1	20	18
	電子制御工学科	37		215	13	0	13	24
	情報工学科	39		175	21	0	21	18
	物質化学工学科	32		92	8	0	8	24

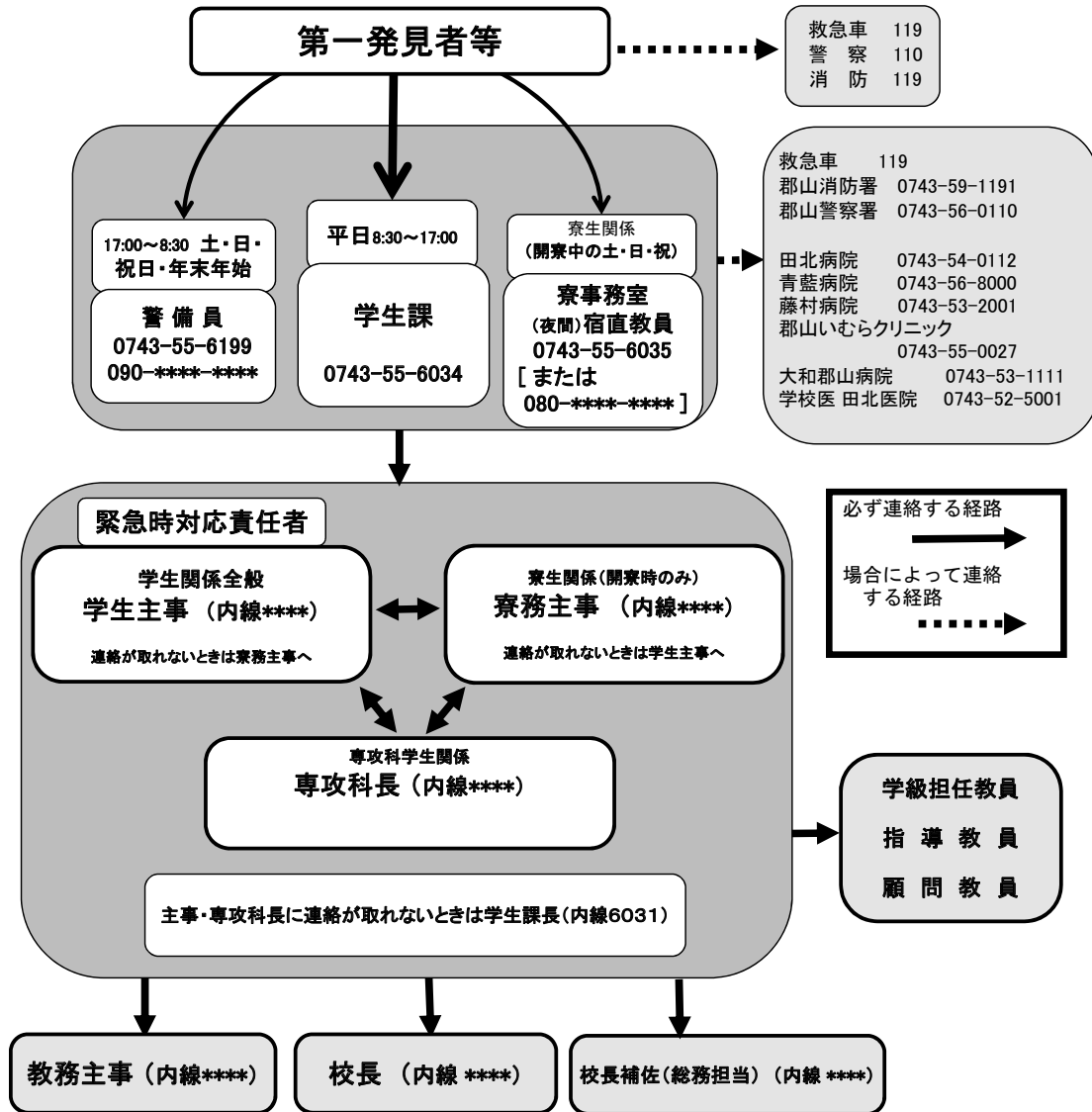
単車通学許可申請者

	学 年	申請者数	許可数
平成29年度	2	0	0
	3	0	0
	4	4	4
	5	3	3
	専攻科	17	12
	合 計	24	19
平成30年度	2	0	0
	3	2	2
	4	2	2
	5	1	1
	専攻科	15	15
	合 計	20	20
令和元年度	2	0	0
	3	4	3
	4	2	2
	5	2	2
	専攻科	11	11
	合 計	19	18
令和2年度	2	0	0
	3	4	2
	4	3	3
	5	2	2
	専攻科	10	10
	合 計	19	17
令和3年度	2	1	0
	3	3	3
	4	2	1
	5	3	3
	専攻科	9	9
	合 計	18	16

※1年生は運転免許の取得を認めていない

## 奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート

(図中「内線」は令和4年8月現在の対象教員研究室の内線電話番号)



- 事故等の第一発見者は、生命の安全に留意し現場対応(救急車要請、警察通報)を行うとともに、速やかに関係部署へ連絡し応援を求める。
- 緊急時対応責任者は、状況に応じ速やかに校長に報告するとともに、関係教職員とともにその対応に当たる。
- 緊急時には次のことに留意する。
  - (1) 生命の維持を最優先し、全教職員が適切な応急措置、救急体制がとれるように周知しておく。
  - (2) 冷静で的確な判断と指示をする。
  - (3) 救急車が必要だと判断した際には、直ちに救急車の要請を行う。
  - (4) けが等で病院に搬送するときは、緊急時を除き、保護者の意向を確認する。
  - (5) 事故について、保護者に事故発生状況、程度、今後の対応など詳細に納得のいく説明をする。
  - (6) 事故等緊急時連絡チェックリスト(別記)により関係教職員等に確実に連絡する。
  - (7) 緊急時対応責任者は、経過及び対応を簡潔かつ正確に記録しておく(またはその指示をする)。

## 学生委員会違反件数

( ) は関係者数

年度 違反・事件内容	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	無許可単車・自動車通学 免許取得要項違反	14	(11)	5	(5)	18	(14)	4	(4)	3
交通違反・事故	20	(21)	29	(33)	73	(72)	21	(20)	34	(34)
不祥事件 (条例違反・窃盗・不正利用等)	7	(7)	4	(4)	3	(3)	4	(4)	1	(2)
暴力・脅迫行為	2	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合 計	43	(41)	38	(42)	94	(89)	29	(28)	38	(39)



## 寮生数推移調(平成29年度～令和3年度)

	4 月				1 0 月					4 月				1 0 月			
	学 年	男 子	女 子		男 子	女 子		学 年		男 子	女 子		男 子	女 子			
平成 29 年度	1年	16	6		17	6		1年	22	6		21	6				
	2年	15	6		15	6		2年	17	4		17	4				
	3年	18	6 (2)		18	6 (2)		3年	17 (4)	5		17 (4)	5				
	4年	24 (3)	8 (2)		24 (3)	8 (2)		4年	17	5 (2)		16	5 (2)				
	5年	20 (3)	2 (1)		19 (3)	2 (1)		5年	22 (3)	6 (2)		22 (3)	6 (2)				
	小計	93 (6)	28 (5)		93 (6)	28 (5)		小計	95 (7)	26 (4)		93 (7)	26 (4)				
	合計	121 (11)			121 (11)			合計	121 (11)			119 (11)					
平成 30 年度	1年	15	4		15	4		1年	21	6		23	7				
	2年	20	6		20	5		2年	16	4		16	3				
	3年	18 (2)	4		18 (2)	4		3年	21 (3)	5 (1)		21 (3)	5 (1)				
	4年	19 (4)	5		19 (4)	5		4年	17 (2)	4		17 (2)	4				
	5年	14	5 (2)		12	5 (2)		5年	18 (4)	5		17 (4)	5				
	小計	86 (6)	24 (2)		84 (6)	23 (2)		小計	93 (9)	24 (1)		94 (9)	24 (1)				
	合計	110 (8)			107 (8)			合計	117 (10)			118 (10)					

	4 月				1 0 月					4 月				1 0 月			
	学 年	男 子	女 子		男 子	女 子		学 年		男 子	女 子		男 子	女 子			
令和 元 年度	1年	20	6		20	5		1年	18 (2)	4		18 (2)	4				
	2年	19 (4)	5		19 (4)	5		2年	16	4		16	3				
	3年	14	5 (2)		12	5 (2)		3年	21 (3)	5 (1)		21 (3)	5 (1)				
	4年	19 (4)	5		19 (4)	5		4年	17 (2)	4		17 (2)	4				
	5年	14	5 (2)		12	5 (2)		5年	18 (4)	5		17 (4)	5				
	小計	86 (6)	24 (2)		84 (6)	23 (2)		小計	93 (9)	24 (1)		94 (9)	24 (1)				
	合計	110 (8)			107 (8)			合計	117 (10)			118 (10)					

	4 月				1 0 月			
	学 年	男 子	女 子		男 子	女 子		
令和 3 年度	1年	20	9		20	9		
	2年	22	6		20	6		
	3年	15 (3)	3		13 (3)	2		
	4年	19 (3)	5 (1)		16 (3)	4 (1)		
	5年	17 (2)	4		15 (2)	4		
	小計	93 (8)	27 (1)		84 (8)	25 (1)		
合計	120 (9)			109 (9)				

※ ( )は留学生で内数

※ 短期留学生を除く

## 学 寮 の 日 課 表

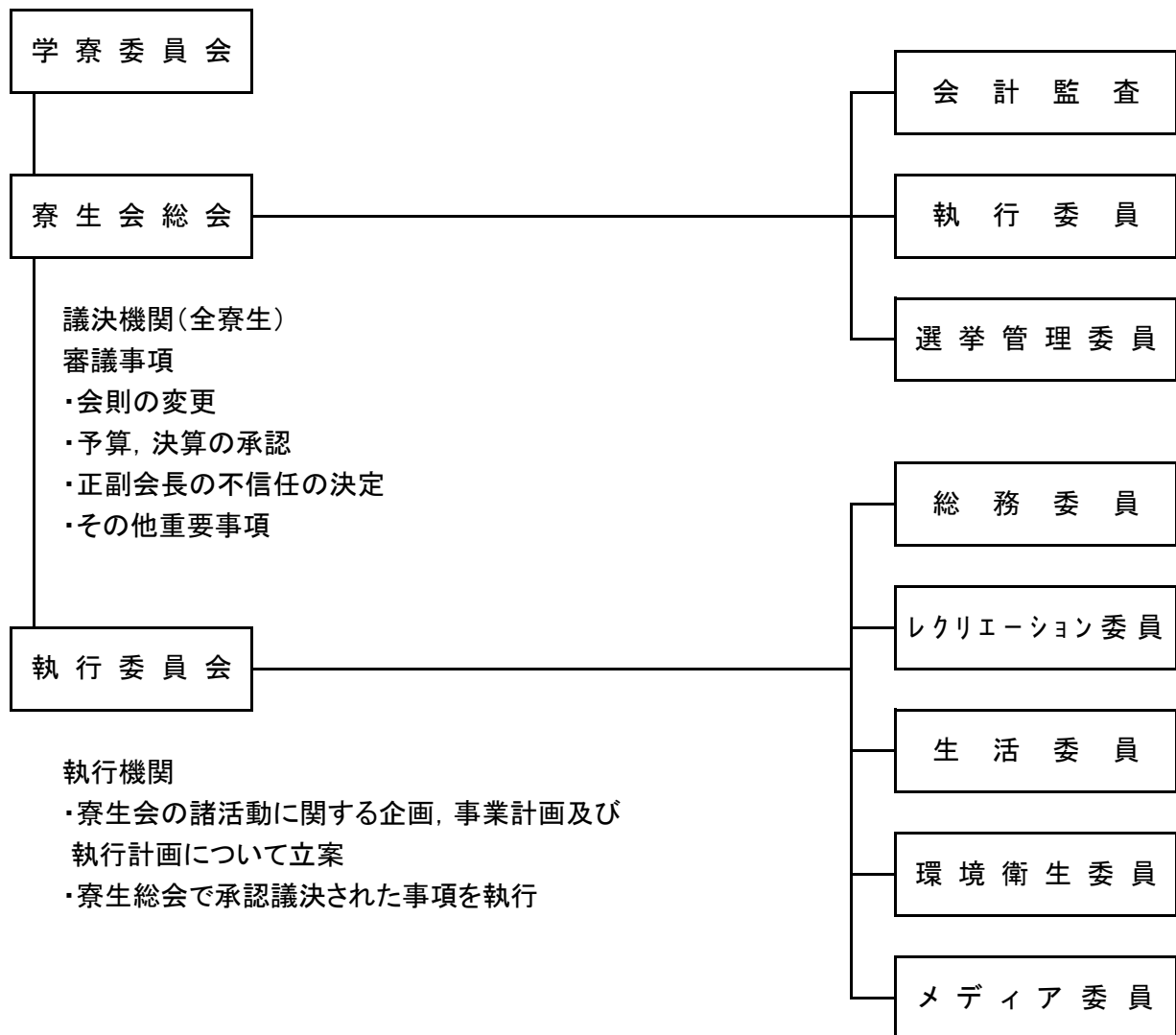
寮生は、基本的に以下の日課表に従って自主的に規則正しい生活をしなければならない。

時 間		内 容
男 子	女 子	
7:00	7:00	起床
7:00 ~ 7:25	7:00 ~ 7:25	清掃
7:50	7:50	朝食を知らせる放送
7:50 ~ 8:30	7:50 ~ 8:30	朝食時間
8:15	8:15	登校を促す放送
8:30 ~ 8:40	8:30 ~ 8:40	食堂の片づけ
12:00 ~ 13:00	12:00 ~ 13:00	昼食時間
17:30 ~ 19:15	17:30 ~ 19:15	夕食時間
18:30 ~ 21:30	18:00 ~ 21:00	入浴時間
22:00	21:30	門限・点呼報告
23:30	23:30	1年生の消灯時間
1:00	1:00	全寮棟の消灯時間

備考

- ◎ 消灯時刻は、定期試験の1週間前から試験最終日までは自由とする。
- ◎ 冬季は一部変更することがある。

## 寮生会の組織



## 学寮の年間行事(令和3年度)

月	諸 行 事
4 月	開寮, 寮生集会, 入寮式, 新入寮生歓迎会(特別食のみ), 連休に伴う閉寮
5 月	開寮, 寮生集会 春季スポーツ大会(夕食会), 避難訓練 ※新型コロナウイルスの影響により中止
6 月	寮祭(オンライン)
7 月	1年生寮生保護者との懇談会(オンライン)
8 月	大掃除, ※新型コロナウイルスの影響により中止 1年生部屋替え, 夏季休業による閉寮, 寮通信の発行
9 月	
10 月	開寮, 寮生集会, 寮長・副寮長選挙(オンライン), 秋季スポーツ大会(夕食会) ※新型コロナウイルスの影響により中止
11 月	避難訓練
12 月	5年生と語る会(オンライン), 寮通信の発行, 大掃除, 冬季休業による閉寮
1 月	開寮, 寮生集会, 留学生と語る会(オンライン)
2 月	学寮送別会(オンライン), 部屋替え, 学年末・春季休業による閉寮
3 月	寮通信の発行, 入寮予定者オリエンテーション

## 専攻科入学者選抜方法

年 度	選 抜 方 法 ・ 日 程		
平成30年度	推 薦 5月25日(木)	学 力 検 査 6月17日(土)	社 会 人 9月25日(月)
平成31年度	推 薦 5月24日(木)	学 力 検 査 6月16日(土)	社 会 人 9月26日(水)
2020年度	推 薦 5月23日(木)	学 力 検 査 6月15日(土)	社 会 人 9月25日(水)
令和3年度	推 薦 5月14日(木)	学 力 検 査 9月5日(土)	社 会 人 9月23日(水)
令和4年度	推 薦 5月20日(木)	学 力 検 査 6月12日(土)	社 会 人 9月22日(水)

※1 令和3年度推薦選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み面接は実施せず

※2 令和3年度学力選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み選抜期日を6月13日(土)から9月5日(土)に変更した

## 年度別専攻科入学状況

年度	専攻名	コース名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別内訳 ( )は社会人で内数
平成二十九年度	機械制御工学	-	8	2.9	23	16	16	本校 16
	電子情報工学	-	8	2.5	20	15	14	本校 14
	化学工学	-	4	4.3	17	9	9	本校 9
	合計		20	3.0	60	40	39	本校 39 他高専 0
平成三十年年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.6	19	13	11	本校 11
		電気電子システムコース	6	1.5	9	8	6	本校 6
		情報システムコース	6	2.7	16	12	10	本校 9 他高専 1
	物質創成工学	-	6	2.3	14	13	10	本校 10
	合計		30	1.9	58	46	37	本校 36 他高専 1
平成三十一年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.5	30	21	15	本校 15
		電気電子システムコース	6	3.5	21	18	14	本校 14
		情報システムコース	6	2.7	16	12	9	本校 9
	物質創成工学	-	6	2.2	13	12	7	本校 7
	合計		30	2.7	80	63	45	本校 45 他高専 0
2020年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.1	25	20	12	本校 12
								本校 11
		電気電子システムコース	6	2.7	16	13	12	他高専 1
	情報システムコース	6	2.5	15	15	12	本校 12	
	物質創成工学	-	6	2.7	16	11	7	本校 7
合計		30	2.4	72	59	43	本校 42 他高専 1	
令和三年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.6	19	14	12	本校 12
								本校 9
		電気電子システムコース	6	2.5	15	12	10	他高専 1
	情報システムコース	6	2.0	12	10	9	本校 9	
	物質創成工学	-	6	2.0	12	9	9	本校 9
合計		30	1.9	58	45	40	本校 39 他高専 1	

## 専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場（令和4年度）

区 分		出 題 分 野 (内 容)	
各専攻共通（一般科目）		数学（微分積分，線形代数）	
専 門 科 目	システム創成 工学専攻	機械制御システムコ ース	熱・水力学，材料力学，電気回路 以上3分野から2分野選択
		電気電子システムコ ース	電気電子工学（電磁気学，電気回路，アナ ログ電子回路）
		情報システムコース	情報工学（論理回路，情報数学，情報理論， データ構造とアルゴリズム，プログラミング， 計算機ネットワーク）
	物質創成工学専攻	化学工学（流動，伝熱，物質移動）， 物理化学（熱力学及び反応速度論）， 無機化学（元素の性質，化学結合論，固体 化学）， 分析化学（酸塩基平衡，沈殿平衡，錯生成 平衡，分配平衡，酸化還元平衡）， 有機化学（脂肪族及び芳香族化合物）， 生物化学（生体成分及び代謝） 以上6分野から3分野選択	

## (学力検査)

月 日	時 間	科 目 等	検 査 場
6月12日（土）	9：10～10：10	数 学	奈良工業高等専門学校
	10：30～12：30	専門科目	
	13：30～	面 接	





## 専攻科特別講演会

回	日 時	講演者職名	演 題
19	平成 21 年 11 月 20 日(金) 16:00~17:30	(株)森精機製作所取締役社長	工作機械の最近技術動向
20	平成 22 年 6 月 7 日(月) 14:40~16:10	元大阪大学総長	ナノサイエンスのロマン
21	平成 22 年 12 月 10 日(金) 15:00~17:00	京都大学名誉教授	次世代エネルギーシステムと電池
22	平成 23 年 12 月 16 日(金) 13:00~14:30	日本資材(株)取締役社長	企業における研究の目的と研究員の姿勢
23	平成 25 年 1 月 25 日(金) 13:00~14:30	豊橋技術科学大学教授	センサと LSI の融合が導くイノベーション
24	平成 25 年 12 月 20 日(金) 14:40~16:10	大阪大学大学院教授	再生医療実用化の現状と取り組みについて
25	平成 26 年 10 月 10 日(金) 13:00~14:35	近畿大学水産研究所 所長・特任教授	クロマグロの完全養殖技術の開発と産業化
26	平成 27 年 11 月 13 日(金) 13:00~14:35	京都大学医学部附属病院 医療情報企画部 助教	コンピュータが視る世界, コンピュータが描く世界
27	平成 28 年 12 月 8 日(木) 14:40~16:15	東レ(株)先端材料研究所 新エネルギー材料研究室 室長リサーチフェロー/工務技監	新素材研究と医療・環境分野への適用
28	平成 29 年 11 月 30 日(木) 14:40~16:15	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授	試行錯誤で行動を学習する人工知能ロボットの進化
29	平成 30 年 10 月 18 日(木) 14:40~16:15	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科教授	スピン電子工学：入門
30	令和元年 12 月 12 日(木) 15:00~16:30	大阪大学院情報科学研究科 情報数理学専攻 情報フォトニクス講座 助教	コンピューテーショナルイメージング
31	令和 3 年 1 月 21 日(木) 15:00~16:30	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 ソフトウェア工学研究室助教	ソフトウェアエコシステム研究：ドキュメンテーション・オープンサイエンス・エコノミクス
32	令和 3 年 11 月 11 日(木) 14:50~16:20	山本光学株式会社 執行役員 開発部 部長	現場主義と一貫通貫のものづくり

## 専攻科修了者の進路

奈良工業高等専門学校

年度	専攻名	進路						
		就職	進学	その他				
29	機械制御工学	クオリカプス(株)	1	大阪大学大学院	3			
		ローランド(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2			
		(株)GSユアサ	1	京都工芸繊維大学大学院	2			
		シスメックス(株)	1	九州大学大学院	1			
		日本電産(株)	1	大阪市立大学大学院	1			
		(株)近計システム	1	同志社大学大学院	1			
		大和ハウス工業株	1					
	計	7	計	10	計	0		
	電子情報工学	東海交通機械(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	8	未定	1	
		三菱電機システムサービス(株)	1	大阪大学大学院	3			
(株)ダイヘン		1	総合研究大学院大学	1				
近畿日本鉄道(株)		1						
(株)LIFULL		1						
計	5	計	12	計	1			
化学工学	日本ニューマチック工業(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	5				
	シスメックス(株)	1	大阪大学大学院	4				
			京都大学大学院	1				
計	2	計	11	計	0			
計		14		33		1		
30	システム創成工学	機械制御システムコース	クオリカプス(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	7	未定	1
			(株)ヒラノテクシード	1	京都工芸繊維大学大学院	3		
			追手門学院小学校(教員)	1	京都大学大学院	1		
		計	3	計	11	計	1	
	電気電子システムコース	サントリーホールディングス(株)	1	東北大学大学院	2			
				岡山大学大学院	1			
				千葉大学	1			
	計	1	計	6	計	0		
	情報システムコース	富士通エフサスシステムズ(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2			
		ゾーホージャパン(株)	1	大阪大学大学院	1			
ハイウェイ・トル・システム(株)		1						
e-BASE(株)		1						
計	4	計	3	計	0			
物質創成工学	三菱ガス化学(株)	1	東京工業大学大学院	2				
	オリエント化学工業(株)	1	大阪大学大学院	2				
			東京大学大学院	1				
			筑波大学大学院	1				
計	2	計	7	計	0			
計		10		27		1		

年度	専攻名	進路						
		就職	進学	その他				
R1	システム創成工学	機械制御システムコース	セイコーエプソン(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	4		
			(株)奥村組	1	大阪大学大学院 京都工芸繊維大学大学院	3 2		
		計	2	計	9	計	0	
		電気電子システムコース			奈良先端科学技術大学院大学	4		
					名古屋大学大学院 京都大学大学院	1 1		
	計	0	計	6	計	0		
	情報システムコース	TRUNK(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	5			
		自衛隊 幹部候補生 TISシステムサービス(株) (株)ヘッドジャパン フェンリル(株)	1 1 1 1					
	計	5	計	5	計	0		
	物質創成工学	呉竹(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2			
AGC(株) 吹田市		1 1	京都大学大学院 神戸大学大学院	2 1				
計	3	計	5	計	0			
計		10		25		0		
R2	システム創成工学	機械制御システムコース	ソフトバンク(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	5	未定	3
			(株)トクピ製作所	1	大阪大学大学院 京都大学大学院 同志社大学大学院	3 1 1		
		計	2	計	10	計	3	
		電気電子システムコース	近畿日本鉄道(株)	1	大阪大学大学院	3	未定	2
			寺崎電気産業(株) パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ社	1 1	奈良先端科学技術大学院大学 東京工業大学大学院 同志社大学大学院	3 2 1		
	計	3	計	9	計	2		
	情報システムコース	アステック(株)	2	奈良先端科学技術大学院大学	3	未定	3	
		(株)アイティフォース (株)AHIRU	1 1					
	計	4	計	3	計	3		
	物質創成工学			奈良先端科学技術大学院大学	6			
			京都大学大学院 神戸大学大学院 大阪大学大学院	1 1 1				
計	0	計	9	計	0			
計		9		31		8		

年度	専攻名	進路				
		就職	進学	その他		
R3	機械制御システムコース	日立造船(株)	1	大阪大学大学院	4	
		(株)小松製作所	1	奈良先端科学技術大学院大学	3	
		新明和工業(株)	1	東北大学大学院	1	
		(株)アル テクナ	1	京都工芸繊維大学大学院	1	
		計	4	計	9	計 0
	電気電子システムコース	大阪ガス(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2	
		ヤンマーホールディングス(株)	1	東北大学大学院	2	
		(株)ビーネックスソリューションズ	1	北陸先端科学技術大学院大学	1	
		日立造船(株)	1	東京工業大学大学院	1	
		TBSアクト(株)	1	大阪大学大学院	1	
パナソニック(株)エレクトリックワークス		1				
(株)中央エンジニアリング	1					
	計	7	計	7	計 0	
情報システムコース	(株)マネーフォワード	1	奈良先端科学技術大学院大学	10		
	大研医器(株)	1				
	(株)NTTデータSBC	1				
	(株)はてな	1				
	計	4	計	10	計 0	
物質創成工学	出光興産(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2		
	三菱ガス化学(株)	1	北海道大学大学院	1		
	旭化成(株)	1				
	住友電気工業(株)	1				
	計	4	計	3	計 0	
	計	19		29	計 0	

奈良高専JABEE修了者進路状況

平成17年度												平成18年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
4	8	0	12	2	6	0	8	2	3	0	5	9	6	1	16	2	11	1	14	2	3	0	5
33.3%	66.7%	0.0%		25.0%	75.0%	0.0%		40.0%	60.0%	0.0%		56.3%	37.5%	6.3%		14.3%	78.6%	7.1%		40.0%	60.0%	0.0%	

平成19年度												平成20年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
2	12	1	15	6	11	0	17	3	4	0	7	6	11	3	20	7	8	1	16	3	3	0	6
13.3%	80.0%	6.7%		35.3%	64.7%	0.0%		42.9%	57.1%	0.0%		30.0%	55.0%	15.0%		43.8%	50.0%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成21年度												平成22年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3	8	1	12	4	4	2	10	3	5	0	8	11	9	0	20	5	10	1	16	2	2	0	4
25.0%	66.7%	8.3%		40.0%	40.0%	20.0%		37.5%	62.5%	0.0%		55.0%	45.0%	0.0%		31.3%	62.5%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%	

平成23年度												平成24年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
9	8	0	17	3	8	2	13	2	8	0	10	8	6	0	14	6	6	1	13	4	3	0	7
52.9%	47.1%	0.0%		23.1%	61.5%	15.4%		20.0%	80.0%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		46.2%	46.2%	7.7%		57.1%	42.9%	0.0%	

平成25年度												平成26年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
7	7	0	14	6	13	1	20	5	6	0	11	2	12	0	14	10	7	0	17	2	5	0	7
50.0%	50.0%	0.0%		30.0%	65.0%	5.0%		45.5%	54.5%	0.0%		14.3%	85.7%	0.0%		58.8%	41.2%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

平成27年度												平成28年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3	7	0	10	3	12	0	15	2	7	0	9	1	9	0	10	2	10	0	12	0	8	0	8
30.0%	70.0%	0.0%		20.0%	80.0%	0.0%		22.2%	77.8%	0.0%		10.0%	90.0%	0.0%		16.7%	83.3%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	

平成29年度												改組前 累計											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
7	10	0	17	5	12	1	18	2	11	0	13	72	113	6	191	61	118	10	189	32	68	0	100
41.2%	58.8%	0.0%		27.8%	66.7%	5.6%		15.4%	84.6%	0.0%		37.7%	59.2%	3.1%		32.3%	62.4%	5.3%		32.0%	68.0%	0.0%	

平成30年度												令和元年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3	11	1	15	1	6	0	7	4	3	0	7	2	9	0	11	0	6	0	6	5	5	0	10
20.0%	73.3%	6.7%		14.3%	85.7%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		18.2%	81.8%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	

令和2年度												令和3年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
2	10	3	15	3	9	2	14	4	3	3	10	3	9	0	12	5	6	0	11	4	10	0	14
13.3%	66.7%	20.0%		21.4%	64.3%	14.3%		40.0%	30.0%	30.0%		25.0%	75.0%	0.0%		45.5%	54.5%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

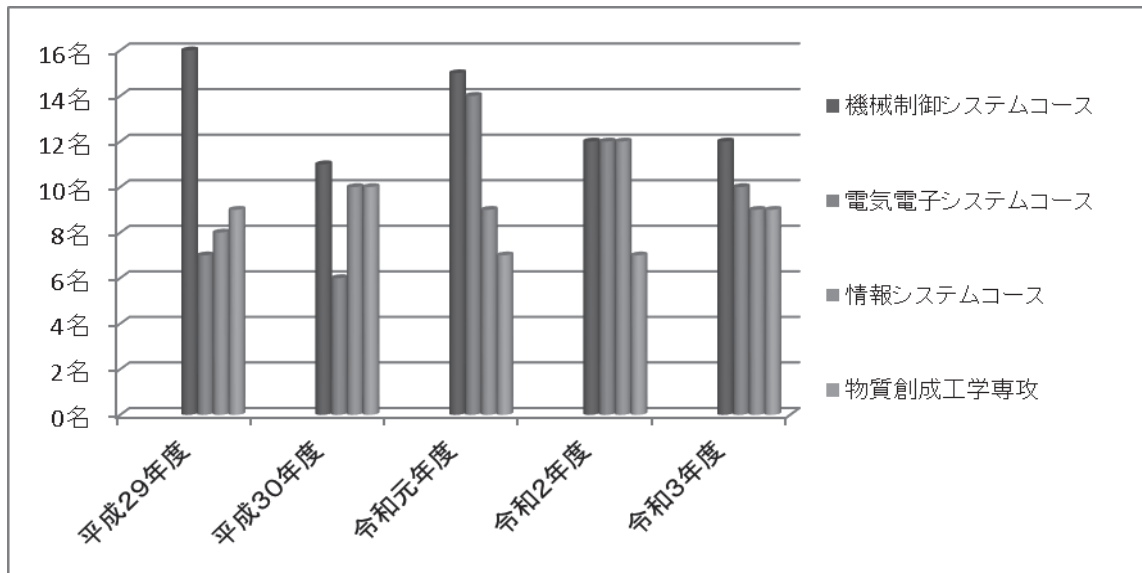


図 専攻科入学者数の推移

## 企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科・延べ人数）

年 度	機械制御 工学専攻	電子情報 工学専攻	化学工学 専攻	システム創成工学専攻			物質創成 工学専攻	合 計
				機械制御 システム コース	電気電子 システム コース	情報 システム コース		
平成29年度	0	1	1	9	5	4	5	25
平成30年度				5	3	7	5	20
令和元年度				11	4	7	1	23
令和2年度				4	2	1	1	8
令和3年度				5	10	3	0	18

※海外インターンシップ含む

## 専攻科生の論文等の学会発表件数

発表先	年度	機械制御工学専攻	電子情報工学専攻	化学工学専攻	機械制御システムコース	電気電子システムコース	情報システムコース	物質創成工学専攻	合計
学術雑誌論文	平成29年度	3	15	0					18
	平成30年度				4	5	0	0	9
	令和元年度				4	2	1	0	7
	令和2年度				3	1	0	3	7
	令和3年度				1	1	1	0	3
国際学会発表	平成29年度	7	9	6					22
	平成30年度				8	4	1	6	19
	令和元年度				8	4	3	16	31
	令和2年度				4	1	5	3	13
	令和3年度				13	0	1	3	17
国内学会発表※	平成29年度	13	33	28					74
	平成30年度				26	20	12	36	94
	令和元年度				21	15	10	32	78
	令和2年度				19	12	16	23	70
	令和3年度				13	23	15	19	70
その他 (特許, 研究 紀要, 解説 等)	平成29年度	0	0	0					0
	平成30年度				0	1	0	0	1
	令和元年度				0	4	0	0	4
	令和2年度				2	0	0	0	2
	令和3年度				1	0	0	0	1

※国内で開催された国際学会での発表は、国際学会発表欄に含めるものとする



## 専攻科生の学外表彰実績

学生氏名	タイトル	授与機関・学会議名
		賞名
システム創成工学専攻	機械制御システムコース 小川 奈那子	Development of Active Controlled Caster (Experimental Evaluation of Chassis Motion by Passing Over Bumps) The 10th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2022 Best Student Paper Award
	機械制御システムコース 森川 建太	T-6テキサン変形ロボット 3D PRINT CONTEST 06 ニルニル賞
	機械制御システムコース 森川 建太, 小川 奈那子	パイプハウスの台風対策 第4回高専防災コンテスト 気象災害軽減コンソーシアム賞
	機械制御システムコース 服部 圭一郎	傾斜果樹園における電動運搬台車の自動搬送システム 第22回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 SI2021 優秀講演賞
	電気電子システムコース 濱田 敬文	パワーインダクタへの応用を目指した磁性微粒子内包アルミナの作製と磁気特性 令和3年度 電気学会[A] 基礎・材料・共通部門 マグネティックス研究会 研究奨励賞
	電気電子システムコース 吉村 勇人	ワーク形状に関わらず加熱ムラを低減するIHシステムの検討 IEEE IES Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞
物質創成工学専攻 太田 ひかる	Cholesterolと非イオン界面活性剤からなる自己集合体の階層的疎水性の違いによる分子の局在性への影響 化学工学会 第52回秋季大会 優秀ポスター賞	
物質創成工学専攻 安藤 うた	イオン液体修飾Ptナノ粒子上での酸素還元活性の評価 電気化学会 第89回大会 優秀学生講演賞	
物質創成工学専攻 宇賀 正紘	LDHを電解質としたAFCの発電特性とイオン伝導機構の検討 電気化学会 第89回大会 優秀学生講演賞	

## 第2章 研究に関する評価関係

科学研究費等受入実績調べ

(単位:円)

学 科 名	科学研究費補助金 外数(研究分担金)		共 同 研 究 (産学連携等研究費)		受託研究・受託事業 (産学連携等研究費)		補 助 金 事 業		奨 学 寄 付 金		う ち 県 内		う ち 県 外	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
平成29年度	24 (11)	23,780,000 【6,960,000】 (2,750,000) 【825,000】	22	14,372,360	7	35,178,000	5	30,350,102	78	18,583,205	27	10,477,205	51	8,106,000
平成30年度	24 (10)	22,152,560 【6,540,000】 (2,250,000) 【675,000】	29	16,391,861	13	35,902,870	10	26,223,357	104	30,586,200	39	10,891,400	65	19,694,800
令和元年度	21 (10)	21,050,000 【6,180,000】 (2,095,000) 【628,500】	21	13,018,292	13	74,772,371	10	27,626,242	98	23,626,236	43	12,103,236	55	11,523,000
令和2年度	21 (14)	21,132,163 【6,120,000】 (2,920,000) 【876,000】	25	18,386,280	8	82,910,278	12	181,197,588	76	9,681,000	29	4,276,000	47	5,405,000
令和3年度	25 (13)	31,788,197 【9,272,460】 (2,041,000) 【612,300】	14	10,570,000	5	38,882,999	8	15,950,000	65	14,234,000	29	3,254,000	36	10,980,000

外数【間接経費】

令和3年度科学研究費採択状況一覧

『配分額』は学内受入総額(学外分担者分除く)直接+間接)を指す。

年度	種別	申請数	採択数	採択率	直接経費(千円)	間接経費(千円)	氏名	種別	配分額(千円)	課題番号	課題	
3年度	特別推進研究	0	0	-	0	0						
	新学術領域研究	0	0	-	0	0						
	学術変革領域研究	0	0	-	0	0						
	基礎研究(S)	0	0	-	0	0						
	基礎研究(A)	0	0	-	0	0						
	基礎研究(B)	3	1	33.3%	8,100	2,430	後藤 豊子	新規	9,114	21H00811	大気圧プラズマジェット表面改質技術を用いたナノスケールの濡れ制御	
	基礎研究(C)					0	0	朴 權英	期間延長	0	17K04598	音声データ分析による英語プレゼンテーション授業の教育評価方法に関する研究開発
						0	0	金澤 直志	期間延長	0	18K00901	Predictabilityを学習と連携した英文速読精読Web教材開発
						0	0	直江 一光	期間延長	0	18K04830	微生物を含むマイクロビームを気相マイクロリアクターとする生体コアの合成
						0	0	宇田 亮子	期間延長	0	18K05068	光イオン化マカライトグリーン誘導体によるDNA固定化の構築とメカニズムの解明
						700	210	三木 功次郎	継続	910	19K03131	新規なハイオキ電池および自己駆動型クーロメトリーの開発とその教育カリキュラムの作成
						1,000	300	福岡 寛	継続	1,300	19K04182	衝撃波閉じ込め領域の制御に向けた壁面表面設計
						500	150	中村 篤人	継続	650	19K04202	音波共鳴管実験と分子気体力学に基づく非平衡状態下での蒸発係数測定法の開発
						700	210	松浦 幸仁	継続	910	19K05688	ノーマルイオン伝導性層状複水酸化物を電解質とした次世代型全固体AFCの開発
						400	120	山田 裕久	継続	520	19K05682	新規高イオン伝導性層状複水酸化物を電解質とした次世代型全固体AFCの開発
						500	150	松尾 賢一	継続	650	20K03143	自由手書きされた重ね書き文字認識を可能にする前処理の実現
						900	270	竹原 信也	継続	1,040	20K03286	技術者倫理教育の教育実践研究を通じて教育改善と効果的な学習教材の開発
						2,000	600	谷口 幸典	継続	2,600	20K04204	PXXをコアとする多様な含酸素芳香族化合物の合成と物性評価
						1,000	300	亀井 総之	継続	1,300	20K05482	多目的強化化学習習結果までの分布を可視化する報酬生起確率ベクトル空間の構築
						1,300	390	山口 智浩	継続	1,690	20K11946	イオン交換/キレート繊維を用いた半導体めっきゼロ・エミッションプロセスの開発
						500	150	中村 秀美	継続	650	20K12248	深層学習アプローチによる力学的感性的規覚化
						1,800	540	平 俊男	新規	2,340	21K03824	認知症予防・発症判断・進行抑制のための革新的自立型歩行システムの開発
						1,300	390	早川 恭弘	新規	1,690	21K03990	100MHz動作を担ったサブミクロン軟磁性微粒子内包アルミナナノプレートの創成
						900	270	藤田 直幸	新規	1,040	21K04162	標的がん細胞の殺菌と同時検出を可能にするpH応答性分子含有リポソームの開発
						1,100	330	宇田 亮子	新規	910	21K02219	収束・管理支援用連動台車の開発
					1,300	390	飯田 賢一	新規	1,690	21K03858	多入力多出力の非同期的順序素子を対象としたテスト容易化設計	
					1,600	480	岩田 大志	新規	2,080	21K11820	生体情報を用いたプログラム理解のマイクログロブセス分析	
					700	210	上野 秀剛	新規	910	21K11842	小型軽量かつ柔軟性を備えたMR流体チップ機構の開発と電動時継手への適用	
					1,200	360	矢野 剛彦	新規	1,560	21K12779	高い高度分解能を持つロケットGPSモグラフィ技術の実証実験	
	挑戦的研究(萌芽)	1	0	0.0%	0	0	芦原 佑樹	期間延長	0	16K18126	ベンチルによる補食応答制御：位置選択性・立体選択性を有する溶媒としての自己集合体	
	若手研究(B)	0	0	-	1,300	390	林 啓太	継続	1,690	20K15082	能動制御キャスターを複数同時制御する体系的振動制御手法	
	若手研究	8	3	37.5%	1,800	540	須田 敦	新規	2,340	21K14111	光ピンセットが導く特異な相分離構造の形成過程と起源の解明	
	研究活動スタート支援	0	0	-	308	92	松本 充央	新規	401	21K13882	アクティブラーニングにおける基礎的・汎用的能力の定量的評価の研究	
	研究成果公開発表(ひらめき 女ときめきサイエンス)	0	0	-	0	0	巖谷 智也子	期間延長	0	19K23307		
	国際共同研究強化(A)	0	0	-	0	0						
	奨励研究	8	2	25.0%	430	-	福田 龍一	新規	430	21H04002	立ち作業が困難な学生を対象としたアラミス撥水補助装置の研究開発と導入	
	小計(代表)				450	450	尾崎 充紀	新規	450	21H04055	伝統技法を題材にした知の三次元化ハイブリッド型実験教材の開発とパッケージ化	
		基礎研究(A) 研究分担者	59	25	42.4%	31,788	9,272			38,095		
		基礎研究(B) 研究分担者				20	6	板倉 和裕	継続	26	17H01636	分権的發展の効果と潜在力：インド29州の比較分析を通じた民主主義的安定のカタチ
基礎研究(C) 研究分担者					150	45	松井 真希子	継続	195	18H00611	河内書院を中心とする日本漢学の研究とアーカイブ構築	
基礎研究(B) 研究分担者					550	165	板倉 和裕	継続	715	19H04367	司法書院を中心とする社会運動からみる現代インドの自由民主主義体制の持続可能性	
基礎研究(B) 研究分担者					120	36	上島 智史	継続	156	20H01394	防災・災害復興に向けた地図・図形資料の歴史GISデータ化	
基礎研究(B) 研究分担者					320	96	大谷 真弘	新規	416	21H03513	遅延時間がネットワークダイナミクスに誘発させる安定化・多様化の基礎と革新的応用	
基礎研究(C) 研究分担者					50	15	朴 權英	継続	65	17K02706	日本語話者と英語話者による英語連続音声における話者子音の発話及び知覚に関する研究	
基礎研究(C) 研究分担者					131	39	池田 陽紀	継続	170	19K02989	国家再工業100%を目指す専門人材育成のための工学教育プログラムの構築	
基礎研究(C) 研究分担者					80	24	福岡 寛	継続	104	19K03815	超音速で進化する2つのプラズマの衝突過程を用いた複合ナノ粒子の創成	
基礎研究(C) 研究分担者					150	45	上野 秀剛	継続	195	19K15561	地域圏の文化を対象とした観光の形成手法と波及効果に関するアクションリサーチ	
基礎研究(C) 研究分担者					200	60	後藤 豊子	継続	260	20K02417	電界効果法とインジウム法による再生繊維の持続可能型染色加工	
基礎研究(C) 研究分担者					50	15	大田 孝雄	継続	65	20K04219	多品種少量ハイム半導体製造向け多価イオンマイクログロブセスの開発	
基礎研究(C) 研究分担者				70	21	木田 孝雄	継続	91	20K04944	大気圧プラズマを応用した多層塗膜における対象表面で剥離させ易くする手法の提案		
基礎研究(C) 研究分担者				150	45	後藤 豊子	新規	195	21K02084	フライングノズル水を用いた布の洗浄現象の解析および最適利用法の提案		
小計(分担)	13	13	100.0%	2,041	612			2,653				
合計	72	38	52.8%	33,829	9,885							

## 令和3年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧

## 受託研究

学 科	氏 名	受託研究申込者	所 在 地	研 究 題 目	研 究 期 間	研究経費受入額
電気工学科	池田 陽紀	企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。			R3.4.27-R4.3.31	1,375,000
機械工学科	福岡 寛	国立大学法人東京大学 工学系・情報理工学系等 事務部長 櫻井 明	東京都文京区本郷7-3-1	脳深部計測のための音響光技術開発 (日本医療研究開発機構(AMED) 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト)	R3.4.1-R4.3.31	5,330,000
物質化学工学科	山田 裕久	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発 機構	神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミューザ川崎セントラルタワー 18階	『燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた 共通課題解決型産学官連携研究開発事業 /水素利用等高度化先端技術開発/PEFC 用イオン液体含浸型Pt/MPC高活性・高 耐久カソード触媒合成技術の研究開発』	R2.7.31-R4.6.30	16,100,000
計	3件					22,805,000

## 受託事業

学 科	氏 名	受託事業申込者	所 在 地	プログラム名	受託期間	受託金額
電気工学科	芦原 佑樹	文部科学省 研究開発局長 生川 浩史	東京都千代田区霞が関三丁目 2番2号	『観測ロケット実験を通じた宇宙機器エンジニアリングスキル養成プログラム』	R3.4.1-R4.3.31	15,999,999
情報工学科	内田 眞司	郡山城にぎわいづくり実行委員会 会長 飯田 喜代禎	奈良県大和郡山市北郡山町 248番地4	郡山城天守台プロジェクトマッピング	R3.6.10-R3.12.4	78,000
計	2件					16,077,999

## 補助金事業

学 科	氏 名	補助事業実施者	所 在 地	プロジェクト名	補助期間	補助金額
情報工学科	松村 寿枝	文部科学省	東京都千代田区霞が関3-2-2	令和3年度科学技術人材育成補助金(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型))	R3.4.1-R4.3.31	9,500,000
機械工学科	須田 敦	公益財団法人 JKA	東京都港区港南一丁目2-70 品川シーズンテラス25階	貨物用モノレールの高度化に関する研究 (2021年度 公益財団法人JKA 機械振興補助事業 研究補助)	R3.4.1-R4.3.31	2,000,000
物質化学工学科	宇田 亮子	公益財団法人高橋産業経済研究財団	東京都品川区西五反田2-12-19 五反田NNビル10階	光応答型ゲアニオン四重鎖プローブを目指したトリフェニルメタン誘導体の開発 (高橋産業経済研究財団 令和3年度助成金)	R3.4.1-R4.3.31	1,100,000
校長	後藤 景子	奈良県知事 荒井 正吾	奈良県奈良市柏木町129番地 1	令和3年度奈良高専技術情報活用支援事業補助金	R3.4.1-R4.3.31	1,200,000
電子制御工学科	西田 茂生 他	独立行政法人工業所有権情報・研修館	東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー 8階	令和3年度知財力開発校支援事業	R3.5.11-R4.3.31	500,000
一般教科	竹原 信也	関西工学教育協会高専部会長 明石工業高等専門学校長 神戸 宣明	兵庫県明石市魚住町西岡679-3	高専における技術者倫理教育の質的研究 (談話分析とビデオレフレクションの試み) (令和3年度関西工学教育協会高専部会 教育研究助成)	R3.6.24-R4.3.31	150,000
機械工学科	須田 敦	公益財団法人 マツダ財団	広島県安芸郡府中町新地3-1	起立動作と座位姿勢によるスマートチェアの実現に向けて	R3.9.24-R5.3.31	1,000,000
電子制御工学科	西田 茂生 他	独立行政法人工業所有権情報・研修館	東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー 8階	令和4年度知財力開発校支援事業	R4.4.1-R5.3.31	500,000
計	8件					15,950,000

## 令和3年度 共同研究一覧

	学 科	氏 名	会 社 名	所 在 地	研 究 題 目	変更契約	研 究 期 間	研究経費受入額
1	機械工学科	須田 敦					R3.4.1 ~ R4.3.31	400,000
2	物質化学工学科	中村 秀美					R3.4.27 ~ R4.3.31	500,000
3	機械工学科	須田 敦					R3.6.3 ~ R4.3.31	100,000
4	機械工学科	福岡 寛				研究費増額	R2.4.1 ~ R4.3.31	770,000
5	校長 物質化学工学科	後藤 景子 山田 裕久				期間延長	R2.10.1 ~ R4.9.30	-
6	電子制御工学科	中村 篤人					R3.10.27 ~ R6.3.31	770,000
7	物質化学工学科	片倉 勝己					R3.12.8 ~ R4.12.28	3,300,000
8	物質化学工学科	松浦 幸仁					R3.12.14 ~ R4.3.14	500,000
9	機械工学科	福岡 寛				期間延長 研究費増額	R2.4.1 ~ R5.3.31	770,000
10	物質化学工学科	片倉 勝己					R4.1.13 ~ R5.3.31	110,000
11	情報工学科	上野 秀剛					R4.4.1 ~ R5.3.31	1,300,000
12	機械工学科	福岡 寛				期間延長 研究費増額	R2.5.26 ~ R5.3.31	500,000
13	情報工学科	上野 秀剛				期間延長 研究費増額	R2.5.26 ~ R5.3.31	500,000
14	物質化学工学科	中村 秀美					R4.4.1 ~ R5.3.31	500,000
15	物質化学工学科	中村 秀美				期間延長	R2.12.1 ~ R5.3.31	-
16	物質化学工学科	山田 裕久				期間延長	H30.10.19 ~ R5.3.31	-
17	電子制御工学科	飯田 賢一				期間延長 研究費増額	R2.4.2 ~ R5.3.31	550,000
18	物質化学工学科	山田 裕久				期間延長	H28.4.25 ~ R5.3.31	-
19	物質化学工学科	中村 秀美				期間延長	R3.4.27 ~ R5.3.31	-
20	機械工学科	須田 敦				期間延長	R2.9.3 ~ R5.3.31	-
21	機械工学科	須田 敦				期間延長	R3.6.3 ~ R5.3.31	-
	計	14件（期間延長のみの変更契約分は件数に含まない）						10,570,000

企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。



49	長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会研究助成			○	200,000円		R3.9.30
50	谷口准教授研究助成金			○	300,000円		R3.10.19
51	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費		○		20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R3.10.5
52	福岡准教授研究助成金			○	3,300,000円		R3.10.7
53	福岡准教授研究助成金		○		750,000円		R3.10.28
54	中村篤人研究助成金			○	4,250,000円		R3.11.15
55	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R3.12.13
56	奈良高専産学連携促進助成金		○		100,000円		R3.11.29
57	奈良高専産学連携促進助成金			○	100,000円		R3.12.15
58	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費		○		20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R3.12.3
59	奈良高専産学連携促進助成金		○		100,000円		R3.12.20
60	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.1.14
61	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費		○		20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.2.18
62	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費		○		20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R4.3.9
63	教育助成金		○		1,000,000円		R4.3.15
64	石飛学教授研究助成金			○	500,000円		R4.3.31
65	谷口准教授研究助成金			○	300,000円		R4.4.20
合 計					14,234,000円		



学会賞等の受賞状況(奈良高専在任期間中)

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
機械工学科	小島 耕二	昭和59年5月	論文賞	日本塑性加工学会	論文「炭素鋼の焼きもどし温間鍛造」
情報工学科	山口 智浩	平成13年5月	第14回人工知能学会優秀論文賞	人工知能学会	PAE-PIA:報酬獲得効率を最大化する政策の強化学習
物質化学工学科	宇田 亮子	平成13年6月	講演奨励賞	日本科学会	長鎖アルキル基を有するビスクラウン化マラカイトグリーンの合成と物性評価
電気工学科	大谷 真弘	平成14年5月	第4回LSI IPデザイン・アワード開発奨励賞	LSI IPデザイン・アワード運営委員会	広ダイナミックレンジを有するエッジ検出ビジョンチップ
一般教科	勢田 勝郭	平成14年11月	平成14年国立高等専門学校協会会長奨励賞	国立高等専門学校協会	
一般教科	安田 智之	平成15年12月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	
情報工学科	松尾 賢一				
一般教科	堀内 泰男	平成16年8月	平成16年度高等専門学校教育教員研究会集會機構理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	寮生活の規律の確立～自主的な生活を指して～
一般教科	北川 誠之助				
電子制御工学科	櫻 弘明				
電気工学科	中村 善一	平成17年3月	平成16年度独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰奨励賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	
物質化学工学科	三木 功次郎				
物質化学工学科	直江 一光	平成17年8月	平成17年度教育教員研究集會文部科学大臣賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学生が主体となった小・中学生対象化学実験教室の運営とその教育効果
物質化学工学科	石丸 裕士				
一般教科	宇田 亮子	平成18年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	
機械工学科	榑原 和彦	平成18年5月	日本塑性加工学会賞教育賞	(社)日本塑性加工学会	たたら操業の再現とものづくり教育
機械工学科	小島 耕二	平成18年10月	第1回モノづくり連携大賞特別賞	日刊工業新聞社	古代製鉄法「たたら吹き」の再現と日本刀および和釘等の製造
物質化学工学科	小島 耕二	平成18年11月	第4回支部賞	(社)有機合成化学協会関西支部	機能性材料を指向したアリルシラン誘導体およびそれら関連有機化合物の合成
一般教科	嶋田 豊司	平成18年11月	教育表彰	天理市教育委員会	
電気工学科	中西 茂巳	平成19年1月	優秀論文賞	電気材料技術懇談会	高イオン導電性フッ素系ゲル電解質の電気的特性と色素増感太陽電池への応用
一般教科	武田 充啓	平成19年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生との信頼関係確立による教育活動等への貢献
物質化学工学科	宇田 亮子	平成19年5月	講演奨励賞	(社)日本化学会	光応答マラカイトグリーン界面活性剤によるペシクル形成の光制御
電子制御工学科	玉木 隆幸	平成19年9月	第29回応用物理学学会論文賞	(社)応用物理学会	Weilding of Transparent Materials Using Femtosecond Laser Pulses
機械工学科	酒井 史敏	平成19年9月	2007年度計測自動制御学会論文賞	(社)計測自動制御学会	連続時間システム同定のための耐雑音性を有する反復学習制御

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
電子制御工学科	矢野 順彦	平成19年11月	日本AEM学会奨励賞	日本AEM学会	超音波モーターと磁気粘性流体を用いたアクチュエータに関する研究
物質化学工学科	泉生一郎	平成20年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	地域に根ざして全国展開する新生国立高専への貢献
機械工学科	和田 任弘	平成20年8月	日本工学教育協会賞著作賞	(社)日本工学教育協会	教科書「機械工作法(増補)」刊行によるもの作り教育への貢献
電気工学科	芦原 佑樹	平成20年8月	Young Scientist Award	Union Radio-scientifique International	
物質化学工学科	三木 功次郎				
一般教科	北村 誠				
一般教科	榑原 和彦				
一般教科	名倉 誠				
一般教科	長瀬 潤				
一般教科	新野 康彦				
物質化学工学科	直江 一光	平成20年8月	平成20年度教育教員研究集会(学生指導分野)文部科学大臣賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	課外活動を利用した技術者教育の推進～多面的な教育効果を狙った新たな試み～
物質化学工学科	宇田 亮子				
情報工学科	松尾 賢一				
情報工学科	山口 賢一				
情報工学科	本間 啓道	平成20年8月	功労賞	高等専門学校情報処理教育研究会	
電気工学科	藤田 直幸	平成21年3月	平成20年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学内横断プロジェクトの構築による教育研究の推進
物質化学工学科	三木 功次郎				
物質化学工学科	直江 一光				
一般教科	北村 誠				
物質化学工学科	宇田 亮子				
一般教科	名倉 誠				
一般教科	長瀬 潤				
一般教科	榑原 和彦				
一般教科	新野 康彦				
情報工学科	山口 賢一				
情報工学科	松尾 賢一				
電子制御工学科	早川 恭弘	平成22年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	産学官連携及び外部資金獲得による貢献と学生教育改善
情報工学科	山口 賢一	平成22年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	課外活動を利用した学生の資質向上に向けた取り組み
一般教科	鍵本 有理	平成22年8月	平成22年度全国高専教育フォーラム・教育教員研究集会(教育研究分野)理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学生の相互評価を活用した短歌・俳句指導-国語表現の一環として-

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
物質化学工学科	三木 功次郎				
一般教科	北村 誠				
一般教科	名倉 誠				
一般教科	榊原 和彦				
情報工学科	山口 賢一	平成22年8月	平成23年度全国高専教育フォーラム・教育教員研究会(学生指導分野)文部科学大臣賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	サイエンスボランティア活動を活用した技術者教育-人間力育成を目指して-
物質化学工学科	直江 一光				
物質化学工学科	宇田 亮子				
情報工学科	松尾 賢一				
電気工学科	芦原 佑樹	平成22年9月	AP-RASC'10 Young Scientist Award	Union Radio-scientifique International, 電子通信情報学会	Estimation of Electron Density Profile in the Lower Ionospheric D Region from MF Radio Wave Observation by S-310-37 Rocket
電気工学科	藤井 治久	平成22年10月	Best Paper of Session	11th Spacecraft Charging Technology Conference	Electrostatic Discharges from Electrically Floating Electrodes under Electron Irradiation
電気工学科	藤井 治久	平成23年1月	電気材料技術懇談会第267回優秀論文賞	電気材料技術懇談会	真空中荷電粒子による絶縁材料の帯電現象
情報工学科	松尾 賢一	平成23年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生の自発性を育む実践的教育とその効果
電気工学科	石飛 学	平成23年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生の懐に飛び込んで意識改革を行う教育
物質化学工学科	宇田 亮子	平成24年1月	第7回近畿分析技術研究奨励賞	日本分析化学会近畿支部	光応答性トリフェニルメタン誘導体の分離分析化学への応用
電子制御工学科	飯田 賢一	平成24年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ロボコンを通じたものづくり教育の実践
電気工学科	宇田 亮子	平成24年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	高専の特徴を活かした教育・学生指導
一般教科	井上 次夫	平成24年8月	平成24年度全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門)優秀ポスター賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学科枠を越えて交流する読書体験発表会
一般教科	井上 次夫	平成24年8月	平成24年度全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門)優秀発表賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	論文・レポートで適切な単語文体が使用できるための教材開発
物質化学工学科	石丸 裕士	平成24年8月	平成24年度全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門)優秀発表賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	Q-Uを活用した学級経営改善に対する全学的な取り組み
一般教科	鍵本 有理	平成25年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	教科の特性を生かした多面的学生指導と学校運営
一般教科	井上 次夫	平成25年8月	論文集「高専教育」第36号 高専教育論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	読書意欲を喚起し、読書の幅を広げる読書発表会
機械工学科	谷口 幸典	平成25年10月	Outstanding Paper Award	The 4th TSME International Conference on Mechanical Engineering in AMM	Small Billet Forming of Porous Sintered Copper Sheet

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
機械工学科	見玉 謙司	平成25年10月	Outstanding Paper Award	The 4th TSME International Conference on Mechanical Engineering in AMM	Small Billet Forming of Porous Sintered Copper Sheet
物質化学工学科	片倉 勝己	平成26年8月	平成25年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰理事賞(一般部門)	独立行政法人国立高等専門学校機構	多角的な広報・国際戦略によるグローバル人材の育成
機械工学科	谷口 幸典	平成26年8月	平成25年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰分野別優秀賞(若手部門)	独立行政法人国立高等専門学校機構	「サイエンスカフェ」による学生の自己実現
情報工学科	内田 真司	平成26年8月	平成26年度 全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門・学生指導分野)優秀ポスター賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	FFS理論による新入生の特性分析
電気工学科	藤田 直幸	平成26年8月	論文集「高専教育」第37号 高専教育論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信 - 連携による女子学生の成長を目指した活動 - 技術者教育におけるオーラル・ヒストリーの活用 - 青函連絡船、羊蹄丸のオーラル・ヒストリーに取り組んだ事例 -
一般教科	竹原 信也	平成26年8月	論文集「高専教育」第37号 高専教育論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	事例 -
情報工学科	上野 秀剛	平成27年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	専攻科・大学院連携キャリア教育の実践
機械工学科	和田 任弘	平成27年8月	平成26年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 一般部門 優秀賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	教育や研究・専門性を活用した多様な社会貢献
物質化学工学科	石丸 裕士	平成27年8月	論文集「高専教育」第38号 高専論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	Q-Uを用いた高専生の価値観の解析と学習・進路に及ぼす影響
情報工学科	松尾 賢一	平成27年9月	FIT論文賞	情報科学技術フォーラム運営委員会	採点ミス発見支援システムの開発：～部分点と採点記号の認識を用いた採点ミス発見手法～
電子制御工学科	玉木 隆幸	平成27年10月	奈良教弘賞	(公財)日本教育公務員弘済会奈良支部	教育研究実践論文
機械工学科	酒井 史敏	平成27年10月	2015年度計測自動制御学会著述賞	(公社)計測自動制御学会	著書「制御工学 - 技術者のための、理論・設計から実践まで - (豊橋技術科学大学・高等専門学校制御工学教育連携プロジェクト)」
物質化学工学科	石丸 裕士	平成27年11月	サイエンス・ブライクティション賞	日本教育カウンセリング学会	
校長	後藤 景子	平成28年4月	日本油化学会学会賞	(公社)日本油化学会	汚れの洗浄に関する基礎的・応用的研究
機械工学科	谷口 幸典	平成28年5月	平成28年度(第51回)学会賞 教育賞	(一社)日本塑性加工学会	粉末冶金 - 焼結法を教材化した小中学生向け教育プログラムの開発
電子制御工学科	早川 恭弘	平成28年5月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	産学官金連携活動および外部資金獲得による貢献

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
機械工学科	見玉 謙司	平成28年5月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	産学官による医工連携事業の推進と地方創生への貢献
一般教科	名倉 誠	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
一般教科	梅本 悠莉子	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
一般教科	竹原 信也	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
情報工学科	上野 秀剛	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
機械工学科	酒井 史敏	平成28年9月	工学教育賞	(公社)日本工学会	制御工学－技術者のための、理論・設計から実践まで
一般教科	名倉 誠	平成29年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	やる気と自主性を引き出す集団作り・学生指導
電子制御工学科	中村 篤人	平成29年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	PBL教育による問題解決能力を有した技術者、研究者の養成
物質化学工学科	中村 秀美	平成30年4月	平成29年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 一般部門 理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	教育・研究を通じた地域社会貢献と人材育成の推進
一般教科	竹原 信也	平成30年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	技術者教育としての社会科教育を考えるー10年の取組とその成果ー
情報工学科	山口 賢一	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	プログラミング導入教育の地域への普及促進とセキュリティ人材確保に向けた取り組み
電気工学科	芦原 佑樹	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
物質化学工学科	伊月 亜有子	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生に寄り添った指導支援の実践
電気工学科	芦原 佑樹	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
電子制御工学科	玉木 隆幸	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生とのコミュニケーションを中心とする教育研究の実践
情報工学科	岩田 大志	令和3年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	高専間人事交流を活用したIoTシステムに関する教育研究の展開

特許等申請・取得状況

No	学科	氏名	特許出願日	出願番号	特許登録日	特許名称	特許権者
1	機械工学科	小柴 孝	2005. 02. 10	2005-034243	2007. 06. 22 (特許第3972109号)	液体の曳糸性評価方法	国立高等専門学校機構
2	電子制御工学科	早川 恭弘	2005. 12. 20	2005-365829	2009. 11. 27 (特許第4411439号)	靴底及び靴	国立高等専門学校機構
3	機械工学科	谷口 幸典 児玉 謙司	2014. 02. 28	2014-038088	2017. 02. 10 (特許第6086388号)	箔の絞り加工	国立高等専門学校機構
4	物質化学工学科	片倉 勝己	2013. 08. 29	2013-177590	2017. 08. 25 (特許第6195154号)	デンドライトの生成を抑えた亜鉛二次電池	国立高等専門学校機構
5	機械工学科	児玉 謙司	2013. 05. 24	2013-109894	2017. 10. 27 (特許第6230096号)	強磁性非磁性複合体	国立高等専門学校機構
6	電子制御工学科 電気工学科	玉木 隆幸 小野 俊介	2013. 07. 25	2013-154887	2018. 03. 23 (特許第6308733号)	レーザ加工装置および製造方法	国立高等専門学校機構
7	校長 電気工学科	谷口 研二 土井 滋貴	2015. 06. 22	2015-124380	2019. 06. 14 (特許第6539126号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構
8	校長 電気工学科	谷口 研二 土井 滋貴	2019. 5. 15	2019-091803	2020. 10. 16 (特許第6779537号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構

### 第3章 社会との連携, グローバル教育, 男女共同参画推進関係

## 公開講座実施実績一覧（令和 2 年度）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全て中止しました。

## 公開講座実施実績一覧（令和 3 年度）

講 座 名	開 催 日 時	対 象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会等
電気工学科オンライン体験授業	第1回 11月13日(土) 11:00~11:40	中学生 (1~3年)	300 (約75)	電気工学科
	第2回 11月23日(火・祝) 15:00~15:40			
	第3回 12月12日(日) 13:00~13:40			



## 令和 3 年度 学市連携事業一覧

学市連携「出前授業」「科学教室」

※令和 3 年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、大和郡山市、生駒市共に小中学校への出前授業、科学教室は実施しませんでした。

## 令和 3 年度 学市連携以外派遣事業一覧

※令和 3 年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施しませんでした。

## 令和 3 年度 展示会・地域連携事業一覧

	展示会・地域連携事業名	実施者	実施日	会場・実施場所
1	MOBIO テーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会 （「情報処理・A I」分野）	情報工学科 上野 機械工学科 福岡	7月27日（火）	クリエイション・コア東大 阪（東大阪市）
2	脱炭素を実現する夢の水素エネルギー（奈良県水素普及 啓発イベント） 科学教室「電池の仕組みを探ろう」	物質化学工学科 山田	7月31日（土）	イオンモール大和郡山 （大和郡山市）
3	MOBIO テーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会 （「環境・SDGs」分野）	物質化学工学科 中村	9月14日（火）	大阪産業創造館 （大阪市）
4	けいはんなビジネスメッセ 2021 Virtual	電子制御工学科 早川	11月11日（木） ～ 12月31日（金）	オンライン開催
5	イノベーションストリーム KANSAI 2021	電子制御工学科 早川 情報工学科 上野	11月15日（月） ～ 12月19日（日）	WEB 展示会
6	大和郡山市・阪南大学・奈良高専 3機関連携 「大和郡山城天守台プロジェクションマッピング」	情報工学科 内田 一般教科 稲田	12月4日（土）	大和郡山城 （大和郡山市）
7	ビジネスチャンス発掘フェア 2021	産学協働研究センター	1月26日（水） ～ 1月27日（木）	エディオンアリーナ大阪 （大阪市）
8	京都ビジネス交流フェア 2022	産学協働研究センター	2月17日（木） ～ 2月18日（金）	京都パルスプラザ （京都市）

施設開放状況一覧

年度	日付	使用目的	使用団体	選択教室5	教室(5E)	大規模教室	本館LR	大会議室	プール更衣室	第1体育館	第2体育館	陸上競技場	インフラ	テニスコート	7-7コート
H29年度	H29.5.14	第67回市民体育大会	大和郡山市体育協会											300	300
	H29.5.14	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H29.5.21	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H29.6.11	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H29.6.18	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H29.7.9	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H29.6.11	奈良県家庭婦人バレーボールクラブ 協議会北部ブロック春季親善大会	奈良県家庭婦人バレーボールクラブ 協議会北部ブロック大和郡山支部							200	200				
	H29.12.17	第25回大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会	0	0	0	0	0	0	200	200	0	300	300	300
<b>小計</b>				0	0	0	0	0	0	200	200	0	700	300	300
H30年度	H30.5.13	第68回市民体育大会	大和郡山市体育協会							300	300			300	300
	H30.5.13	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H30.5.20	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H30.6.17	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H30.7.15	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	H30.12.16	第26回大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会											250	
<b>小計</b>				0	0	0	0	0	0	300	300	0	570	300	300
R1年度	R1.5.12	第69回市民体育大会	大和郡山市体育協会							300	300			300	300
	R1.5.19	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	R1.5.26	奈良県サッカー社会人リーグ	奈良県サッカー社会人リーグ											80	
	R1.10.5	第50回市民陸上競技大会	大和郡山市体育協会											200	
	R1.12.15	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会											250	
<b>小計</b>				0	0	0	0	0	0	300	300	0	610	300	300
R2年度		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため貸出実績なし													
<b>小計</b>				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3年度	R3.5.9	第70回市民体育大会	大和郡山市体育協会											100	100
	R3.6.20	第70回市民体育大会(アーチェリーのみ)	大和郡山市体育協会											20	20
	R3.7.18	第70回市民体育大会(アーチェリーのみ)	大和郡山市体育協会											20	20
	R3.8.7	第45回やまどの夏まつりサブライズ	大和郡山市商工会											20	
	R3.8.8	第45回やまどの夏まつりサブライズ	大和郡山市商工会											20	
	R3.12.12	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会											200	200
<b>小計</b>										0	0	0	240	100	140
<b>年平均</b>				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	160.00	160.00	0.00	424.00	200.00	208.00
<b>合計</b>				0	0	0	0	0	0	800	800	0	2120	1000	1040

留学生年度別受入一覧表

年度	機械工学科		電気工学科		電子制御工学科		情報工学科		物質化学工学科		計		在籍数		退学数		卒業数		備考
	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	進学	帰国就職	
29									1	1	1	1	4			4			
									マレーシア	マレーシア	2	11						4	
30							1			1	1	3	3				5		
							ラオス			マレーシア	4	11						5	
1									1	1	1	1	3				1	1	
									モンゴ		2	8						2	
2									1	1	2	2	4				2	2	
									インドネ	インドネ	4	10						4	
3									1	1	1	2	4				1	1	
									インドネ	インドネ	3	9						2	

国際交流 派遣・受入事業一覧

令和2年度 オンライン国際交流

	日程	事業名	参加学生		相手先	
			学年	人数	国・地域	学校名
1	令和2年6月23日(火) ～ 8月6日(木)	ビデオカンファレンス	本科1～5年	19名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guoguang Laboratory School)
2	令和2年8月27日(木) ・ 11月16日(月) ・ 11月24日(火)	Asian Youth Forum 2020 ウェブナー (ウェブセミナー)	本科2年 (2M 1名, 2I 3名, 2C 1名)	5名	台湾, 韓国, ベトナム, インドネシア	奈良女子大学附属中等教育学校他, 台湾, 韓国, ベトナム, インドネシアのAYF参加校
3	令和2年10月9日(金) ～ 2月5日(金)	E-palプロジェクト	本科1～5年	30名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guoguang Laboratory School)
4	令和2年11月7日(土) ・ 11月21日(土)・12月5日(土) ・ 12月19日(土)・1月9日(土)	ISTS / JSTS2020代替プログラム SDGs Webinar 2020 ー“今”を捉えて創造する新しいSDGsー	本科5年, 専攻科1年 (5M 1名, 1AM 2名)	3名		SDGs Webinar 2020 参加高専及び参加技科大
5	令和2年11月7日(土)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	40名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
6	令和2年12月11日(金)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	38名	シンガポール	リパブリック ポリテクニク
7	令和2年12月19日(土)	レゴを活用した英語コミュニケーションワークショップ	本科1～5年	29名		
8	令和3年3月29日(月)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	14名	香港 シンガポール	香港VTC 香港專業教育學院 リパブリック ポリテクニク

令和3年度 オンライン国際交流

	日程	事業名	参加学生		相手先	
			学年	人数	国・地域	学校名
1	令和3年4月22日(木) ～ 5月20日(木)	ビデオカンファレンス	本科1～5年	20名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guoguang Laboratory School)
2	令和3年8月6日(金) ・ 8月11日(水)	Asian Youth Forum 2021 ウェブナー (ウェブセミナー)	本科1～4年 (1M, 1I, 2I, 2C, 4C)	5名	台湾, 韓国, ベトナム, インドネシア	奈良女子大学附属中等教育学校他, 台湾, 韓国, ベトナム, インドネシアのAYF参加校
3	令和3年5月27日(木) ～ 1月31日(月)	オンライン異文化交流プロジェクト	本科1～5年	5名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guoguang Laboratory School)
4	令和3年9月13日(月) ～ 9月15日(水)	オンラインGECEPサマースクール	本科1～5年	43名	香港	香港VTC 香港專業教育學院
5	令和3年9月6日(月)・9月9日(木) ・ 9月16日(木)・9月30日(木) ・ 10月7日(木)・10月14日(木) ・ 10月21日(木)・10月28日(木) ・ 11月4日(木)・ 11月11日(木) ・ 11月18日(木)・ 11月25日(木) ・ 11月26日(金)	オンライン海外協働研修	本科1～5年	5名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
6	令和3年10月29日(金) ・ 11月12日(金)・ 11月19日(金) ・ 11月26日(金)・ 12月17日(金)	ロボテクスオンラインセミナー	本科1～5年	8名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
7	令和4年1月4日(火)	オンラインGECEPウィークスクール	本科1～5年	13名	アメリカ フランス	GOOGLE DATA Center International Thermouclear
8	令和4年1月6日(木) ～ 1月8日(土)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年	16名	シンガポール	ナンヤン ポリテクニク
9	令和4年3月28日(月) ～ 3月30日(水)	オンラインGECEPスプリングスクール	本科1～5年	29名	アメリカ	TESLA, SPACE X

令和2・3年度は移動を伴う海外派遣および海外からの学生受入なし

## 資料 54

## 教員の兼業状況

年 度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
承認件数	4 0 件	5 1 件	4 2 件	5 3 件	5 3 件

## 資料 55

## 非常勤講師の配置状況

(令和 3 年度)

学 科	科目等	人数 (延べ)	授業時間数/週		備 考
			前期	後期	
一般教科	社 会	2	8	8	歴史，現代社会と法，政治経済
	体 育	1	6	4	保健・体育Ⅱ，体育実技
	数 学	2	1 2	1 0	数学特論 α，応用数学 α，応用数学 β
	物 理	3	1 8	1 8	物理Ⅱ，応用物理Ⅰ，応用物理Ⅱ
	生 物	1	6	4	生物
	芸 術	2	0	1 2	美術，音楽
	英 語	3	1 2	1 8	英語Ⅰ (R)，英文法Ⅰ，英文法Ⅲ コミュニケーション英語
情報工学科	—	3	6	4	ソフトウェア工学，データ構造とアルゴリズム， マルチメディア情報処理，
専攻科	—	3	4	2	技術者倫理，アドバンスト・グローバル・エンジニア スキル
留学生	日本語	1	4	4	留学生の日本語
	電 気	1	2	2	電磁気学，電気回路
	計	2 2	7 8	8 6	

## 授業アンケート結果総括（令和3年度）

## 【授業内容に関する質問】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
1	担当教員の指導（話し方・問いかけ・指示・板書等）は適切であり、授業の進行や内容は整理されていて理解し易かったと思いますか。	3.31	3.28	3.34	3.28	3.27	3.39
2	担当教員は学生の理解度を確認しながら授業を進めていたと思いますか。	3.22	3.21	3.30	3.16	3.16	3.31
3	授業の進め方や授業内容は、最初の授業で説明されたシラバスに沿っていたと思いますか。	3.37	3.34	3.36	3.36	3.37	3.45
4	授業の形態（講義、演習、実験、実習、グループワーク等）は内容を理解するうえで適切であり、到達目標（シラバス参照）を達成するための工夫があったと思いますか。	3.28	3.26	3.32	3.25	3.24	3.32
5	授業で使用した教材（教科書・参考図書・配付資料・課題・宿題等）は、内容を理解するうえで適切であったと思いますか。	3.28	3.23	3.33	3.26	3.25	3.38

設問1～5 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

## 【検証】

- ・いずれの設問においても「そう思う」、「ややそう思う」の回答が多く平均点が高い。各授業の内容に関して概ね設問にかかる内容は満たしている。
- ・いずれの設問においても学科間の大きな差は認められない。

## 【自学自習と学習時間】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
6	あなたは授業概要の把握、予習のために、積極的にシラバスを活用できたと思いますか。	2.74	2.76	2.81	2.80	2.56	2.81
7	あなたはこの授業の内容を理解するために努力（予習・復習、質問等）をして、積極的に内容の理解を目指す行動がとれたと思いますか。	2.99	2.99	3.02	2.98	2.94	3.03
8	あなたがこの科目の学習を行った時間（授業時間、予習・復習、宿題、試験勉強等含む）はどのくらいですか。週当たりの平均値で答えてください。	2.35	2.33	2.25	2.37	2.41	2.40

設問6、7 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

設問8 180分以上（4点）、120分～180分（3点）、60分～120分（2点）、60分未満（1点）

## 【検証】

- ・概ね授業内容を理解するための努力をしているものの、各個人の週当たりの学習時間は120分未満に近い。
- ・週当たりの学習時間は実質昨年とほとんど変化が見られない。
- ・シラバスの使用は、平均は悪くはないものの改善の余地がある。積極的に活用できるようにさらなる周知が必要である。
- ・いずれの設問においても学科間の差は認められない。

## 【学習到達度、学習満足度】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
9	あなたはこの授業でどの程度到達目標を達成できましたか。優・良・可の基準で自己評価してください。	2.91	2.77	3.02	2.95	2.86	2.93
10	あなたのこの授業に対する総合的満足度はどのくらいですか。	3.21	3.19	3.26	3.20	3.31	3.27

設問9 優（4点）、良（3点）、可（2点）、不可（1点）

設問10 満足（4点）、やや満足（3点）、やや不満足（2点）、不満足（1点）

## 【検証】

- ・達成度では0.6点、満足度では0.9点、昨年度に比べ下がっている。
- ・設問9 到達目標は比較的「優」「良」の回答が多い。科目によっては「可」を半数程度選択している授業もあり、授業によりばらつきがある。
- ・設問10 満足度はほとんどの授業で3点を超えており、学生は概ね授業に対して満足しているものと考えられる。
- ・いずれの設問においても学科間の差は認められない。
- ・自由記述回答に記入している学生は全体的に少なく、今後も同様の傾向が見られる場合は、活用方法について検討が必要となる。

## 【web アンケートについて】

昨年度と同様 web によりアンケートを行ったが、授業によって回答数にばらつきがあり、統計データの信頼性としては少し疑問が残った。web アンケートに移行して2年目ということもあり、まだ定着していない部分もあるが、web アンケートの回答数を増やすための対策が必要である。

## 令和3年度卒業生・修了生アンケートの集計結果について

### 【調査目的】

卒業・修了を迎える学生の高専への満足度や自分自身の達成感、成長実感を把握することで、より良い教育を提供するための高専の教育改善に活用することを目的とする。

### 【実施年】

令和4年2月

### 【調査対象】

本科5年生及び専攻科2年生

### 【調査方法】

Microsoft365 Forms によるアンケート形式

### 【アンケート項目】

#### <高専満足度－1>

高専生活を振り返って、下記項目ごとの高専の満足度を5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・一般科目の授業      ・専門科目の授業      ・実験実習等
- ・卒業研究や特別研究等での研究指導      ・就職・進学に関する指導や支援

#### <高専満足度－2>

高専生活を振り返って、下記項目ごとの高専の満足度を5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・授業外の学習支援      ・クラブ活動や課外での活動      ・学生生活の指導や支援
- ・寮での指導や支援

#### <自分自身の達成感>

高専生活を振り返って、下記項目ごとの自分自身の達成感を5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・授業等の学習      ・卒業研究や特別研究等の研究活動
- ・進学・就職に向けた取り組み

#### <自分自身の成長実感>

高専生活を通して、下記項目について入学時点に比べて自分自身が成長した（身につ

けた)と感じているかを5段階で評価してください。本科は5年間での成長を、専攻科は専攻科2年間での成長について評価してください。

- ・実践的技術者に必要な基礎知識や技術
- ・修得した専門知識や技術を社会に還元できる力
- ・コミュニケーション力と人間力(社会人基礎力)
- ・自ら学ぶ力
- ・物事を論理的に思考・表現することができる力

#### <総合満足度>

高専生活全体を振り返って、総合的な満足度を自分のキャリア形成(卒業後の自分の考え方・生き方)に役立ったか、これからも役立ちそうかどうかを5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・思い描いていた卒業後の将来像実現のために、高専生活は役立ちましたか?
- ・高専生活は、これからのキャリア形成に役立ちそうですか?

#### 【本校学生のアンケート結果】

##### <高専満足度-1>

一般の授業、専門の授業、実験実習、卒業研究、就職進学に関する指導の満足度については平均が4点(5点満点)となっている。一般の授業、専門科目の授業に関しては、平均よりわずかに低いが、ほぼ誤差範囲である。

##### <高専満足度-2>

授業外の学習支援、クラブ活動、学生生活のサポート、寮のサポートなど学習外の満足度の平均が3.4点(5点満点)となっている。寮での指導や支援が平均点より低くなっており、改善の余地があると考えられる。

##### <自分自身の達成感>

自分自身の達成感に関しては平均が3.8点(5点満点)となっている。授業等の学習に関しては、平均よりわずかに低いが、ほぼ誤差範囲である。

##### <自分自身の成長実感>

自分自身の成長実感は(実践的技術者に必要な基礎知識や技術、修得した専門知識や技術を社会に還元できる力、コミュニケーション力と人間力(社会人基礎力)、自ら学ぶ力)については、平均3.8点となっている。自ら学ぶ力が平均よりわずかに低いが、ほぼ誤差範囲である。



<総合満足度>

思い描いていた卒業後の将来像実現に，高専生活が役立ったか，高専生活はこれからのキャリア形成に役立ちそうかについては平均3.9点となっている。キャリア形成の方が将来像実現よりも若干満足度が高くなっている。

## 2021年度 授業チェックシート

授業科目			開講時期	
対象クラス				
担当者名			記入日	

以下の事項を記入してください。(リストから選択、一部自由記述)

1. 学生に授業科目の学習到達目標・教育方法等の説明をしましたか？					
2. 開講時にシラバスの内容を説明しましたか？					
3. 授業はシラバスの内容・授業計画に沿って実施しましたか？					
4. 適切な教材を用いていますか？					
5. 学生の授業中の反応をチェックして、活用していますか？					
6. 課題・レポート・小テスト等を適切に実施しましたか？					
7. 成績はシラバスの評価割合に従って評価しましたか？					
8. (学修単位科目のみ)授業時間以外の学習の指導とその評価をしましたか？					
9. 成績評価の根拠資料(定期試験、小テスト、課題など)は適切に保存していますか？					
10. 学生の興味や理解度を高める工夫をしましたか？					
(「はい」の場合は具体的な内容を記入してください。)					
11. 授業アンケートや公開授業などの点検結果を来年度の授業に反映しますか？					
(「はい」の場合は具体的な内容を記入してください。)					
12. 学生が授業に自律的に取り組む試みを行っていますか？ (例えば、創造性を養う、能動的に授業参加する、授業時間外の学習を促すなど)					
(「はい」の場合は具体的な内容を記入してください。)					
13. 試験・レポート・課題の回数および返却率について (レポートなどは書き直しや修正など教育的なやりとりがなされていれば、最終版そのものを返却する必要はない)					
定期試験	回数:                      回                      返却率:                      %				
小テスト・口頭試問	回数:                      回                      返却率:                      %				
レポート・課題等	回数:                      回                      返却率:                      %				
14. 授業時間外に行った学習指導等について (○をつけてください)					
オフィスアワー	<input type="checkbox"/>	学力補充の補講	<input type="checkbox"/>	課題・レポート指導	<input type="checkbox"/>
補充試験・追実験	<input type="checkbox"/>	その他	<input type="checkbox"/>		
15. 授業改善で効果的な成果があった事例があれば記入してください					

令和3年度 授業チェックシート集計結果

学科等	設問番号・内容														はい/総数					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	16	17	18	19	20	
	学生に授業目標・学習目標・教育方針等の説明をされましたか？	開講時にシラバスの内容を説明しましたか？	授業はシラバスの内容・授業計画に沿って実施しましたか？	適切な教材を用いていますか？	学生の授業中の反応をチェックして活用していますか？	課題・レポート・小テスト等を適切に実施しましたか？	成績はシラバスの評価基準に基づいて評価しましたか？	(学修単位の目的) 授業時間以外の学習の指導をしましたか？	成績評価の根拠資料(定期試験、小テスト、課題など)は適切に採点していますか？	学生の興味や理解度を高める工夫をしましたか？	授業の進度や内容の点検・見直しを授業に反映しますか？	授業に授業に自発的に取り組む学生はいますか？	オフイスアワー	学力補充の補講	課題・レポート	追試験・追実験	その他			
本 科	国語	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	25/28	0/0	28/28	28/28	28/28	19/25	28/28	25/28	28/28	28/28	0/28	28/28	5/28	0/28
	社会	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	34/34	35/35	28/35	28/35	23/35	21/35	0/35	30/35	30/35	0/35	30/35	25/35	0/35
	英語	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	17/17	35/39	39/39	28/39	28/39	26/39	39/39	39/39	0/39	13/39	13/39	4/39
	体育	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	15/15	15/15	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	10/25	13/25	0/25	0/25
	数学	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	8/8	37/37	37/37	37/37	37/37	17/37	37/37	37/37	18/37	37/37	22/37	0/37
	理科	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	17/37	37/37	37/37	0/37	17/37	11/37	0/37
	芸術	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	0/10	0/10	0/10	5/10
	機械	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	23/27	39/39	38/39	35/39	32/39	25/39	7/39	14/39	7/39	14/39	8/39	4/39
	電気	43/43	43/43	43/43	43/43	43/43	43/43	43/43	22/24	42/43	43/43	31/43	37/43	29/43	42/43	30/43	42/43	30/43	23/43	10/43
	電子制御	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	20/20	32/32	32/32	26/31	25/30	29/32	29/32	25/32	1/32	25/32	19/32	1/32
情報	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	32/32	23/23	32/32	32/32	22/32	24/32	20/32	20/32	23/32	15/32	23/32	13/32	1/32	
物質化学	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	37/37	9/10	37/37	37/37	33/37	28/37	31/37	11/37	27/37	11/37	27/37	15/37	0/37	
小計	394/394	394/394	394/394	394/394	394/394	392/394	391/394	196/203	389/394	380/394	312/390	305/392	264/394	104/394	257/394	154/394	26/4%	65.2%	39.1%	6.3%
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.5%	99.2%	96.6%	98.7%	96.4%	80.0%	77.8%	67.0%	26.4%	65.2%	39.1%	65.2%	39.1%	6.3%	
専 攻 科	社会	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	0/2	2/2	0/2	2/2	0/2	1/2	
	英語	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	1/1	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	1/2	1/2	0/2	1/2	1/2	0/2	
	体育	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	
	数学	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	0/1	1/1	0/1	0/1	
	理科	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	0/2	2/2	0/2	0/2	
	機械	7/7	7/7	7/7	7/7	7/7	7/7	7/7	7/7	7/7	7/7	7/7	6/7	6/7	7/7	0/7	6/7	3/7	0/7	1/7
	電気	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	12/12	14/14	14/14	10/14	13/14	4/14	0/14	3/14	0/14	0/14	0/14	0/14
	電子制御	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
	情報	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	4/5	4/5	0/5	0/5	2/5	0/5	0/5
	物質化学	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	12/14	14/14	12/14	12/14	10/14	0/14	10/14	1/14	3/14
小計	47/47	47/47	47/47	47/47	47/47	47/47	47/47	47/47	47/47	47/47	40/47	45/47	30/47	0/47	23/47	0/47	23/47	2/47	5/47	
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	85.1%	95.7%	63.8%	0.0%	48.9%	0.0%	48.9%	4.3%	10.6%	
合計	441/441	441/441	441/441	441/441	441/441	439/441	438/441	240/247	436/441	427/441	352/437	350/439	294/441	104/441	280/441	156/441	66.7%	63.5%	35.4%	6.8%
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.5%	99.3%	97.2%	98.9%	96.8%	80.5%	79.7%	66.7%	23.6%	63.5%	35.4%	66.7%	35.4%	6.8%	

【評語】  
・問8は今年度初めて設定したチェック項目（「学修単位の科目について授業時間以外の学習の指導とその評価をしましたか？」）である。97%の科目で実施されており、学修単位のふさわしい指導がなされていると言える。  
・他の16項目の集計結果のうち、8項目が昨年よりポイント数が下がった。下がったのは、問11が5ポイント、問12が6ポイント、問14の課題レポートが1ポイント下がった。  
令和2年度は遠隔授業になることが多く、課題・レポートなどが多かつたが、対面授業が増えた昨年は、課題や自発的取り組みを促す指導が減ってしまったと言える。令和2年度は課題が多くて疲弊していた学生もいたため、過度な課題を設定などについて、教務委員会、専攻科委員会から周知いただくことにする。

1. 集計結果

回答数 76 名 (校長、再雇用教員含む全教員)

図 1 ~ 図 8 に件数と人数分布の関係を示す。

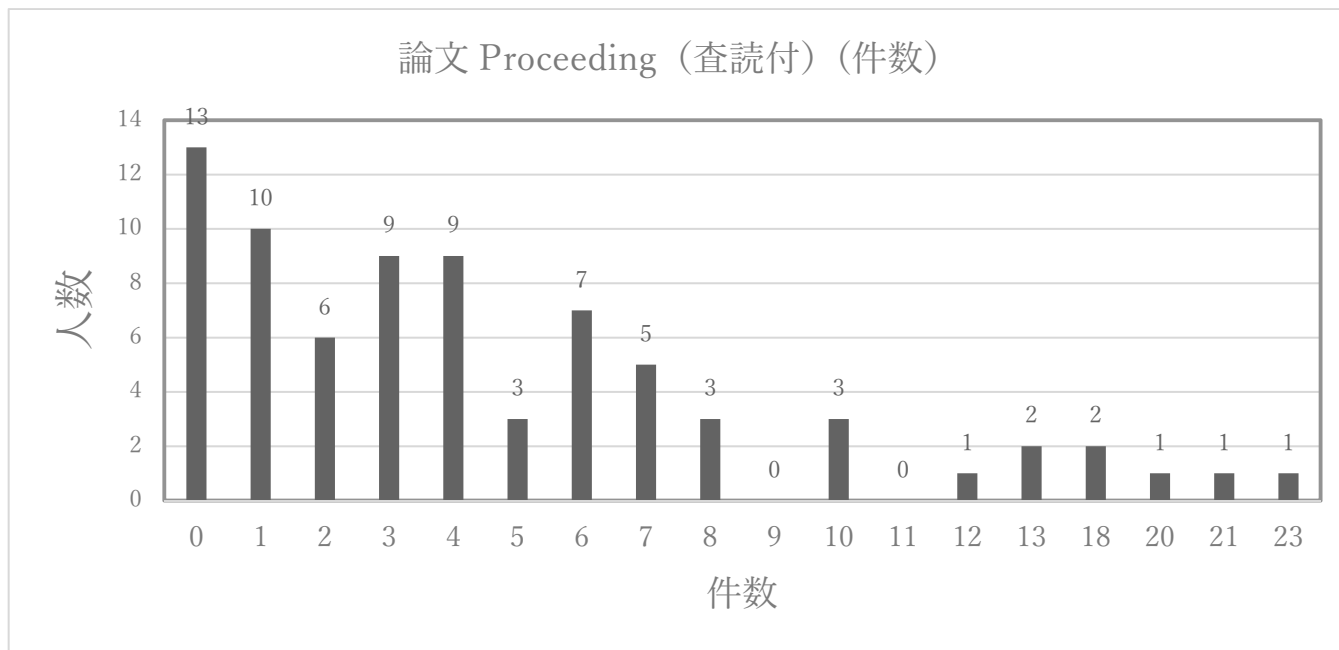


図 1 論文など (査読付) の件数の人数分布

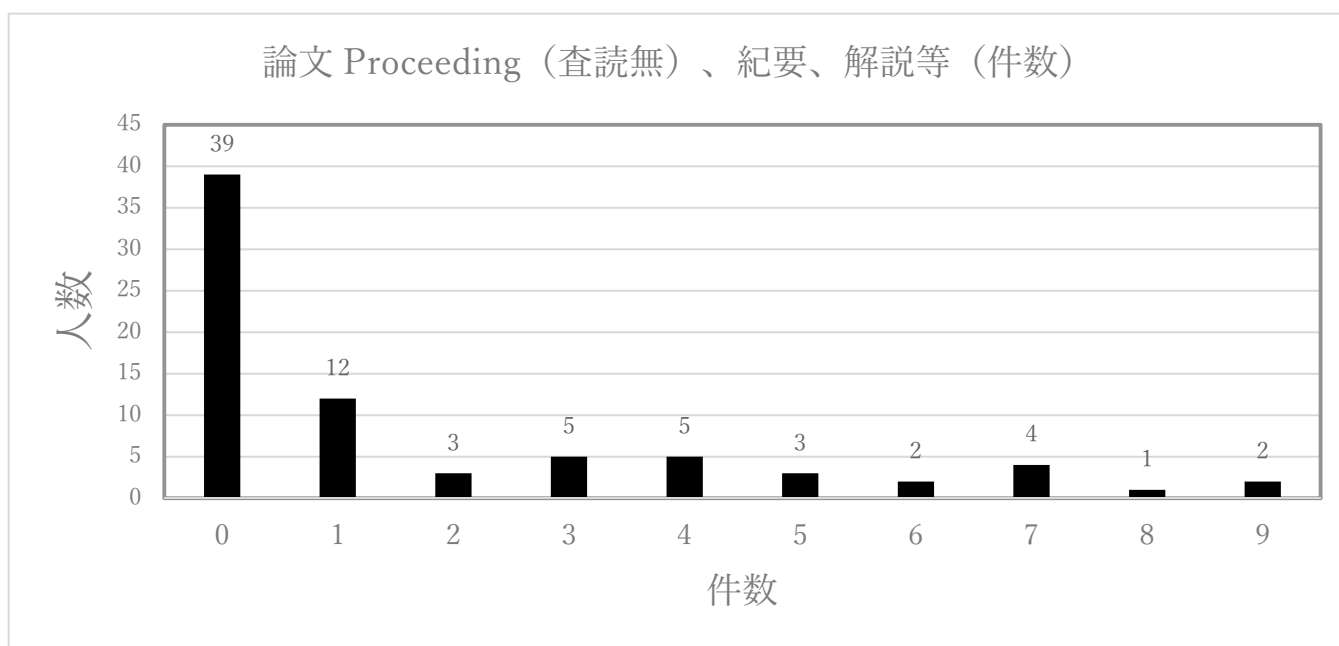


図 2 論文など (査読無し) の件数の人数分布

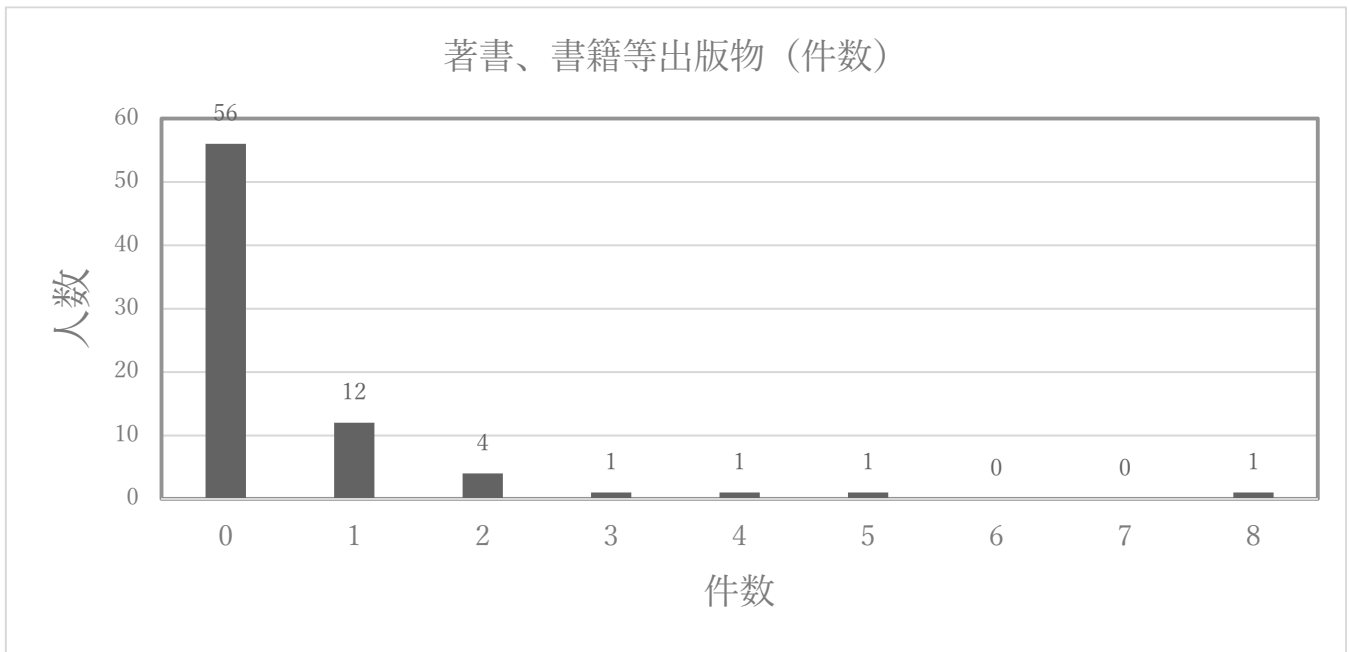


図3 著書等の件数の人数分布

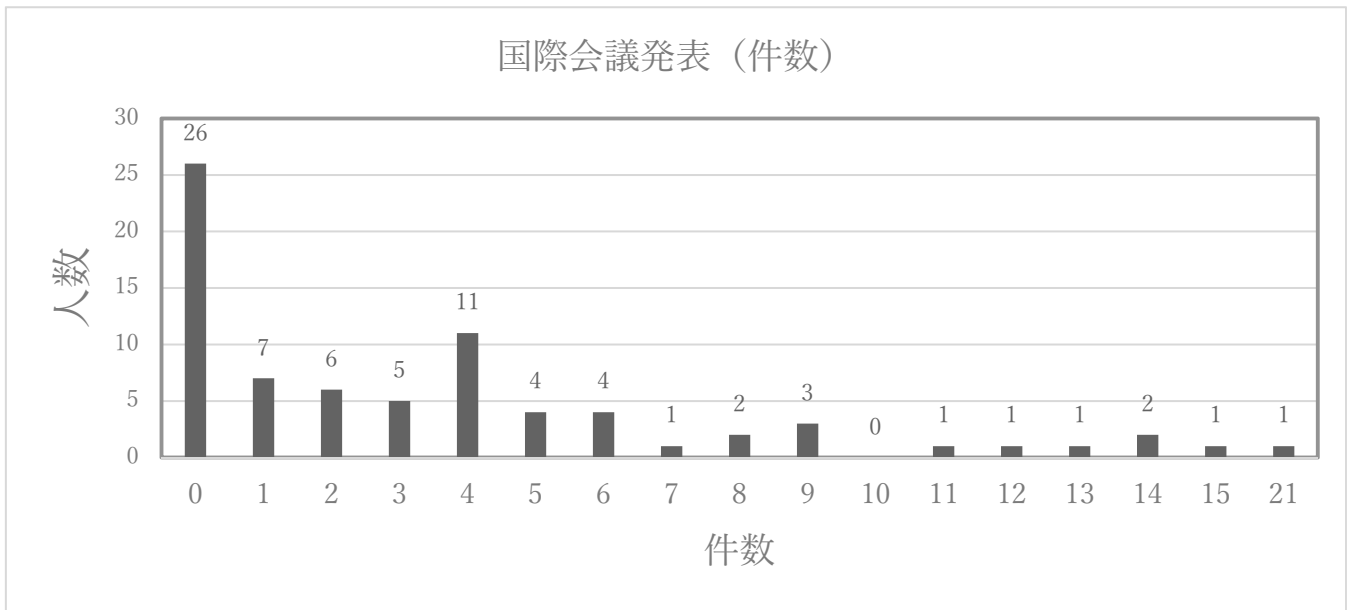


図4 国際学会発表件数の人数分布

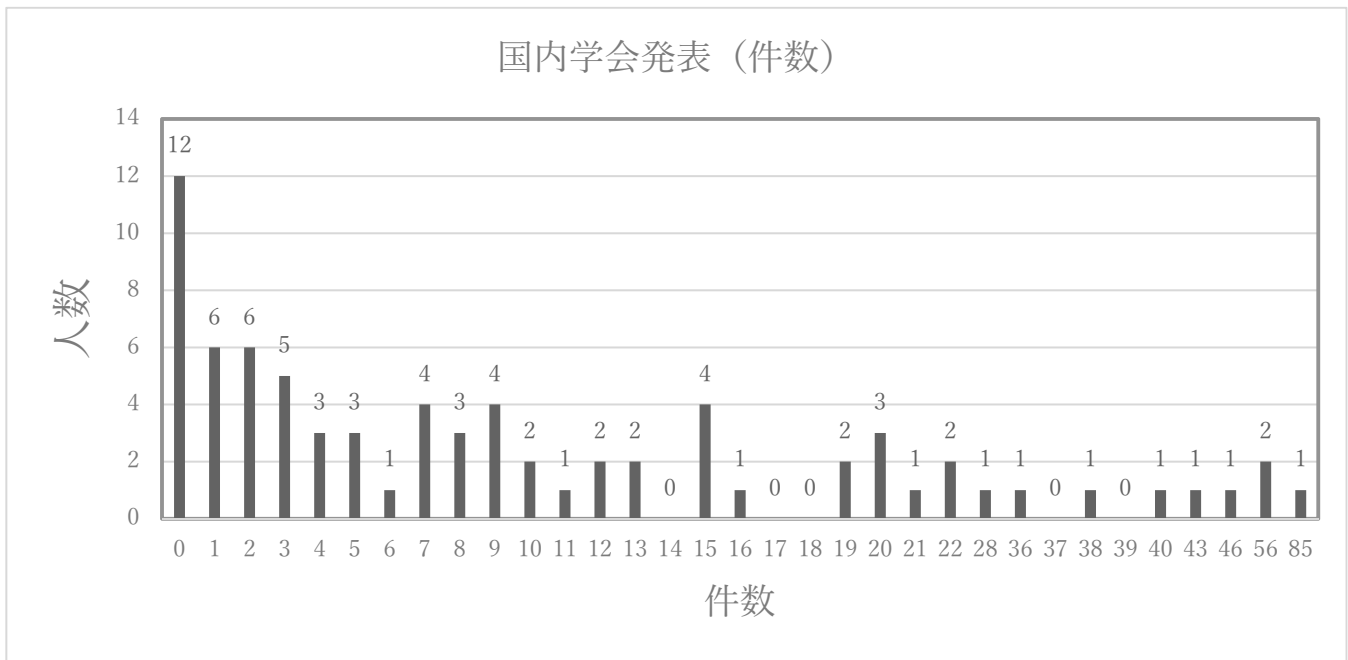


図5 国内学会発表件数の人数分布

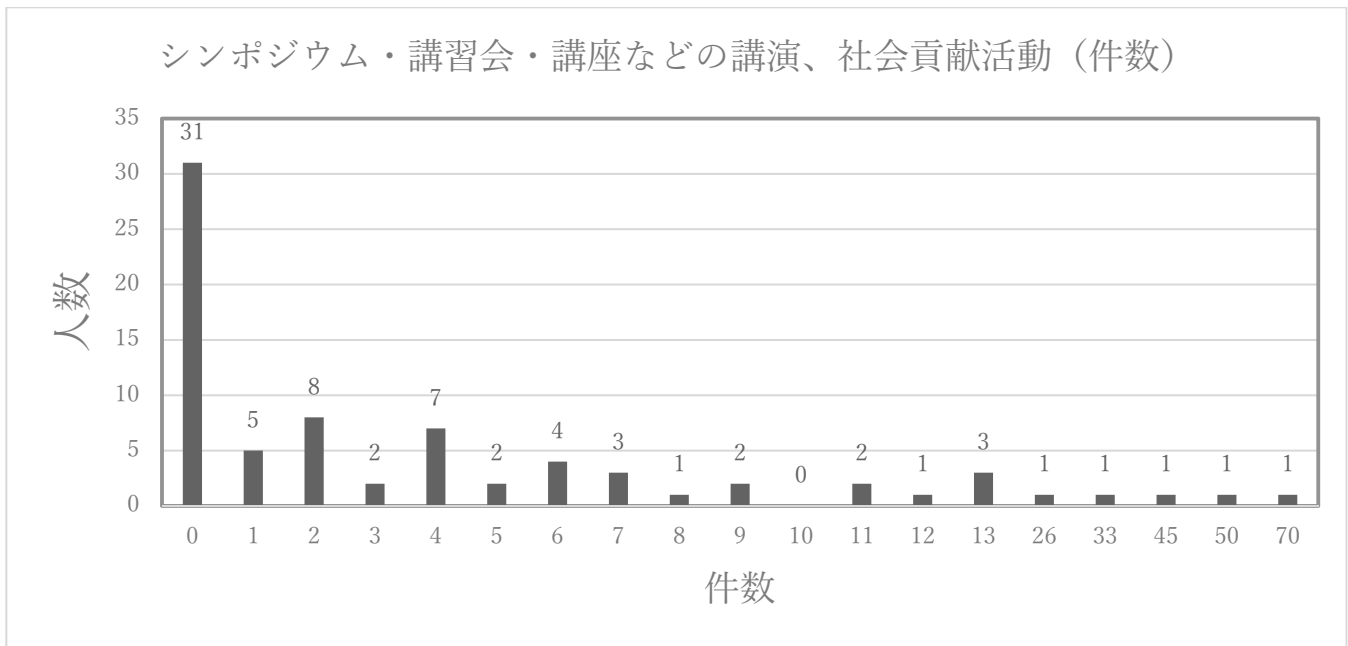


図6 講習会・社会貢献等件数の人数分布

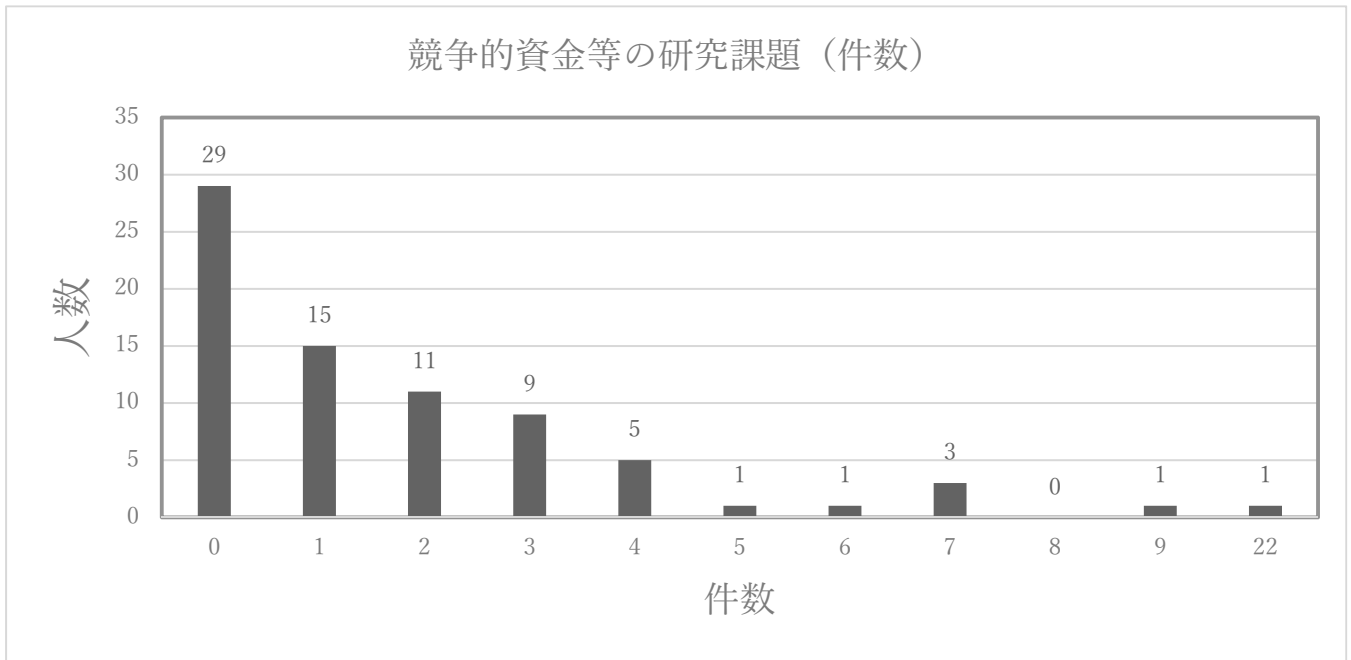


図7 競争的資金等の研究課題件数の人数分布

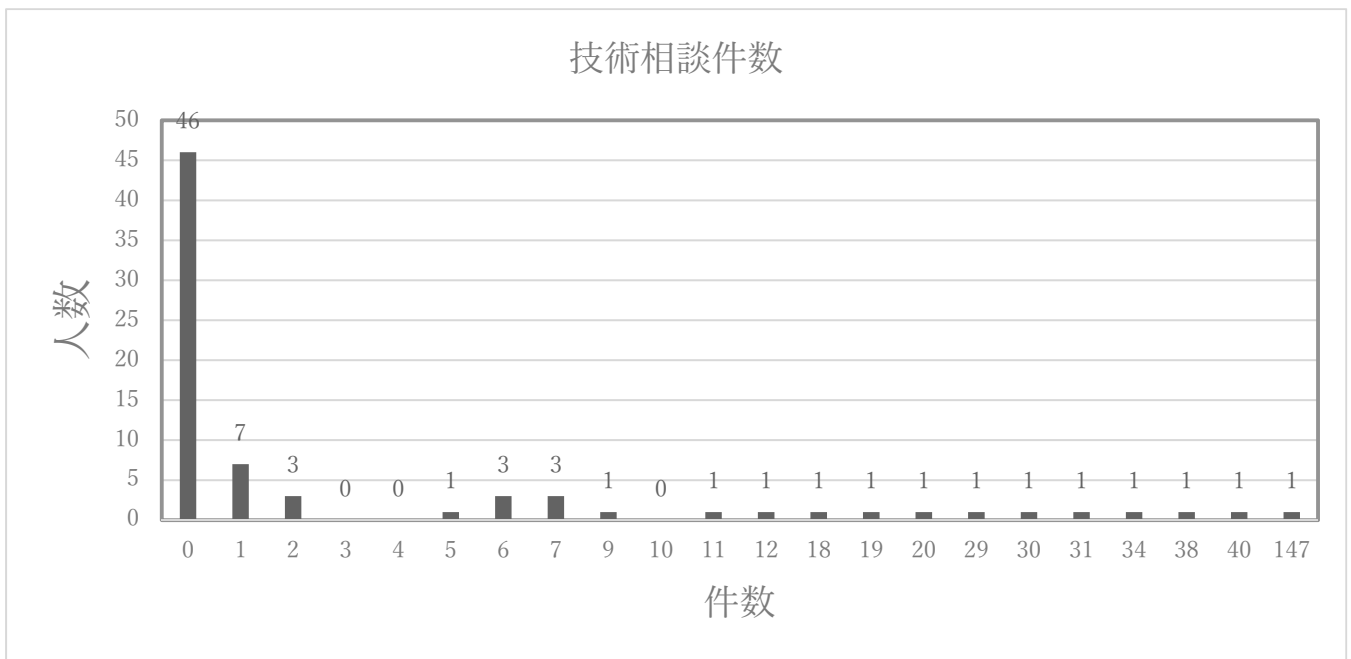


図8 技術相談件数の人数分布

表1 学科別の集計（5年間の一人当たりの件数）

一人当たりの件数	L	M	E	S	I	C	全体	校長
論文 Proceeding (査読付)	2.3	6.8	3.1	4.6	4.3	8.9	4.6	23
論文 Proceeding (査読無)、紀要、解説等	2.0	4.0	0.6	2.4	1.1	0.3	1.7	7
著書、書籍等出版物	0.8	0.6	0.1	0.1	0.9	0.3	0.5	2
国際会議発表	1.4	5.0	2.5	2.8	4.5	7.3	3.6	4
国内学会発表	1.5	12.8	11.1	12.5	17.5	24.9	11.8	20
シンポジウム・講習会・講座などの講演、社会貢献活動	5.6	3.9	13.0	2.8	4.4	4.3	5.7	4
競争的資金等の研究課題	0.7	1.7	3.7	1.9	1.3	2.8	1.9	7
技術相談件数	0.0	7.3	5.0	10.4	5.4	17.0	6.6	2

## 2. 経年変化と分析

2009年～2017年度までの集計と今回の2016～2020年度の集計を元に、経年変化を図9～12に示す。2009～2013年の件数を基準にして、そこからの変化分を示している。論文は、査読あり、無し共に増加の傾向が見られた。国内学会、国際学会の発表件数は、減少している。論文増加の原因は、①特例認定のための研究業績積み増しの活動、②学内のいくつかの連携研究の成果、③コロナ禍のため口頭発表の機会が減り、論文執筆に充てられたなどが考えられる。一方、発表件数の減少は、コロナ禍のため口頭発表の機会が減ったことなどが影響していると考えられる。しかし、いずれも、細かなデータは収集しておらず、詳細は不明である。

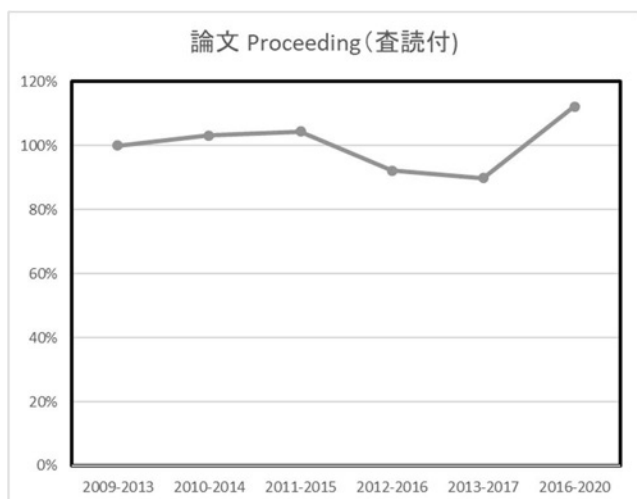


図9 論文など（査読付）の件数の経年変化

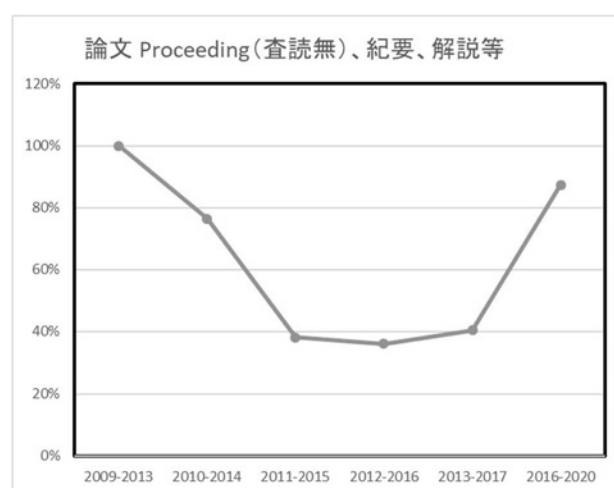


図10 論文など（査読なし）の件数の経年変化



図11 国内学会発表件数の経年変化

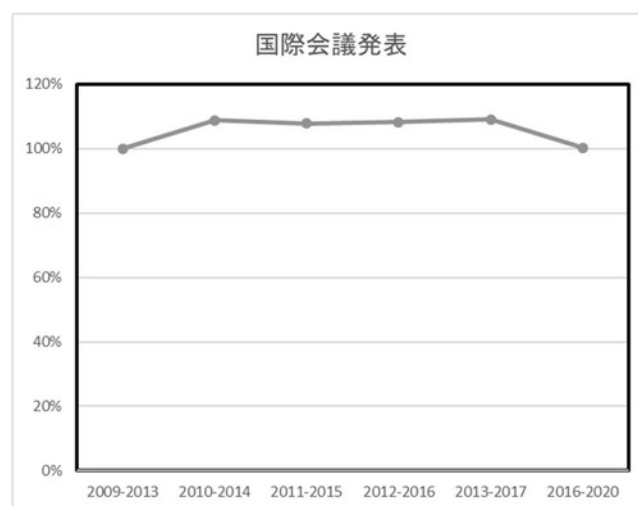


図12 国際学会発表件数の経年変化



## あ と が き

教育・研究の高度化，教育機関の個性化・多様化，教育の成果（アウトカムズ）の可視化，組織運営の活性化等の要求から高等教育機関における内部質保証システムの重要性は今後益々高まっていくであろう。本報告書は，本校の内部質保証の評価点検結果をまとめたものであり，各部門の総括と重点課題，各学科の総括，機関別認証評価の観点に合わせた自己点検評価からなる本文編と，関係する資料からなる資料編で構成されている。

今年度は主に，本文はR3年4月からR4年3月まで，資料はH29年4月からR4年3月までの5年間を対象としてまとめている。

本校は外部評価として，運営諮問会，認定専攻科審査，専攻科特例認定審査，機関別認証評価等を受けている。H17年から日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けていたシステム創成工学教育プログラムは，R3年度をもって認定を終えた。これまでのJABEE受審で確立した教育の自己点検システムは，本校の内部質保証システムへと発展的に取り入れられている。

年1回実施される運営諮問会では毎年テーマを設定しており，本年度は「数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて（仮題）」を予定している。本校では，文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の認定を目指しており，現在構築中のプログラムについて，委員の皆様のご意見をいただく予定である。

今後も本校教職員が一丸となり，本校の教育研究活動をさらに改善，発展させていくが，この報告書がその一助になると期待している。

最後に，ご多忙の中，本報告書の執筆，編集にご尽力頂きました教職員の方々に深甚な謝意を表します。

令和4年10月

奈良工業高等専門学校 校長補佐（総務担当） 藤田 直幸

奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題  
—自己点検・評価報告書—

令和4年10月発行

編 集 奈良工業高等専門学校総務委員会  
発 行 独立行政法人 国立高等専門学校機構  
奈良工業高等専門学校  
〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町2-2  
TEL 0743-55-6013  
URL <https://www.nara-k.ac.jp/>